



DAIHATSU

01999-B2607

T A F T

取扱説明書(抜粋版)

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。

ダイハツ取扱説明書アプリのご案内

iPhone 用



App Store
からダウンロード

Android™用



Google Play
で手に入れよう

スマートフォンでご覧いただけるアプリをご提供しています。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど便利な機能を搭載しています。

- アプリケーションは iPhone または Android でご利用いただけます。
- Apple、Apple のロゴ、iPhone は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc. の商標です。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Android、Android ロゴ、Google Play、Google Play ロゴは、Google LLC の商標または登録商標です。

本書は安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を抜粋した取扱説明書です。
基本的な操作は、別冊の「クイックガイド」に記載しています。
さらに詳しい取り扱い情報は、スマートフォンでご覧いただける「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」に記載しています。
お車に乗られる際には、別冊の「クイックガイド」、「ダイハツ取扱説明書アプリ」、または「取扱説明書（詳細版）」も併せてお読みください。

▼取扱説明書（詳細版）のご案内

ダイハツ工業株式会社ホームページにて、取扱説明書（詳細版）を電子データ形式でご提供しています。

取扱説明書の提供ページで「TAFT」を選択し、閲覧してください。

取扱説明書の提供ページ

<https://www.daihatsu.co.jp/service/torisetu/index.htm>

なお、取扱説明書（詳細版）の紙書籍をご用意しています。
ご購入を希望される方は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ご愛車のために

お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。

- 車の仕様変更により、本書の内容やイラストがお車と一部異なる場合がございますがご了承ください。
- 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
- ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

本書の内容について

- お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
- ダイハツサービス工場で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 計器の見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

お車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

知っておいていただきたいこと

不正改造について

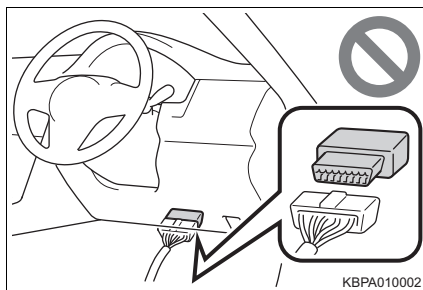
- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機の取り付け・取り外し
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあります。
RF 送信機の取り付けについては P. 4 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。ダイハツ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してダイハツは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDRデータの情報開示

次の場合を除き、ダイハツはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI※ コンピューター
- スマートアシスト
- VSC
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の実装に関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※ “EFI” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

ダイハツサービス工場で専用の電子カードキーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 192）の機能が利用可能になります。詳細については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



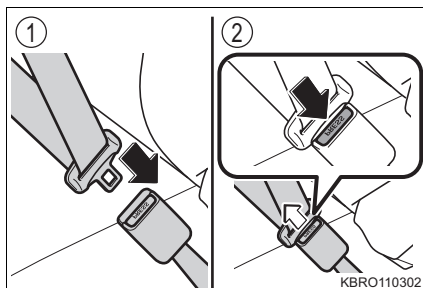
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

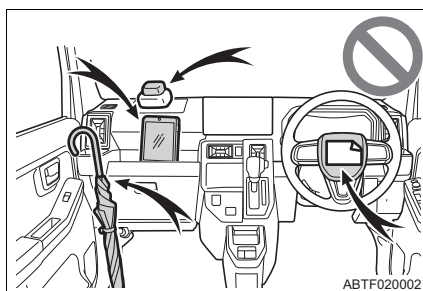
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

⇨: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

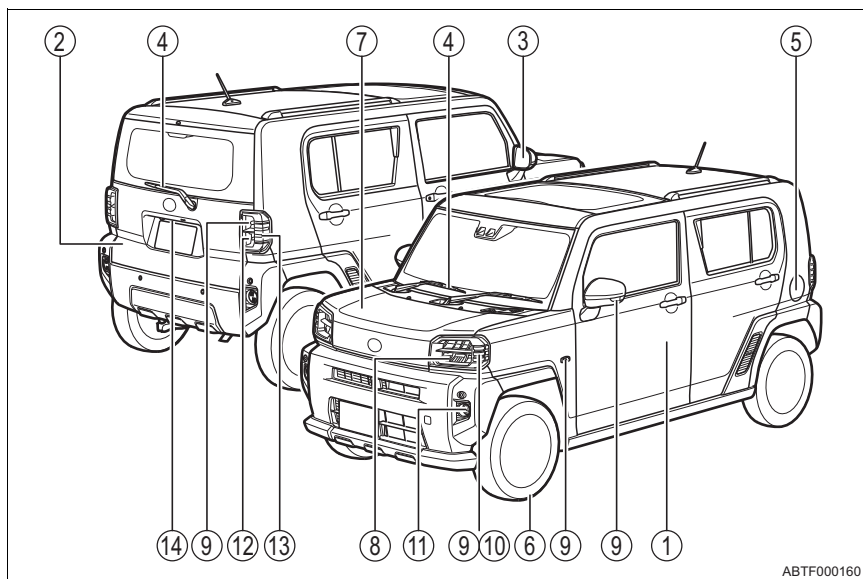


知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

外観



ABTF000160

ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

① ドア	P. 66
施錠／解錠	P. 60, 66
ドアガラスの開閉	
キーでの施錠／解錠	P. 264
警告灯★・警告メッセージ★	P. 229, 234
② バックドア	P. 69
施錠／解錠	P. 60, 69
警告灯★・警告メッセージ★	P. 229, 234
③ ドアミラー	P. 73
鏡面の角度調整	
ミラーの格納	
曇りを取る（ミラーヒーター）★	

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

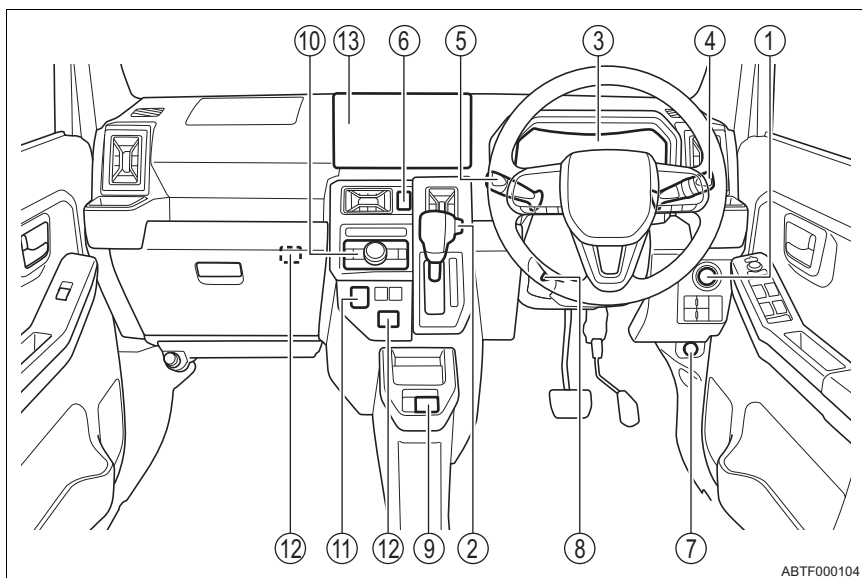
④ ワイパー	P. 99, 100
冬季の注意	
ワイパーゴムの交換	
⑤ 給油口	P. 101
給油方法	
燃料の種類・燃料タンク容量	P. 272
⑥ タイヤ	P. 210
サイズ・空気圧	P. 274
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 198
点検・ローテーション	P. 210
パンク時の対処	P. 255
⑦ ボンネット	P. 208
開け方	
エンジンオイル	P. 272
オーバーヒート時の対処	P. 268

走行にかかわる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 218, ワット数：P. 275)

⑧ ヘッドランプ	P. 90
⑨ 方向指示灯	P. 83
⑩ 車幅灯	P. 90
⑪ フロントフォグランプ★	
⑫ 後退灯	
シフトポジションを R にする	P. 82
⑬ 尾灯	P. 90
⑭ 番号灯	P. 90

インストルメントパネル



ABTF000104

- ① エンジンスイッチP. 80
 - エンジンの始動・モード切り替えP. 80
 - エンジンの緊急停止 P. 226
 - エンジンが始動できないときの対処 P. 264
 - 警告灯★・警告メッセージ★ P. 229, 234
- ② シフトレバーP. 82
 - シフトポジションの切り替えP. 82
 - けん引時の注意 P. 228
 - シフトレバーが動かないときの対処

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

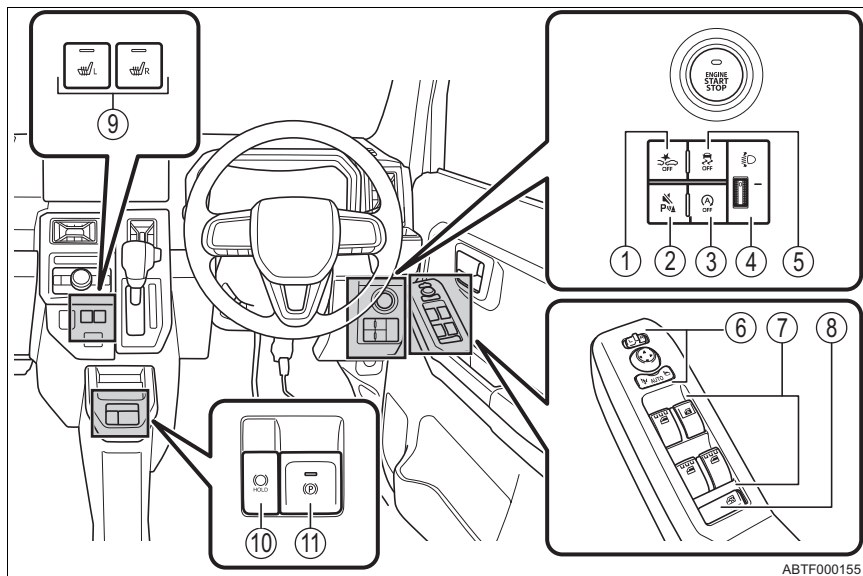
③	メーター	P. 50
	見方・明るさの調整	P. 53
	警告灯／表示灯	P. 44
	警告灯点灯時の対処	P. 229
	マルチインフォメーションディスプレイ★	P. 51
	TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★	P. 52
	表示内容	P. 51, 52
	警告メッセージ表示時の対処★	P. 234
④	方向指示レバー	P. 83
	ランプスイッチ	P. 90
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など	P. 90
	フロントフォグランプ★	
⑤	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 99, 100
	使い方	P. 99, 100
	ウォッシャー液の補充	P. 210
⑥	非常点滅灯スイッチ	
⑦	ボンネット解除レバー	
⑧	チルトステアリング	P. 73
⑨	パーキングブレーキ	P. 84
	かける・解除する	P. 84
	冬季の注意	P. 198
	警告ブザー・警告メッセージ★	P. 48, 237
⑩	エアコン	P. 200
	操作方法	
	リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	
⑪	アクセサリソケット	
⑫	USB ソケット★	P. 205
⑬	オーディオ★※	

※ オーディオに付属の取扱説明書を参照してください。

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スイッチ類



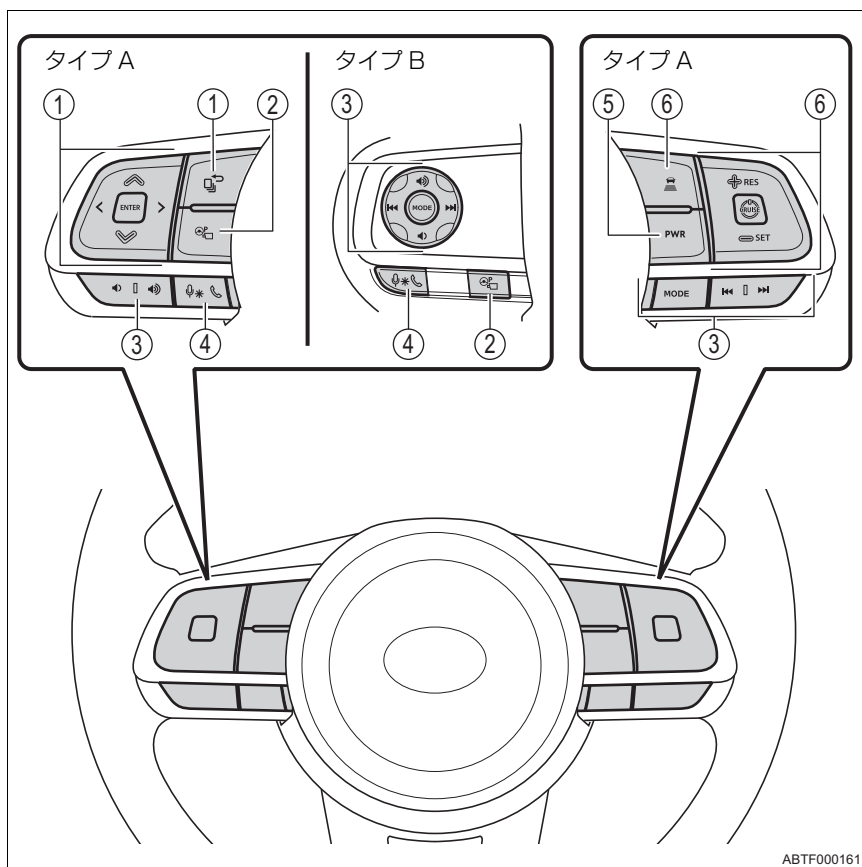
ABTF000155

- ① スマートアシスト OFF スイッチ P. 105
- ② コーナーセンサブザー OFF スイッチ P. 167
- ③ eco IDLE OFF スイッチ P. 159
- ④ 手動光軸調整ダイヤル★ P. 92
- ⑤ VSC・TRC OFF スイッチ P. 196
- ⑥ ドアミラースイッチ
- ⑦ パワーウィンドウスイッチ
- ⑧ ウィンドウロックスイッチ P. 74
- ⑨ シートヒータースイッチ★ P. 201
- ⑩ オートブレーキホールドスイッチ P. 87
- ⑪ パーキングブレーキスイッチ P. 84

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングスイッチ



ステアリングスイッチの配置は、グレードなどで異なります。

- ① メーター操作スイッチ★ P. 53
- ② カメラ／パーキングアシストスイッチ★ P. 176

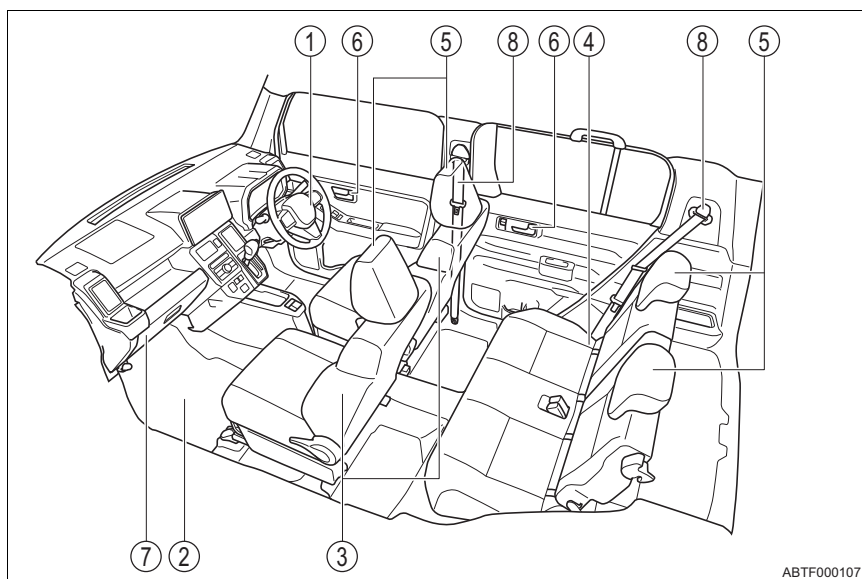
ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ③ オーディオ操作スイッチ※
- ④ トーク／電話スイッチ※
- ⑤ D assist 切替ステアリングスイッチ★
- ⑥ 全車速追従機能付 ACC 操作スイッチ★ P. 142

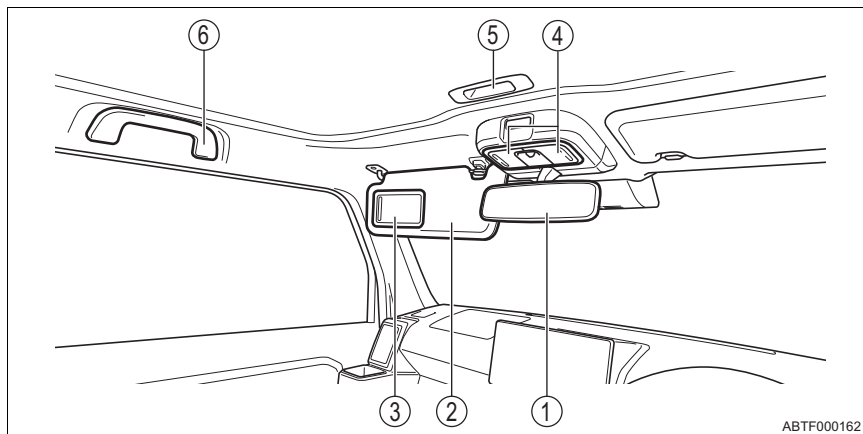
※ 装着されているオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。

室内



ABTF000107

- ① SRS エアバッグP. 20
- ② フロアマットP. 16
- ③ フロントシートP. 71
- ④ リヤシートP. 71
- ⑤ ヘッドレストP. 71
- ⑥ ロックレバー
- ⑦ グローブボックス
- ⑧ シートベルトP. 18



ABTF000162

- ① インナーミラー P. 73
- ② サンバイザー※ P. 204
- ③ バニティミラー
- ④ フロントパーソナルランプ
- ⑤ サンシェード P. 206
- ⑥ 格納式アシストグリップ P. 206

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 28)



ABTF000109

ページ表記がない項目については、取扱説明書（詳細版）を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	16
安全なドライブのために	17
シートベルト	18
SRS エアバッグ	20
排気ガスに対する注意	24

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	25
チャイルドシート	25

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	39
セキュリティアラーム	40

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

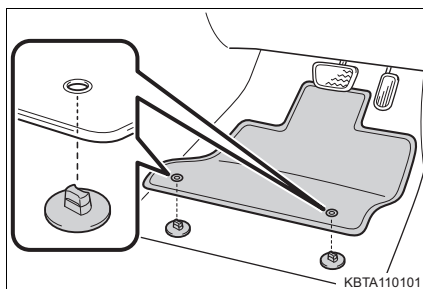
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

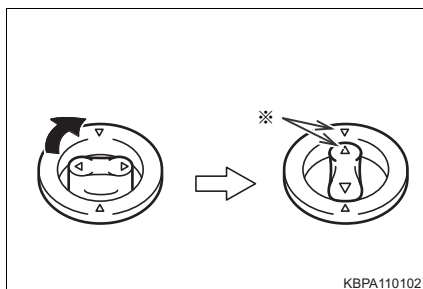
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

- ① 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- ② 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

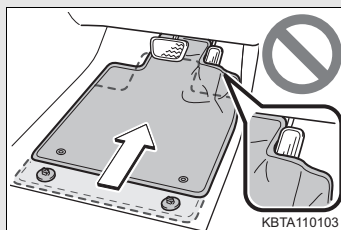
■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

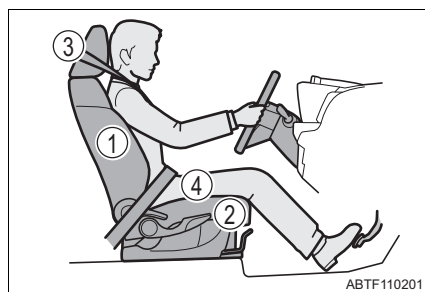


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ①まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
- ②ペダルをしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
- ③ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 71）
- ④シートベルトを正しく着用する（→ P. 18）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 18）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 25）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシート（シートアンダートレイ付きの助手席を除く）の下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警告

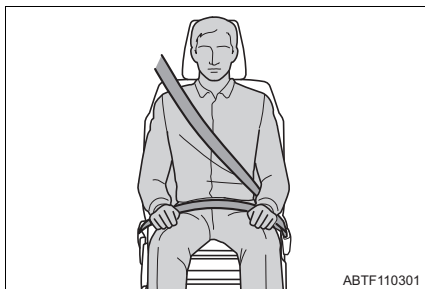
- 他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
 - 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
 - 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
 - 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
- また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

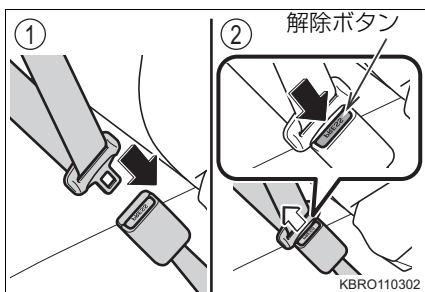
正しく着用する

- 肩ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする



着け方・外し方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに差し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す
ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがいないかを確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



□ 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ お子さまのシートベルトの使い方

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 25)
- シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 18)

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 18)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 35

⚠ 警告

■ シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

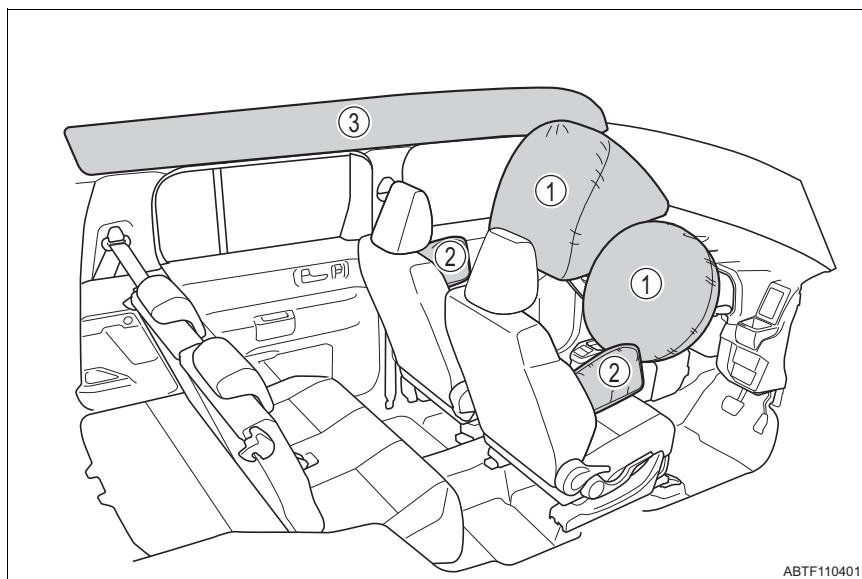
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



ABTF110401

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

② SRS サイドエアバッグ

(前席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

③ SRS カーテンシールドエアバッグ

(前席と後席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

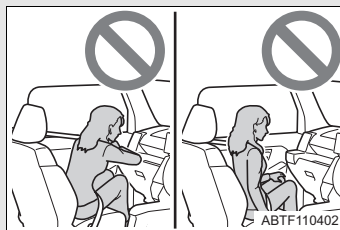
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

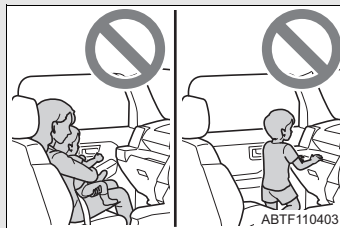
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 25)
- シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ドアやフロントピラー・センターピラー・リアピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

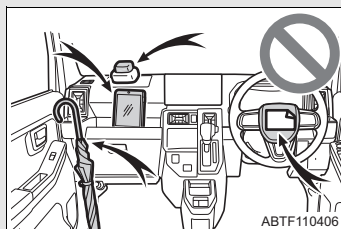


- 助手席や後席では、ドアに向かってひざをついたり、手足や顔などを出したりしない

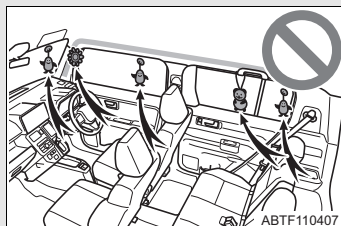


▲ 警告

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントビラーおよびリヤビラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限シールを除く：→ P. 260)



- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのを妨げ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントビラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場で交換してください。

■ SRS エアバッグが作動するとき

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■ 改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントビラー・センタービラー・リヤビラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取り外し・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け



■ SRS エアバッグが作動するとき

- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロントシート・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 前方約 30° 以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

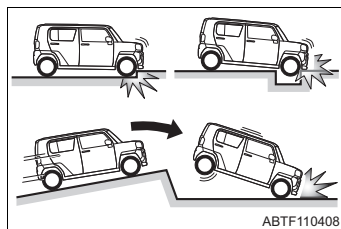
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド & カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド & カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 25km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動します。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド & カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

- 緑石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



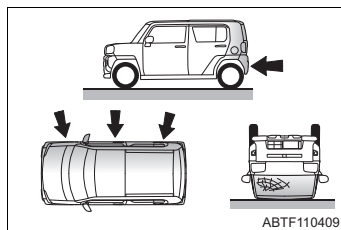
■ SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグはエンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突しても作動しません。

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝撃
- 後方からの衝撃
- 横転

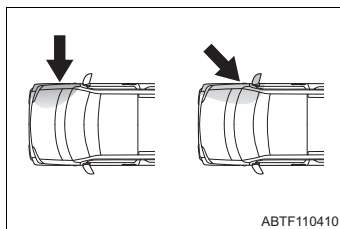




■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

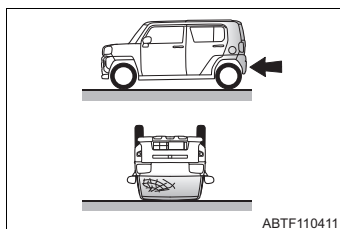
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 後方からの衝突
- 横転



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所にお車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 25)
- 運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 74)を使用してください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・ドアやシート・アームレスト★など、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 25 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法を記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 29)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

グループ 0 : 10kg まで

グループ 0+ : 13kg まで

グループ I : 9 ~ 18kg

グループ II : 15 ~ 25kg

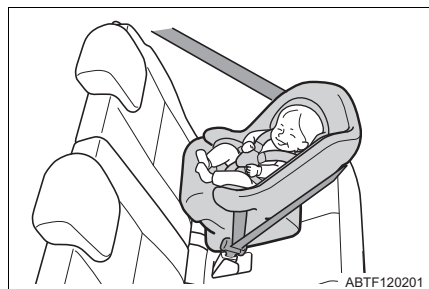
グループ III : 22 ~ 36kg

※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

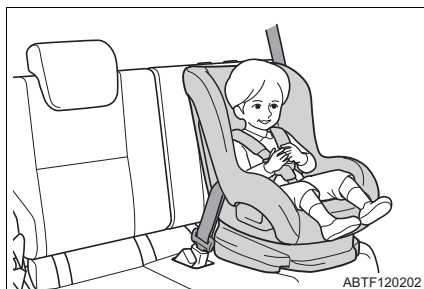
▶ ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、0+ に相当



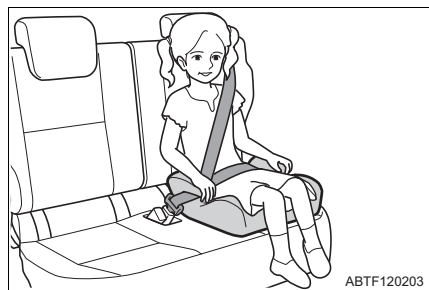
▶ チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0+、I に相当



▶ ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、III に相当



⚠ 警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれ強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 29）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

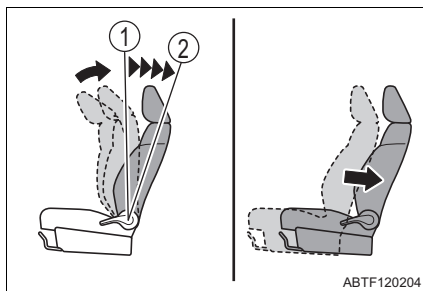
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置(①)まで起こし、5 段目の固定位置(②)まで調整する
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外す（→ P. 71）
- シートをいちばん後ろに下げる



⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けないでください。

後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



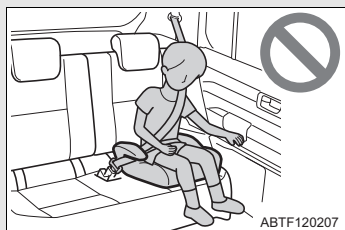
- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ チャイルドシートを使用するとき

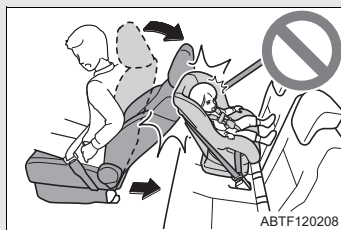
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントビラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 30）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 33）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

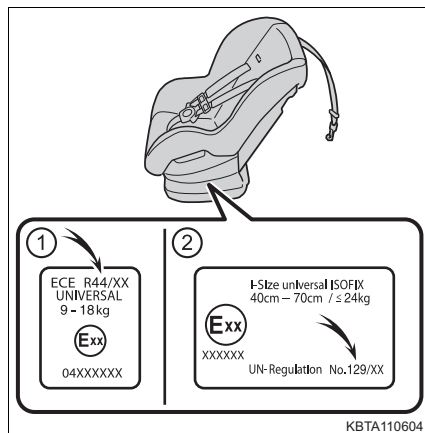
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹または、UN (ECE) R129※¹に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

▶ 法規番号の表示例

- ① UN (ECE) R44 認可マーク ※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- ② UN (ECE) R129 認可マーク ※²
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

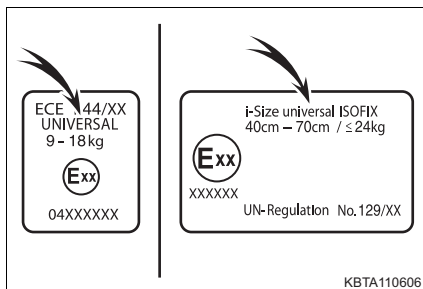
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

② チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

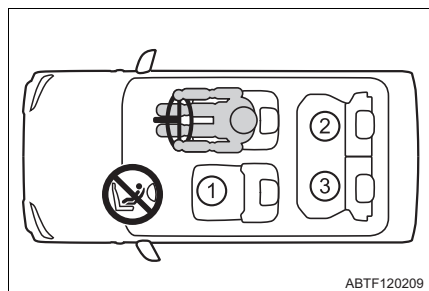
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



KBTA110606

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1、2、3	U ※4
② ※3	U L  
③ ※3	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 33）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

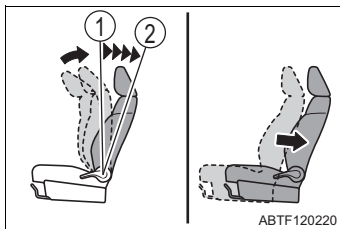


トップテザーアンカーが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

- ※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。
- ※2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、5 段目の固定位置 (②) まで調整してください。



- ※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。
- ※4 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する 向き	着座位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	○

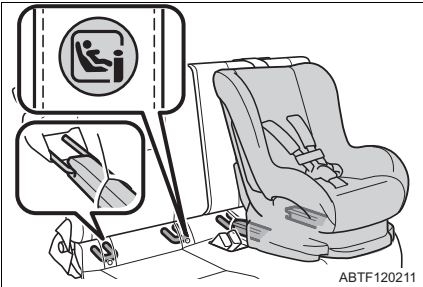
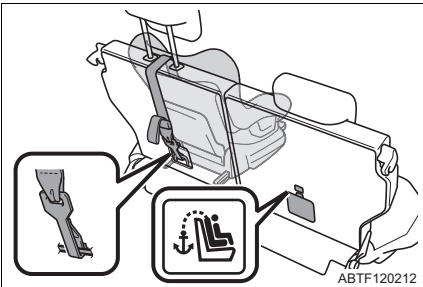
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 35
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 36
テザーベルトを固定する		P. 37

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

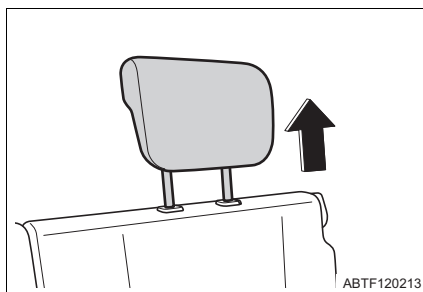
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 30）

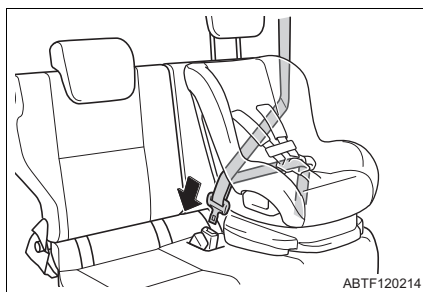
① やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 27）

② ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 71）



③ チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに「カチッ」と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させていただきます。



④ 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

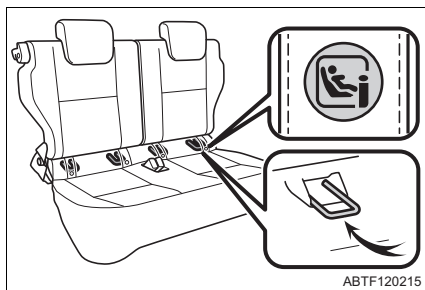
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤ席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)



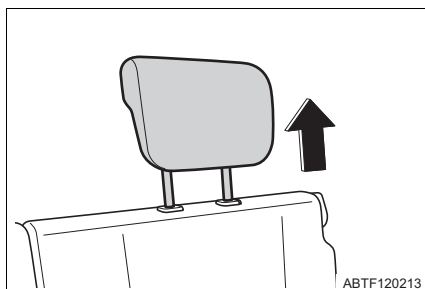
■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 30）

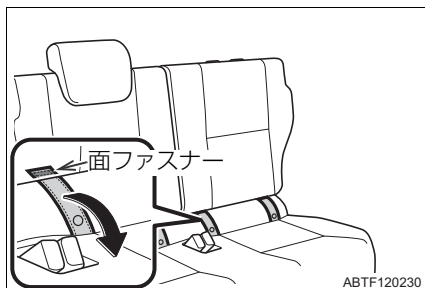
① ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 71）



② カバーを開ける

シートの奥にある面ファスナーを外してください。



③ チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



④ 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

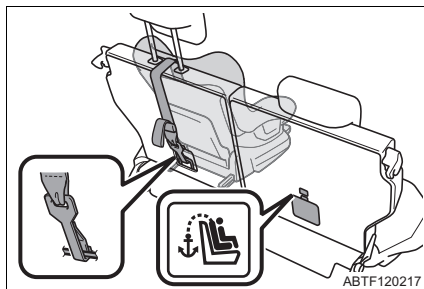
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

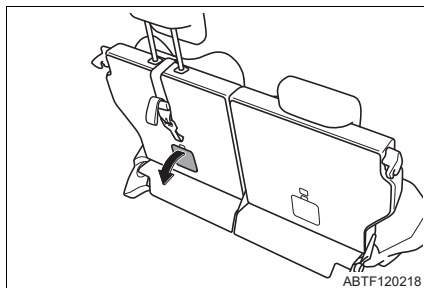
この車はリヤ席にトップテザーアンカーが装備されています。
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

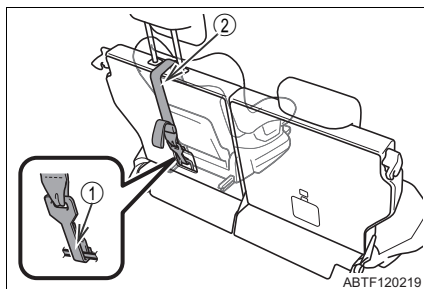
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 背もたれのテザーアンカーカバーを取り外す
取り外したテザーアンカーカバーは大切に保管してください。



- 2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める
テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

- ① フック
- ② テザーベルト



- 3 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■ リヤヘッドレストについて

● ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上かけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモバイザーシステム

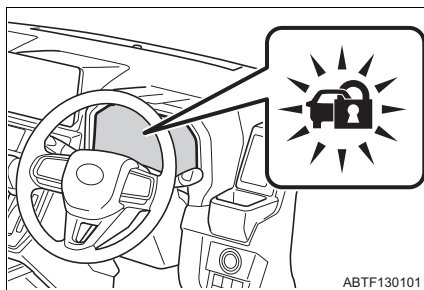
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

■ エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、次の場合にセキュリティアラームが作動します。

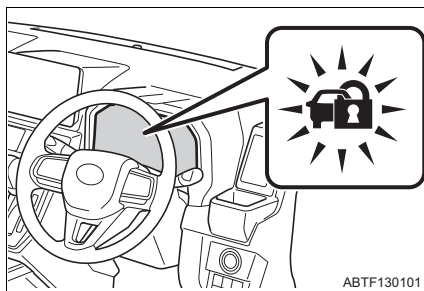
- 施錠されたドアが、キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅に変わります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

- キーフリーシステム・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

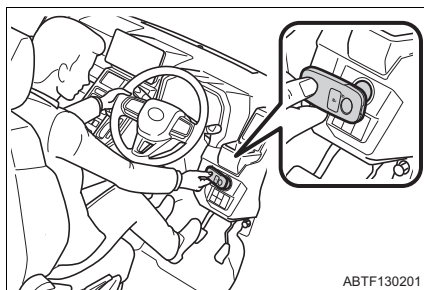
次のいずれかを行ってください。

- ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す
- キーフリーシステムで施錠・解錠する
- 電子カードキーを携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

■ 電子カードキーが正常に働かないとき

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏む
- 2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる





■ メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき

■ セキュリティ表示灯について

エンジンイモバイザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

■ セキュリティアラームの作動について

- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。ただし、ボンネットが開けられてセキュリティアラームが作動したときは、すぐに 2 次作動が作動します。

▶ 1 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
- ・ 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る
- ・ フロントパーソナルランプとラゲージルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）

▶ 2 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
- ・ 非常点滅灯が 30 秒間点滅
- ・ ホーンが 30 秒間断続的に鳴る
- ・ フロントパーソナルランプとラゲージルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）

- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再度設定状態になり、すべてのドアが施錠されます。

■ セキュリティアラームの作動履歴について

エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

- エンジンスイッチを“ON”にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

⚠ 注意

■ セキュリティアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	44
計器類	50
マルチインフォメーション ディスプレイ	51
TFT カラーマルチ インフォメーション ディスプレイ	52

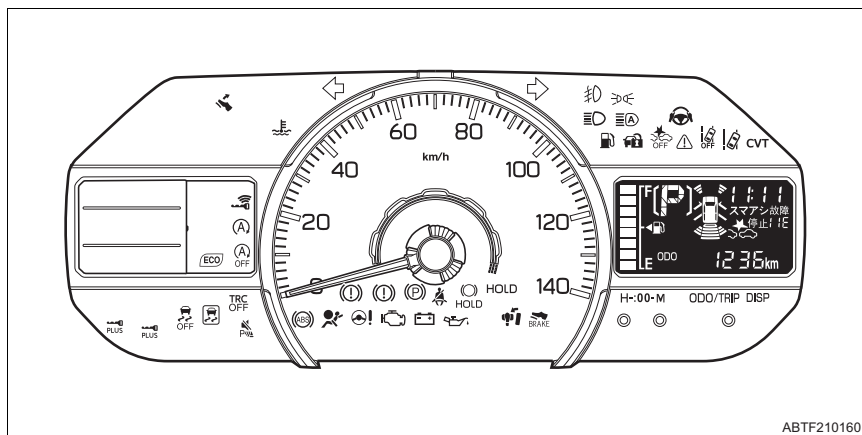
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯

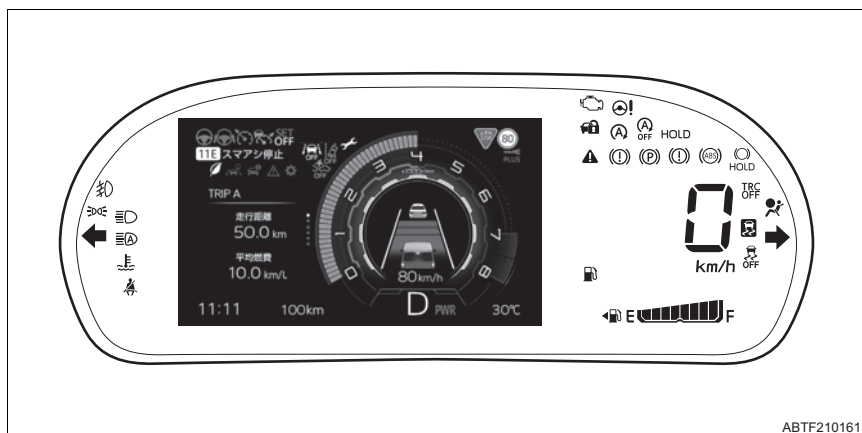
メーター・インナーミラー上部の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



万一のシステム異常などを警告します。

		警告灯	参照先
※1		ブレーキ警告灯（赤色／黄色）	229
※1		充電警告灯★	229
※1		油圧警告灯★	229
※1		高水温警告灯（赤色）	229
※1		エンジン警告灯	229
※1		CVT 警告灯★	229
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	230
※1		ABS 警告灯	230
※1		オートブレーキホールド作動表示灯（点滅）	230
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	230
※1、2		キーフリー警告灯★	233
※1		AHB / ADB 警告灯（黄色）	230
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	230
※1、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	230
※1、5		マスターウォーニング	230
		スマートアシスト故障警告灯★	230

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		スマートアシスト停止警告灯	251
※1		ACC 警告灯（黄色）★	231
※1		LKC 警告灯（黄色）★	231
※6		コーナーセンサー表示灯★	231
※1、7		スリップ表示灯	231
※8		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	231
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	234
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯★	231
※1		手放し運転警告灯	232
		半ドア警告灯★	232
		燃料残量警告灯	232
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	232
※9		後席シートベルト締め忘れ警告灯	232
※1、10		パーキングブレーキ表示灯（点滅）	232
		プラスサポート警告灯（黄色）★	232
※1		急アクセル時加速抑制警告灯★	232

※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。

- ※2 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れに近い状態であることを示します。(→ P. 233)
- ※3 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。
- ※4 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKOC★を停止にしたときも点灯します。
- ※5 スマートアシストが作動したときも点灯します。
- ※6 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。
- ※7 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※8 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。
- ※9 インナーミラー上部に点灯します。
- ※10 パーキングブレーキがかかっているときは、エンジンスイッチを“ON”にすると点灯します。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯	参照先
		方向指示表示灯
		ハイビーム表示灯
		フロントフォグランプ表示灯★
※1		低水温表示灯（青色）
		セキュリティ表示灯
		尾灯表示灯
※2		スリップ表示灯（点滅）
※2		VSC OFF 表示灯
※2		TRC OFF 表示灯
※2		エコドライブインジケータランプ★
※2		eco IDLE 表示灯
※3		eco IDLE OFF 表示灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯			参照先
※2		スマートアシスト作動灯	106
※2、4		スマートアシスト OFF 表示灯	105
※2		車線逸脱警報作動灯	108
※2		ハンドル操作支援作動灯★	154
※2、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯	105
		ACC 表示灯（緑色）★	147
※2		クルーズコントロール表示灯★	150
※2		ACC SET 表示灯★	142
		ACC OFF 表示灯★	142
		LKC 表示灯（緑色）★	154, 156
		LKC OFF 表示灯★	154
		AHB / ADB 作動灯（緑色）	93, 96
※5		コーナーセンサー表示灯★	165
		パワーモードインジケーター★	—
※6		パーキングブレーキ表示灯	84
※2、7		オートブレーキホールドスタンバイ表示灯	87
※2		オートブレーキホールド作動表示灯	87

表示灯			参照先
※2		ブレーキ操作要求表示灯★	84, 87
		コーナーセンサブザー OFF 表示灯★	167
※2		プラスサポート表示灯（緑色）★	192

- ※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。エンジンの暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。
- ※4 スマートアシストに異常があるときは点滅します。
- ※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。
- ※6 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※7 オートブレーキホールド機能が ON のときは、エンジンをかけると点灯します。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

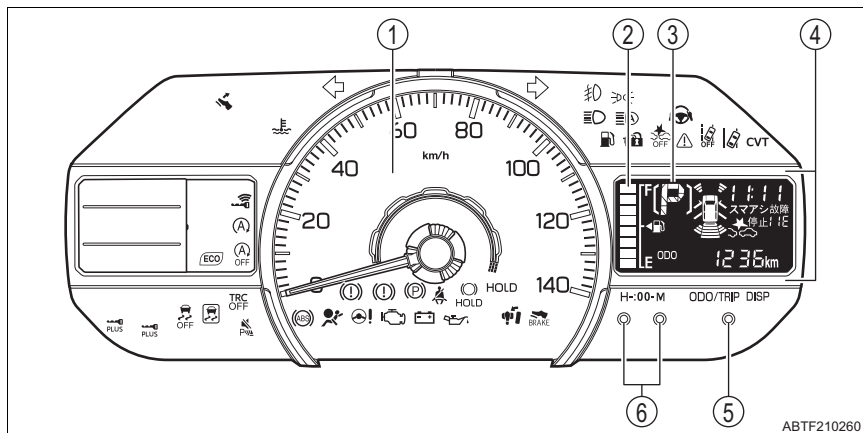
⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の代わりに高水温警告灯（→ P. 229）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 268）

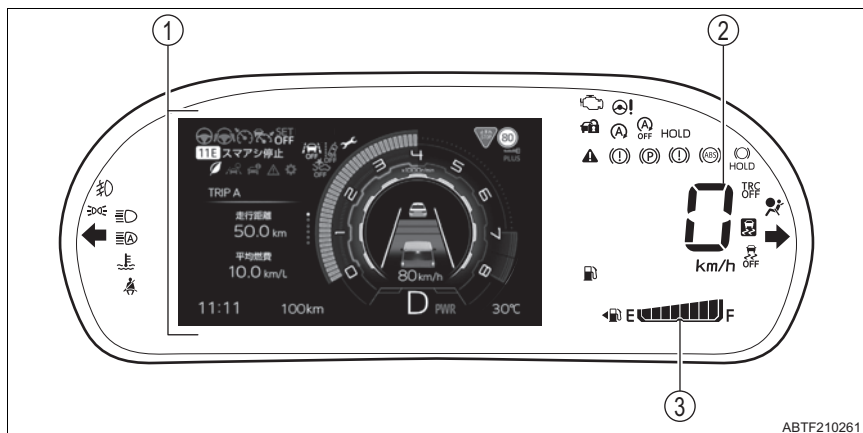
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、警告メッセージ（→ P. 236）も同時に表示されます。

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 燃料計
燃料残量を示します。
- ③ シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。
(→ P. 82)
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。
(→ P. 51)
- ⑤ 表示切り替えスイッチ
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。
- ⑥ 時計調整スイッチ

▶TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



- ① TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 52)
- ② スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ③ 燃料計
燃料残量を示します。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

●トリップインフォメーション

表示される項目は次の通りです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター A / B
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 外気温
- ・ アイドリングストップ時間
- ・ アイドリングストップ積算時間
- ・ メーター照度調整

●燃料計

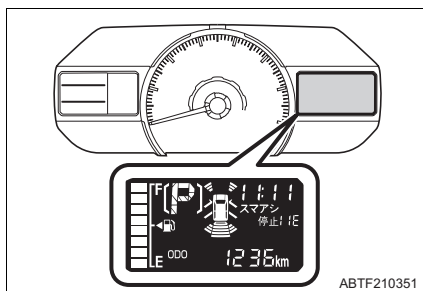
燃料残量を示します。

●シフトポジション表示 (→ P. 82)

●時計表示

●スマートアシスト機能停止コード表示 (→ P. 252)

●コーナーセンサー表示灯 (→ P. 165)

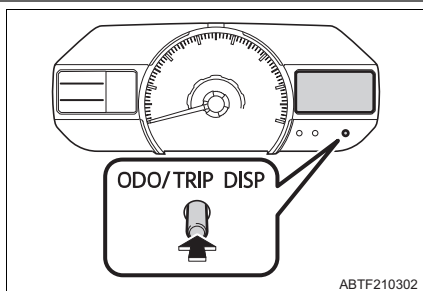


2

計
器
の
見
方

表示切り替え

トリップインフォメーションの表示を切り替えるには、表示切り替えスイッチを押します。



⚠ 警告

■ 走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑧ 外気温表示

- ・ 外気温を表示します。
外気温：-30℃～60℃の間で表示します。
- ・ 外気温が3℃以下になると路面凍結警告を表示します。
温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

⑨ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 82)

⑩ ブレーキランプ表示

制動灯点灯時は、赤色に変化します。
表示の ON / OFF を設定できます。(→ P. 54)

⑪ オドメーター表示

走行した総距離を表示します。

⑫ 時計表示

アナログ時計表示中は、日付が表示されます。

表示切り替え

操作スイッチを押して、画面の表示切り替え、設定の変更をします。

① スイッチ

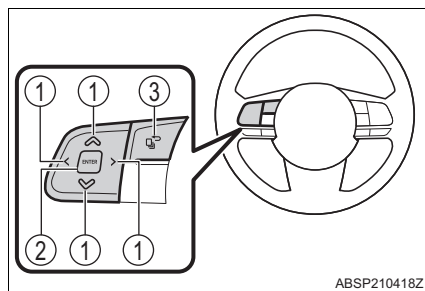
- ・ メニューを切り替えます。
- ・ コンテンツの切り替え、ページ送り、カーソルの移動をします。

② ENTER スイッチ

- ・ 項目の決定・選択をします。
- ・ 長押しすると、走行情報の項目をリセットします。

③ DISPLAY / RETURN スイッチ

- ・ 基本画面を切り替えます。
- ・ 設定画面を操作するときは、ひとつ前の画面に戻ります。
長押しすると、最初の画面に戻ります。(→ P. 53)
- ・ 警告メッセージが表示されたときは、非表示になります。



ABSP210418Z

設定

■ メーター照度調整

メーターの昼照度または夜照度を調整できます。

(初期設定：→ P. 58)

■ 日時

日時を設定できます。

スマホ連携ディスプレイオーディオ装着車、純正ナビゲーションシステム装着車：日時の自動補正の ON / OFF を設定できます。

①   スイッチを押してメニューを  に切り替える

②   スイッチを押して「日時設定」を選択し、ENTER スイッチを押す

3  スイッチを押して設定したい項目を選択し、ENTER スイッチを押す

- ・自動補正は ENTER スイッチを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
- ・自動補正を「ON」に設定した場合は、日時の調整はできません。

・年・時・分は  が表示されたあと、

スイッチを押して数値を設定し、再度 ENTER スイッチを押します。

設定時刻の 0 秒にリセットされた状態から時計が作動を始めます。

- ・12H / 24H は ENTER スイッチを押すたびに「12H」（12 時間表示）と「24H」（24 時間表示）が切り替わります。
- ・12H / 24H の設定にかかわらず時刻調整時は 24 時間表示になります。

■ 画面選択

EYERING 画面の表示を変更することができます。

■ 表示オプション設定

次の設定を変更することができます。

- トリップメーター B 画面の ON / OFF※
- 平均速度／走行時間画面の ON / OFF※
- 瞬間燃費／平均燃費画面の ON / OFF※
- 航続可能距離画面の ON / OFF※
- アイドリングストップ時間／アイドリングストップ積算時間画面の ON / OFF※
- エコドライブアシスト照明の ON / OFF
- 平均燃費の給油時リセットの ON / OFF
- 給油時のトリップメーター A リセットの ON / OFF
- アイドリングストップ時間の表示自動切り替えの ON / OFF
- エンディング画面切り替えの ON / OFF
- ハンドルポジションモニター（ハンドル位置の表示）の ON / OFF
- ブレーキランプ表示の ON / OFF

（初期設定：→ P. 58）

※「表示画面選択」を選択すると表示されます。

■ ブザー設定

次の設定を変更することができます。

- ブザー音量 ※
- ターニングナル（方向指示灯）ブザーの音色
- オープニング音量
- 全車速追従機能付 ACC 先行車認識ブザーの ON / OFF（→ P. 142）
- 標識認識ブザーの ON / OFF（→ P. 139）

（初期設定：→ P. 58）

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。



■ お知らせ日設定

オープニング画面で表示される誕生日、記念日、車検日、点検日の通知日を設定できます。

(初期設定：→ P. 58)

■ スマートアシスト設定

次の設定を変更することができます。

- 先行車発進お知らせの ON / OFF (→ P. 137)
- 先行車発進お知らせのタイミング (→ P. 137)
- 衝突警報のタイミング (→ P. 117)
- 車線逸脱警報のタイミング (→ P. 131)
- 標識認識機能 (進入禁止 / 最高速度 / 一時停止) の ON / OFF (→ P. 139)
- ふらつき警報の ON / OFF (→ P. 135)
- 車線逸脱抑制制御機能の ON / OFF (→ P. 131)
- LKC の ON / OFF (→ P. 154)
- コーナーセンサーブザーの音量 (→ P. 165)

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ ドアロック設定

次の設定を変更することができます。

- 車速連動ドアロックの ON / OFF
ON に設定すると、シフト連動ドアロックの設定が OFF になります。
- シフト連動ドアロックの ON / OFF
ON に設定すると、車速連動ドアロックの設定が OFF になります。
- シフト連動ドアロック解除の ON / OFF
ON に設定すると、IG OFF 時 (エンジンスイッチ "OFF" 時) ドアロック解除の設定が OFF になります。
- IG OFF 時 (エンジンスイッチ "OFF" 時) ドアロック解除の ON / OFF
ON に設定すると、シフト連動ドアロック解除の設定が OFF になります。
- アンサーバックブザー音量 (キーフリーシステム作動の合図) (→ P. 60)
- アンサーバック非常点滅灯の ON / OFF (キーフリーシステム作動の合図) (→ P. 60)
- ウェルカムドアロック解除の ON / OFF (→ P. 67)

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ ワイパー設定

次の設定を変更することができます。

- 車速連動間欠ワイパーの ON / OFF (→ P. 99)
- リバース連動リヤワイパーの ON / OFF

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ 方向指示灯設定

ワンタッチターンシグナル (方向指示レバーを途中まで操作したときの方向指示表示灯 3 回点滅) の ON / OFF を設定することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ オートエアコン設定

オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ ウェルカムランプ設定

次の設定を変更することができます。

- ルームランプ連動（電子カードキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）の ON / OFF（→ P. 68）
- テールランプ連動（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）の ON / OFF（→ P. 68）
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 275）

■ ライティング設定

ADB（→ P. 95）の ON / OFF を設定することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 275）

■ メンテナンス設定

オープニング画面で表示されるエンジンオイル交換、オイルフィルター交換、タイヤローテーションの時期を距離で設定できます。

（初期設定：→ P. 58）

- 1   スイッチを押してメニューを  に切り替える
 - 2   スイッチを長押しするか、数回押して「設定画面」の画面を切り替え、「メンテナンス設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
 - 3 ON / OFF を設定する場合は、  スイッチを押して各メンテナンス項目の「ON」、または「OFF」を選択し、ENTER スイッチを押す
オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、  スイッチを長押しするか、数回押すと表示できます。
- ▶ 表示が「OFF」で距離が設定されていない場合は
手順 [5] の「次回お知らせまで」の画面が表示されます。（→ P. 57）



▶すでに距離が設定されている場合は
ENTER スイッチを押すごとに「ON」、「OFF」が切り
替わります。



KBRO210452

- 4 距離を設定、リセットする場合は、  スイッチを押して各メンテナンス項目の「お知らせ距離設定」を選択し、ENTER スイッチを押す
オイルフィルター交換、タイヤローテーションは、
  スイッチを長押しするか、数回押すと表示
できます。



KBRO210453

- 5   スイッチを押して距離を選択し、
ENTER スイッチを押す

-  が表示されたあと、  スイッチを
押して距離を設定し、再度 ENTER スイッチを押し
ます。
- すでに距離が設定されている場合は、次回お知らせ
までの距離が表示されています。
- リセットする場合は、  スイッチを押して
リセットを選択し、ENTER スイッチを押します。



KBRO210454

■ 表示設定初期化

表示の設定を初期化（出荷時の状態）することができます。

項目			初期設定
明るさ調整	昼間用		レベル 8
	夜間用		レベル 6
日時設定	自動補正		ON
	12H / 24H		24H
画面選択			画面 1
表示オプション	表示画面選択	TRIP B	OFF
		平均車速	ON
		瞬間燃費	OFF
		航続可能	ON
		アイドリングストップ時間	ON
	エコドライブ照明		ON
	平均燃費給油リセット		OFF
	トリップ A 給油リセット		OFF
	アイドリングストップ自動表示		ON
	エンディング切替		ON
	ハンドルポジションモニター		ON
	ブレーキランプ表示		ON
	ブザー設定	ブザー音量 ※	
ターニングシグナル音色		トーン 2	
オープニング音量		大	
ACC 先行車認識ブザー		ON	
標識認識ブザー		OFF	
お知らせ日設定	設定日 1 ～ 10		未設定
メンテナンス設定	オイル交換お知らせ		OFF
	オイルフィルター交換お知らせ		OFF
	タイヤローテーションお知らせ		OFF

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

→ P. 51

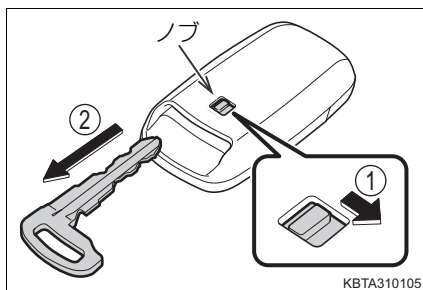
3-1. キー	
キー	60
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	60
ドア（フロントドア、 リヤドア）	66
バックドア	69
3-3. シートの調整	
フロントシート	71
リヤシート	71
ヘッドレスト	71
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	73
インナーミラー	73
ドアミラー	73
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	74

3-1. キー

キー

エマージェンシーキーを使うには

- ① ノブをスライドする
- ② エマージェンシーキーを取り出す
使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。(→ P. 264)

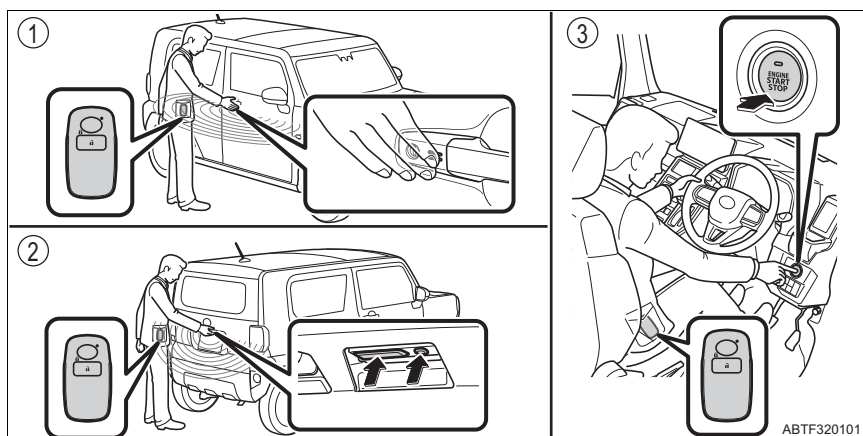


3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

キーフリーシステム

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)



- ① 全ドアを施錠・解錠する (→ P. 66)
- ② 全ドアを施錠・解錠する (→ P. 69)
- ③ エンジンを始動する (→ P. 80)

知識

■ 作動の合図

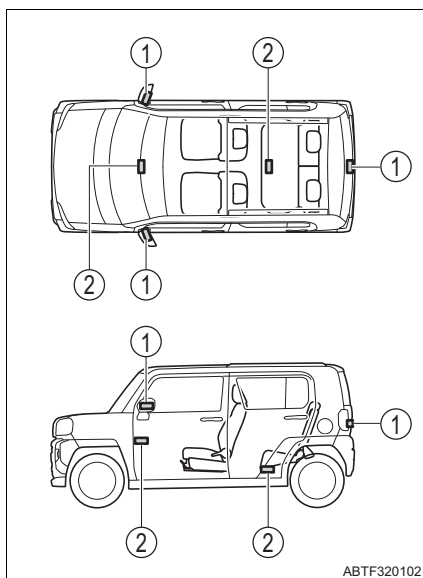
ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。(カスタマイズ機能一覧: → P. 275)

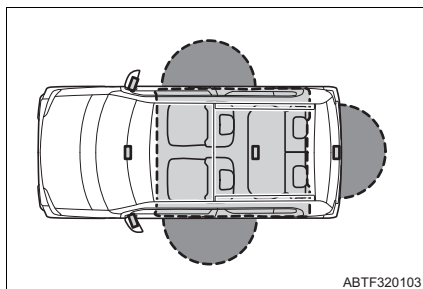
■ アンテナの位置

- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
(電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します)
- : エンジン始動時またはモード切り替え時
車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。





■ 警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯したり、警告メッセージ★が表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 229、234)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピピ”、 車外から“ピッピッピッ” と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ポーン ポーン ポーン…”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした(“ACC”のときに運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーツ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください(→ P. 216)

※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

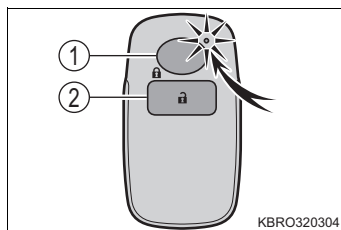


■ 電子カードキーの節電モードについて

- 節電モードに設定すると、電子カードキーによる電波の受信待機を停止し、電子カードキーの電池の消耗を抑えることができます。

電子カードキーの施錠スイッチ (①) を押しながら、解錠スイッチ (②) を 2 回押し、電子カードキーのインジケータが 4 回点滅することを確認してください。

節電モード中は、キーフリーシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子カードキーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにしておくことをおすすめします。
- 電子カードキーの電池交換直後に節電モードにするときは、約 10 秒経過してから行ってください。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信を妨げ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: → P. 264)

- 電子カードキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (電子手帳)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ ご留意いただきたいこと

- 電子カードキーが作動範囲内 (検知範囲内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切り替え時に電子カードキーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。(作動範囲: → P. 61)
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。



知識

- 電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスなどに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子カードキーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルにあるスイッチに水がかかると、ドアが施錠・解錠を繰り返すことがあります。その場合は、次のような処置をしてください。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます)
 - ・キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く(盗難に注意してください)
 - ・キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する(→ P. 63)
- 電子カードキーが作動範囲内にあるとき、フロントドアのリクエストスイッチに衣服が触れるだけでドアが施錠・解錠することがあります。
- 車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- ドアハンドルにあるスイッチは確実に操作して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチをすばやく操作した場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが操作できない場合があります。操作できない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。
- 手袋を着用してフロントドアのリクエストスイッチを操作したときは、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠しないことがあります。
- 周囲の状況により、フロントドアのリクエストスイッチを操作しても施錠・解錠できないときがあります。ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使用して施錠・解錠してください。(→ P. 66, 264)
- 次のような状況では、電子カードキーの電池の消耗と車両のバッテリーあがりを防止するために節電機能が働き、キーフリーシステムによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。
 - ・車両の周辺約 3m 以内に電子カードキーを約 2 分以上放置した
 - ・約 5 日間以上キーフリーシステムを使用しなかった

■施錠時の留意事項

車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■解錠時の留意事項

- ドアハンドルにあるスイッチを操作しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻してから再度(バックドアを除く)スイッチを操作し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを操作してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子カードキーを車両から約 3m 以上離しておいてください。
- あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付け過ぎないようにしてください。

作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が動かないこともあります。 : → P. 67)

■キーフリーシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠 : → P. 264
- エンジンの始動 : → P. 265



■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していない間でも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子カードキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。(→ P. 250)
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ オーディオ
 - ・ パソコン
 - ・ AC アダプター
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 低周波治療器などの医療用電気機器
 - ・ 液晶表示器
 - ・ モーター類
 - ・ 電磁調理器
- 車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。
常時通信状態になると、電子カードキーのインジケータが点滅しますので、消灯するまで電子カードキーを車両から離してください。
- 長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→ P. 63)

■ ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。
(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

■ ダイハツサービス工場でキーフリーシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 66, 264)
- エンジンの始動・エンジンスイッチモードの切り替え：→ P. 265
- エンジンの停止：→ P. 80

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ (→ P. 61) から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペースングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

⚠ 注意

- ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押ししたり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

ドア（フロントドア、リヤドア）

ドアの施錠／解錠

キーフリーシステムやワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

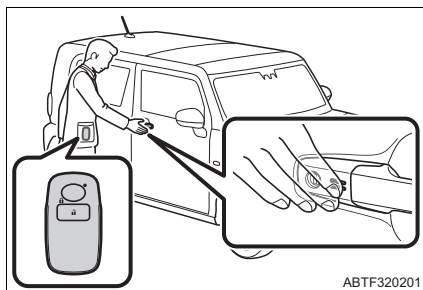
■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチ（ハンドルのくぼみ部）に触れ全ドアを解錠・施錠する

スイッチに確実に触れてください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。

施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



▶ ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する（→ P. 67）

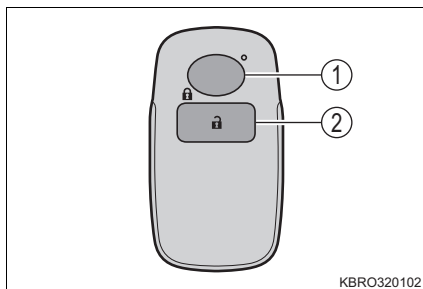
ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

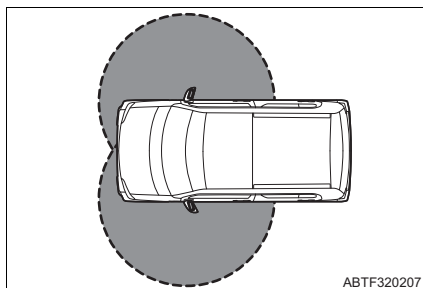


ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲

- : 解錠範囲
ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します



■ 予約のしかた

- ① お車から降り、キーフリーシステムまたはワイヤレス機能で施錠する（予約待機）
- ② 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する
予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。



知識

■ セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステムやワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。（→ P. 40）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

キーフリーシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

- 施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。（→ P. 40）

■ キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
 - ・ 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
 - ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）
- エンジンスイッチが“OFF”で車内に電子カードキーがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。
 - ・ 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
 - ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■ ウェルカムドアロック解除★の作動について

- ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅灯の点滅（2 回）で知らせます。
- 次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。
 - ・ カスタマイズ機能でキーフリーシステムまたは電子カードキーの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 275）
 - ・ ウェルカムドアロック解除を OFF にしたとき（→ P. 55）
- ドアロック後、解錠範囲を出てから約 5 秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。
- 電子カードキーが解錠範囲内にあっても、電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。



- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- 予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ドアを施錠したあと、解錠範囲内に電子カードキーがある状態が約2分以上続いたとき
- 解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約15秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。
- 予約完了後、車両の近くに電子カードキーがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ウェルカムドアロック解除★が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 63）

■ウェルカムドアロック解除★使用時の電子カードキーについて

第三者に電子カードキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

■ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）について

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約15秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。（→ P. 56）

- キーフリーシステムによるドアロック解除（ウェルカムドアロック解除によるドアロック解除を含む）
- ワイヤレス機能によるドアロック解除

■ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）について

- 次の条件をすべて満たしている場合、電子カードキーを携帯して車両に近付いた（ウェルカムドアロック解除★の解錠範囲に入った）ときに、室内灯を点灯させることができます。
 - ・電子カードキーの室外自動検知機能の作動（→ P. 275）が有効になっている
 - ・ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）が有効になっている（→ P. 56）
 - ・室内灯のスイッチがドアポジションになっている
- 室内灯の点灯時間は、イルミネーテッドエントリーシステムの点灯時間に連動します。



警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまを後席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

- 傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■お子さまを乗せているときは

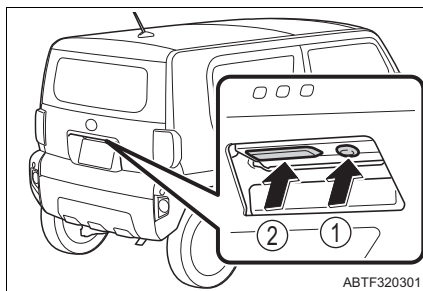
お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車外からの施錠／解錠

■ キーフリーシステム

電子カードキーを携帯して操作します。

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する
バックドアが半ドア状態になります。
施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



□ 知識

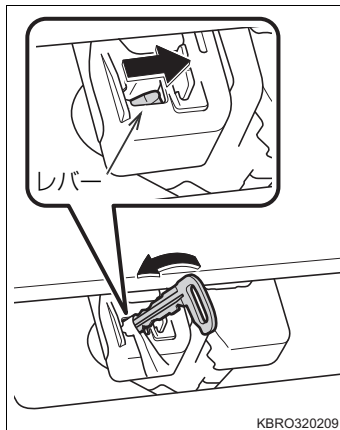
■ バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

- ① リヤシートの背もたれを前に倒す
- ② カバーを開ける



- ③ エマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす (→ P. 60)
傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

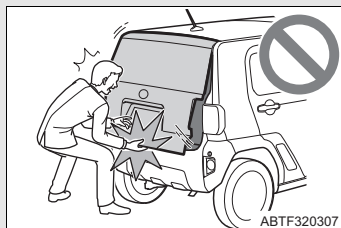
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押しして閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

3-3. シートの調整

フロントシート

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり
肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

3

各部
の操
作

リヤシート

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 背もたれを前に倒すときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとに戻したあとは

- シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

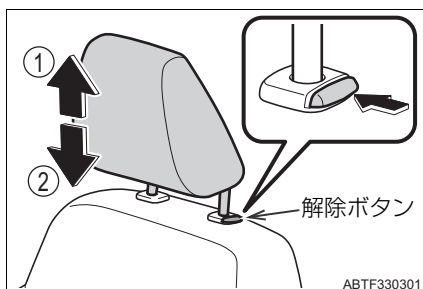
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

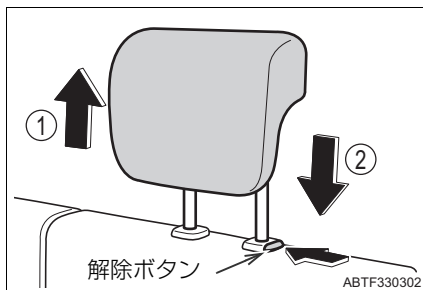
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

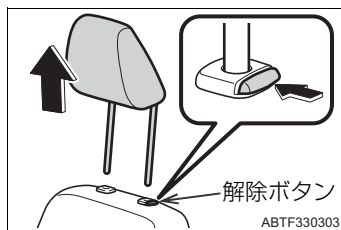


知識

■ ヘッドレストを取り外すとき

解除ボタンを押しながら取り外します。

フロントシートのヘッドレストが天井に当たって外すことができないときは、背もたれを倒してください。

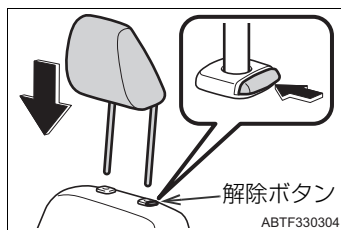


■ ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。※

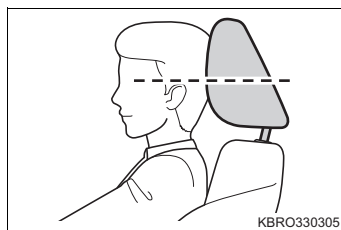
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

※ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ フロントシートヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストを外したまま走行しない

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。

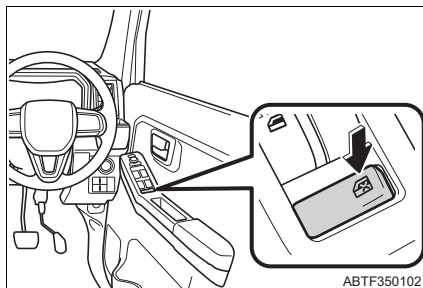
3-5. ドアガラスの開閉

パワーウィンドウ

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを開閉しているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

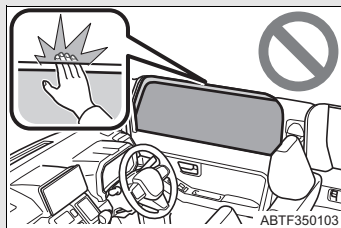
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 74）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- お車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまと一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。
- 特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	76
荷物を積むときの注意	79

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	80
CVT 車の運転	82
方向指示レバー	83
電動パーキングブレーキ	84
オートブレーキホールド 機能	87

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	90
AHB （オートハイビーム）	93
ADB （アダプティブ ドライビングビーム）	95
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	99
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	100

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	101
---------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	102
衝突警報機能（対車両・対歩行者）、 衝突回避支援ブレーキ機能 （対車両・対歩行者）	117
ブレーキ制御付誤発進 抑制機能（前方・後方）	125
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能／ 車線逸脱抑制制御機能	131
ふらつき警報	135
先行車発進お知らせ機能	137
標識認識機能（進入禁止／ 最高速度／一時停止）	139
全車速追従機能付 ACC （アダプティブクルーズ コントロール）	142
LKC（レーンキープ コントロール）	154
アイドリングストップ システム（eco IDLE）	159
コーナーセンサー	165
バックカメラ	170
パノラマモニター	171
スマートパノラマ パーキングアシスト	174
プラスサポート	192
運転を補助する装置	195

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	198
--------	-----

4-1. 運転にあたって

運転にあたって

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください（ブレーキ保持による停車時を除く）。クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 226 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 82）
- 路面状態や速度に応じて、次のようにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
 - ・ シフトレバーを S にする
 - ・ より強いエンジンブレーキが必要な場合はシフトレバーを B にする
- 急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、4WD車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

■ 滑りやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いている間は、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進している間は、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうです。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

- ハンドルが取られる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 255 を参照してください。

■ 万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ ふたのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ルーフレール装着車はルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

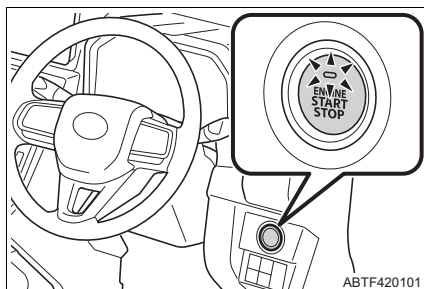
4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ

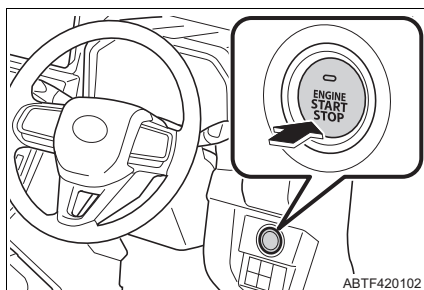
電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切り替えることができます。

エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 17）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPにあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏み
エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、長押しする必要はありません。
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。
完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
エンジンスイッチのどのモード（→ P. 81）からでもエンジンが始動できます。
プラスサポートをご使用の方は、P. 192 も併せて参照してください。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 84）、シフトレバーをPにする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

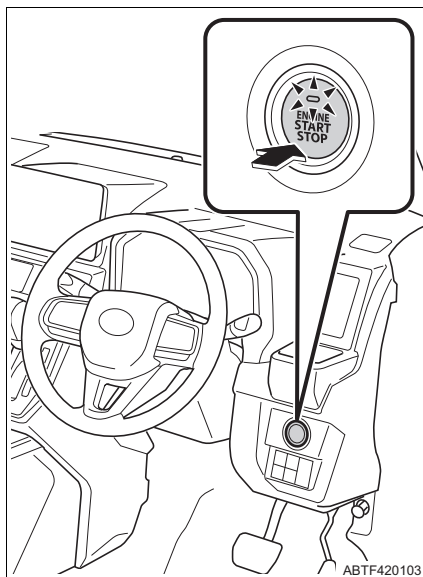
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーが P 以外のときは“ACC”になり、“OFF”になりません。



シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは“OFF”になりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPにする
- 3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを2回押す
- 4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。

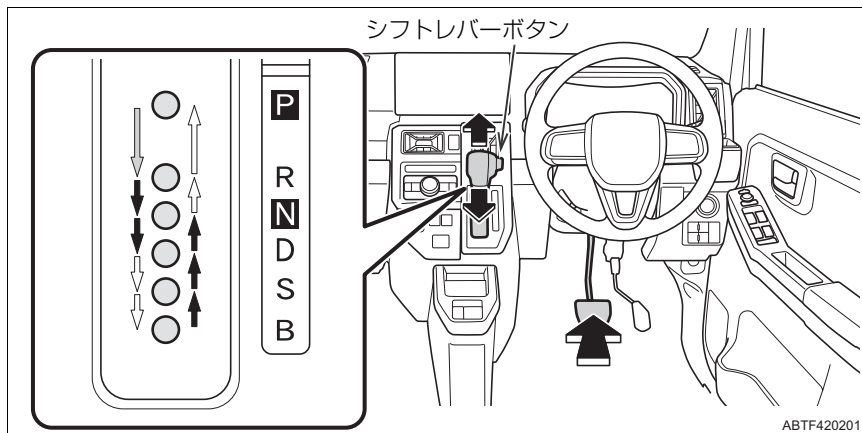
■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してください。(→ P. 226)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



- ◀ : エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。
- ◀ : シフトレバーボタンを押して操作します。
- ◀ : シフトレバーボタンを押さずに操作します。

⚠ 警告

■ 滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

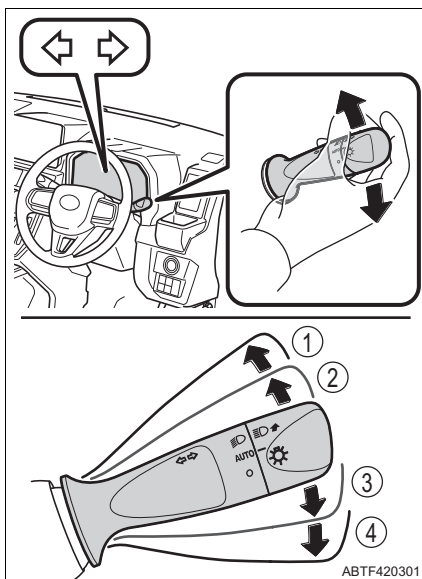
方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折

※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離したときは方向指示灯が3回点滅します。



■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

電動パーキングブレーキ

自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモード作動中は、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモード作動中でも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける（スイッチを引く）

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

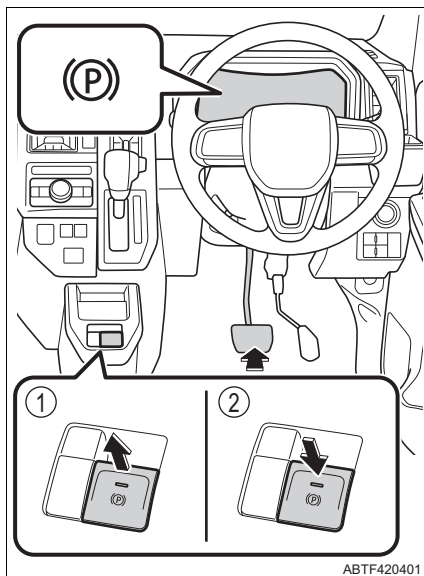
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けることで車両を停止させることができます。

② パーキングブレーキを解除する（スイッチを押す）

- ・ ブレーキペダルをしっかりと踏みながら操作してください。

- ・ オートリリース機能（→ P. 85）により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときは、ゆっくり踏んでください。

パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が消灯します。



ABTF420401

■ オートモード

シフトレバーを P 以外から P にしたとき、自動でパーキングブレーキをかけることができます。

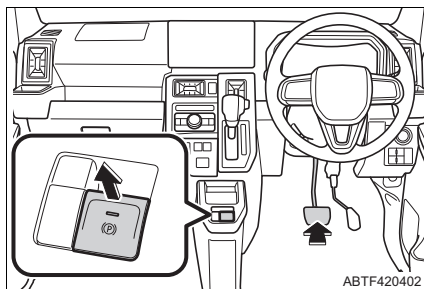
パーキングブレーキがかかると、パーキングブレーキ表示灯とスイッチの作動表示灯が点灯します。

パーキングブレーキの解除方法は、マニュアルモード（→ P. 84）を参照してください。

▶ オートモードを ON にする

停車中にパーキングブレーキがかかった状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ピッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを引き続ける

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、ブザーとともにメッセージが表示されます。

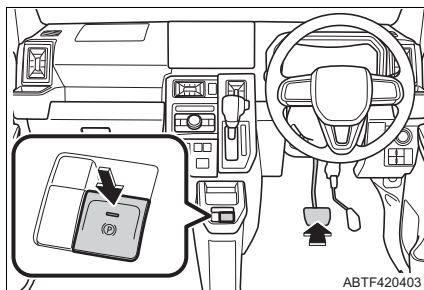


ABTF420402

▶オートモードを OFF にする

停車中にパーキングブレーキが解除された状態でブレーキペダルを踏みながら、ブザーが“ビッ”と鳴るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はブザーとともにメッセージが表示されます。



知識

■パーキングブレーキの作動について

- エンジンスイッチモードによらず、パーキングブレーキをかけることができます。
- パーキングブレーキが作動（かける・解除する）するとき、ブレーキペダルが動くことがあります。これはパーキングブレーキの作動によるもので異常ではありません。

■パーキングブレーキの解除について

- エンジンスイッチが“ON”以外では、パーキングブレーキを解除できません。
- ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを押すと、次のようにブレーキペダルを踏むよう運転者にお知らせします。

▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車
ブレーキ操作要求表示灯（→ P. 47）が点灯します。

▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車
ブザーが鳴り、「ブレーキを踏みながらスイッチを操作してください」と表示されます。

■オートモードの作動について

- エンジンスイッチが“ON”以外では、オートモードによる作動はできません。
- シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- 急なシフトレバー操作を行うと、オートモードが作動しない場合があります。その場合、手でパーキングブレーキを操作してください。（→ P. 84）

■オートリリース機能について

次の条件をすべて満たしてアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが解除されます。

- 運転席のドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- シフトレバーが P・N 以外の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除されない場合は、手で解除してください。

■パーキングブレーキ表示灯が点滅したとき

- パーキングブレーキ表示灯が点滅したときは、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても点滅が続く場合は、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 短時間にパーキングブレーキの作動を繰り返すと、システム過熱防止のためにパーキングブレーキの作動を制限することがあります。一時的に操作を控えてください。1 分程度でもとの状態に戻ります。

■パーキングブレーキの作動音について

- パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 緊急時にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、エンジンルーム付近から音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 急勾配の坂に停車している状態でパーキングブレーキを作動させた場合、パーキングブレーキ作動灯が点灯してから数分後に作動音（パーキングブレーキ作動）がすることがありますが、異常ではありません。



■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
“ON”：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
“ON”以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを“OFF”にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

パーキングブレーキスイッチが故障し、パーキングブレーキが解除できない場合はオートリリース機能（→ P. 85）により解除してください。

■ パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザーについて

パーキングブレーキが解除されないまま走行すると、警告ブザーが鳴ります。

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はブザーとともにメッセージが表示されます。（→ P. 243）

■ ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したとき

→ P. 229

■ バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキを作動（かける・解除する）させることはできません。（→ P. 265）

⚠ 警告

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。お車が動きだしたり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、パーキングブレーキの思わぬ作動につながるおそれがあります。

■ 走行時のパーキングブレーキ使用について

緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。

■ 走行前の留意事項

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 故障などでパーキングブレーキが作動しないとき

システム異常により電動パーキングブレーキが作動しない場合は、ただちにダイハツサービス工場での点検を受けてください。

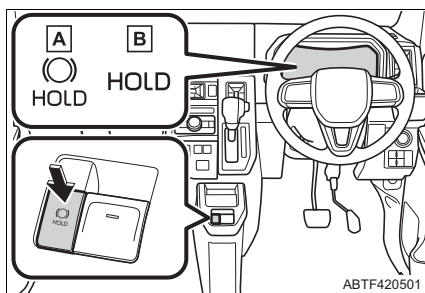
オートブレーキホールド機能

ブレーキペダルを踏んで停車した際、ブレーキペダルから足を離しても、ブレーキを保持するシステムです。
保持中にアクセルペダルを踏むと、ブレーキは解除されます。

システムを作動させるには

- 1 スイッチを押して、オートブレーキホールド機能を ON にする

オートブレーキホールドスタンバイ表示灯 **A** が点灯します。



- 2 シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで車両を停止させる
ブレーキがしっかり踏み込まれているとブレーキ保持を開始します。ブレーキ保持中はオートブレーキホールド作動表示灯 **B** が点灯します。

次の場合にブレーキ保持は解除されます。

- ・シフトレバーを P にする
- ・シフトレバーが R でブレーキペダルを踏む

知識

■ システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能を ON にできます。

- 運転席ドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している

エンジンスイッチが "ON" でオートブレーキホールド機能が ON のときに上記条件を満たさなくなると、一時的に機能が OFF になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は自動的にパーキングブレーキがかかります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はスマホ連携ディスプレイオーディオ^{*} または純正ナビゲーション^{*} の画面に、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はディスプレイにメッセージが表示されます。

再度条件をすべて満たすと、機能が ON に復帰し、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。

オートブレーキホールド機能が ON の状態でエンジンスイッチを "OFF" にしても、機能が ON の状態を記憶しています。再度エンジンスイッチを "ON" にして条件をすべて満たすと、オートブレーキホールド機能は ON になり、オートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。

^{*} 装着時

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持が終了する前には、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はブレーキ操作要求表示灯 (→ P. 47) が点灯するとともにスマホ連携ディスプレイオーディオ^{*} または純正ナビゲーション^{*} の画面にメッセージが表示され、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はディスプレイにメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかり、制動灯が消灯します。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はスマホ連携ディスプレイオーディオ^{*} または純正ナビゲーション^{*} の画面に、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にパーキングブレーキスイッチを引くとパーキングブレーキがかかり、ブレーキ保持は解除されます。



- ブレーキ保持中にブレーキペダルを素早く踏むと、ブレーキ保持は解除されます。
- 急勾配の坂でブレーキ保持できない場合、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はブレーキ操作要求表示灯（→ P. 47）が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はメッセージが表示され、ブレーキ操作を促します。運転者がブレーキペダルを踏んでブレーキをかけてください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、再度スイッチを押してください。

※ 装着時

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの方法でパーキングブレーキを解除してください。

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作する
操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 229）
- 運転席ドアを閉め、運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏み

■ ダイハツサービス工場で点検が必要なとき

オートブレーキホールド機能の作動条件を満たしているときに、オートブレーキホールドスイッチを押してもオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ オートブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 警告メッセージについて（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車）

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意を促します。警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作したときは

オートブレーキホールド作動表示灯が点灯しているときに、ブレーキペダルを踏まずにスイッチを操作すると、ブレーキ操作要求表示灯（→ P. 47）が点灯します。TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はメッセージが表示されます。ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作してください。

■ オートブレーキホールド機能の作動音

オートブレーキホールド作動中にタイヤの回転を検知すると、ブレーキ力を高めるために作動音が発生する場合があります。

■ オートブレーキホールド機能について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルを踏むと重く感じるがありますが、異常ではありません。
- アイドリングストップの作動条件を満たしているときは、アイドリングストップも作動します。
- 停車時にブレーキペダルをしっかりと踏み込まないと、システムが作動しないことがあります。

■ システムを OFF にするには

オートブレーキホールドスイッチを押すとオートブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯し、オートブレーキホールド機能が OFF になります。

警告

■ 急坂路では

急な坂道ではオートブレーキホールド機能を使用しないでください。オートブレーキホールド機能が作動しない、または作動しても停車を維持できずに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 滑りやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。滑りやすい路面での使用は控えてください。

■ 安全にお使いいただくために

- オートブレーキホールド機能を過信しないでください。オートブレーキホールド機能は停車時のブレーキ操作を補助する機能です。ブレーキ操作を怠ると不意にお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の交通状況に応じて適切にブレーキ操作を行ってください。
- オートブレーキホールド作動表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。お車が停止状態を保持できず、動き出すおそれがあります。

■ 駐車するとき

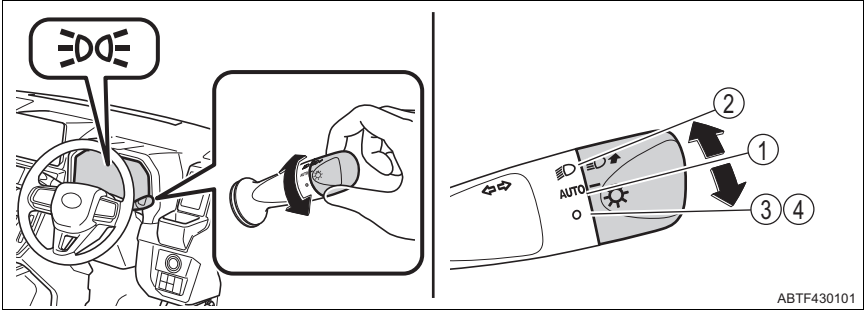
オートブレーキホールド機能は長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されてお車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON” のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯 ※1	
③※2、3	 (約 1 秒以上操作)	消灯	点灯
④※2、4	 (約 2 秒以上操作)	消灯	

- ※1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。
- ※2  スイッチを  の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。
- ※3 自動点灯中で次のいずれかの状態のとき
- ・ 車速が約 3km/h 以下
 - ・ 停車中から発進後約 20 秒経過していない、かつ車速が約 15km/h 以下
- ※4 停車中で次のいずれかの状態のとき
- ・ シフトレバーがP
 - ・ パーキングブレーキがかかっている

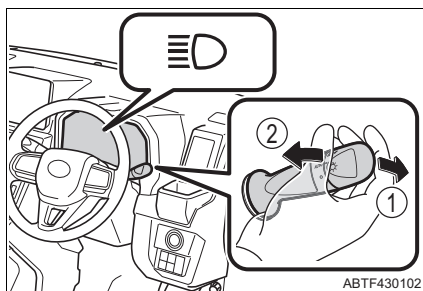
■ ランプ類の再点灯について

☞ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 再度 ☞ スイッチを ○ の位置に操作したとき
- エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 15km/h を超えたとき（③のスイッチ操作時のみ）
- 車速が約 15km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 20 秒経過したとき（③のスイッチ操作時のみ）
- シフトレバーをP以外にした、およびパーキングブレーキを解除したとき（④のスイッチ操作時のみ）

ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替えレバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。
- ② レバーを引いている間、ハイビームを点灯ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



サイドビューランプ

▶ ADB 非装着車

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、サイドビューランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。ただし、車速約 35km/h 以上の場合は、サイドビューランプは点灯しません。

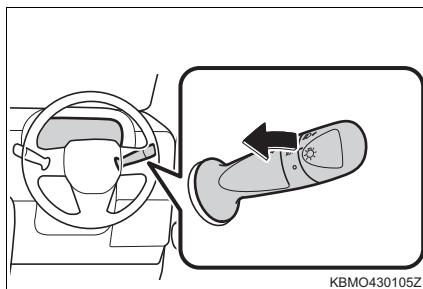
- ハンドルを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）
次のいずれかのとき消灯します。
 - ・ロービームを消灯したとき
 - ・ハンドルをまっすぐに戻したとき
- 方向指示レバーを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）
次のいずれかのとき消灯します。
 - ・ロービームを消灯したとき
 - ・方向指示レバーをもとに戻したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のサイドビューランプが点灯）
次のいずれかのとき消灯します。
 - ・ロービームを消灯したとき
 - ・シフトレバーを D・S・B にして車速が約 5km/h 以上になったとき

▶ ADB 装着車

→ P. 95

ヘッドランプ点灯延長機能

エンジンスイッチが“OFF”の状態、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させることができます。エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、ランプスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。



KBMO430105Z

約 30 秒間経過する前に次の操作をすると、ヘッドランプが消灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき ※¹
- ランプスイッチを操作したとき ※²
- ランプスイッチを再度手前に引いて離れたとき

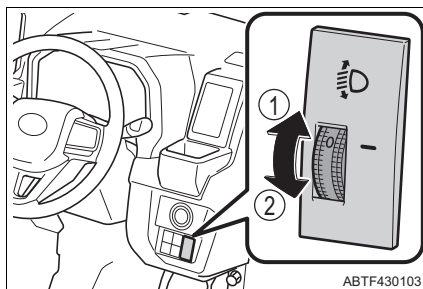
※¹ 周囲が暗いときは、点灯したままになる場合があります。

※² ランプスイッチを  に操作したときは、点灯したままになります。

手動光軸調整ダイヤル★

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



ABTF430103

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

AHB（オートハイビーム）★

AHB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

AHB を過信しないでください。AHB は運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

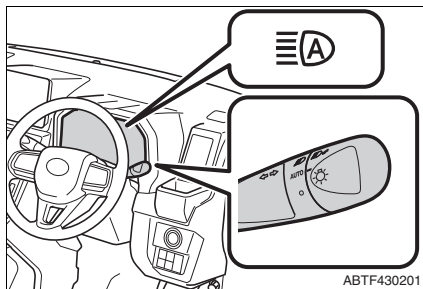
■ AHB を正しく作動させるために

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

AHB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、AHB が作動し、AHB 作動灯が点灯します。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき
周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の街灯が明るい

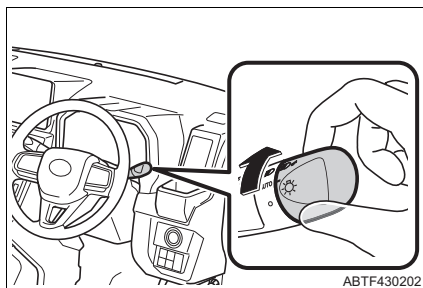
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを  にする

AHB 作動灯が消灯します。

AHB に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

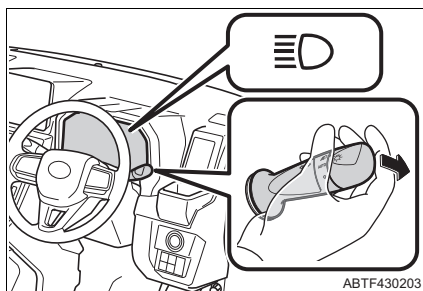


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

AHB 作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

AHB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



知識

■ AHB について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- AHB は車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を確認します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ フロントウィンドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき



- ・フロントウィンドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ・ステレオカメラの温度が高いとき
- ・ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ・著しくぬれた路面が圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ AHB 警告灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

AHB の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能)

ADB (アダプティブドライビングビーム) ★

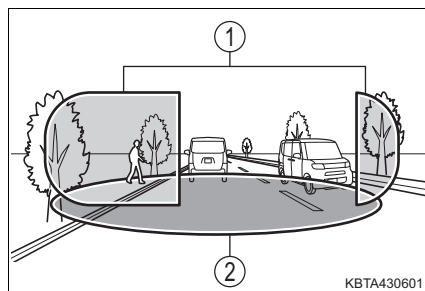
ADB は、フロントウィンドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

● 対向車または先行車の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

対向車または先行車へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

① ハイビームで照らす範囲

② ロービームで照らす範囲



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

ADB を過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

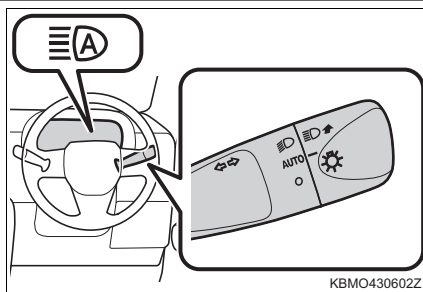
■ ADB を正しく作動させるために

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

ADB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、ADB が作動し、ADB 作動灯が点灯します。

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき
周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ヘッドランプ照射範囲の自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街灯が暗い

次の条件をすべて満たすと、対向車または先行車の位置に応じて遮光ハイビームに切り替わります。

- 車速が約 30km/h 以上
- 前方にランプを点灯した車両がある
- 車両前方が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームに切り替わります。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車の台数が多い
- 前方の街灯が明るい

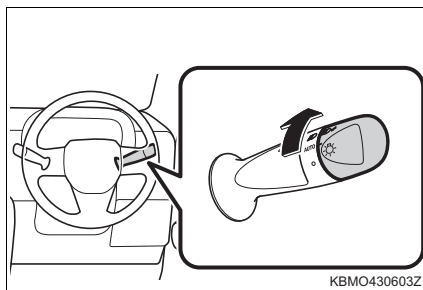
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを  にする

ADB 作動灯が消灯します。

ADB に戻すには、ランプスイッチを **AUTO** に戻します

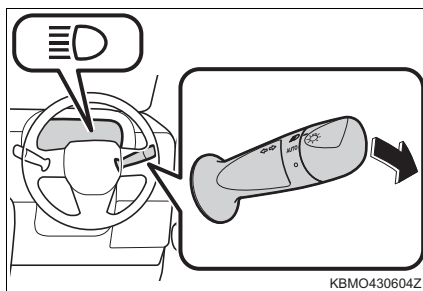


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

ADB 作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

ADB に戻すには、レバーをもとの位置に戻します。



サイドビューランプ

ADB 作動灯点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、ロービームが追加点灯し車両進行方向を照射します。

ただし、車速約 35km/h 以上の場合は、サイドビューランプは点灯しません。

● ハンドルを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ・ ロービームを消灯したとき
- ・ ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ・ ハンドルをまっすぐに戻したとき

● 方向指示レバーを操作したとき（操作した方向のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ・ ロービームを消灯したとき
- ・ ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ・ 方向指示レバーをもとに戻したとき

● シフトレバーが R のとき（左右両側のサイドビューランプが点灯）

次のいずれかのとき消灯します。

- ・ ロービームを消灯したとき
- ・ ランプスイッチを **AUTO** 以外にしたとき
- ・ シフトレバーを D・S・B にして車速が約 5km/h 以上になったとき



■ ADB について

- 次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合があります。
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切り替わる場合や、切り替わらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度や、ロービームへの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 遮光ハイビームに切り替わってもハイビーム表示灯は点灯したままです。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ステレオカメラの温度が高いとき
 - ・ ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ バンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
 - ・ 薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
 - ・ 著しくぬれた路面が圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ ADB 警告灯が点灯、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプ光軸異常」、または「ヘッドランプシステム故障」の警告メッセージが表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ サイドビューランプ

サイドビューランプは、点灯したまま約 5 分経過すると、自動的に消灯します。

消灯後再度、方向指示レバー、ハンドル操作を行うか、シフトレバーを R にすると点灯します。

停車時に自動的に消灯した場合は、車速約 3km/h で走行すると点灯します。



■ カスタマイズ機能

ADB の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 53)

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① ○：停止

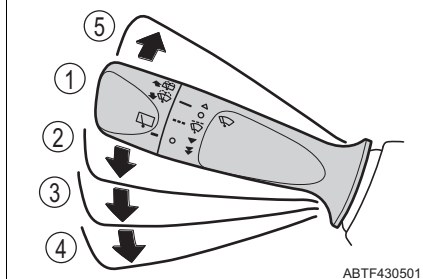
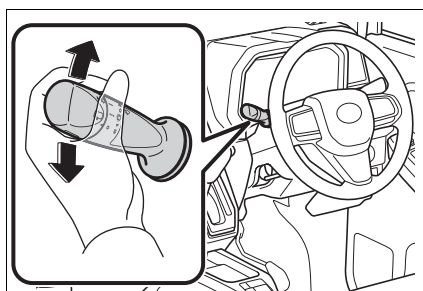
② ：間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼：低速作動

④ ▼▼：高速作動

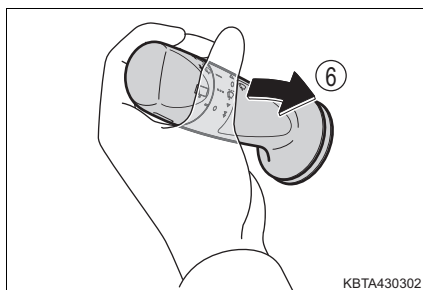
⑤ ▲：一時作動



ABTF430501

⑥ ：ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



KBTA430302



警告

■ ウォッシャー使用時の警告

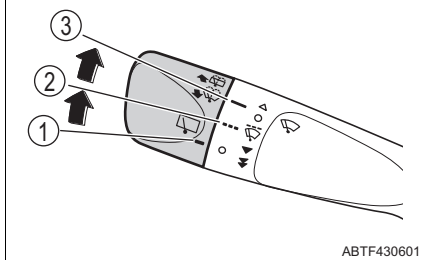
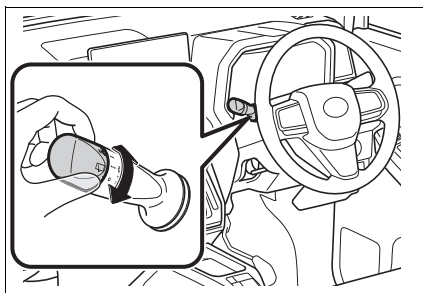
寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

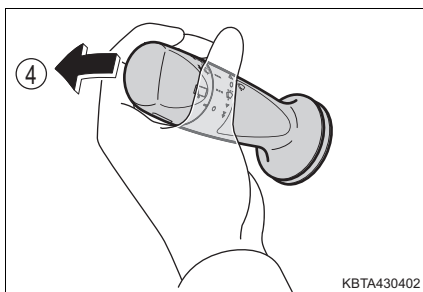
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ① ○ : 停止
- ② --- : 約 4 秒間低速作動したあと、間欠作動
- ③ — : 通常作動



- ④  : ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動します。



4-4. 給油のしかた

給油口の開け方

給油する前に

⚠ 警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- 吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。

- ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
- ・ 継ぎ足し給油をしない

- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

給油口の閉め方

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 117

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 117

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 125

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 131

◆ 車線逸脱抑制制御機能

→ P. 131

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 131

◆ ふらつき警報

→ P. 135

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 137

◆ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

→ P. 139

◆ 全車速追従機能付 ACC ★

→ P. 142

◆ LKC ★

→ P. 154

◆ AHB ★

→ P. 93

◆ ADB ★

→ P. 95

■ スマートアシストについて

- スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。(→ P. 105)
 - ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ 摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・ タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - ・ サスペンションを改造したとき
 - ・ ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
 - ・ ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ・ ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 車両を改造・架装したとき
 - ・ けん引されるとき
 - ・ キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
 - ・ ジャシャーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - ・ リフトアップし、エンジンを始動してタイヤを空転させたいとき
 - ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - ・ サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - ・ 脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - ・ 冠水した道を走行するとき
 - ・ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ・ ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - ・ 洗車機を使用するとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ハンドルおよびシフトレバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストの各機能の作動状況
- 前方車両や歩行者、障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（衝突回避支援ブレーキ作動時）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合

- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

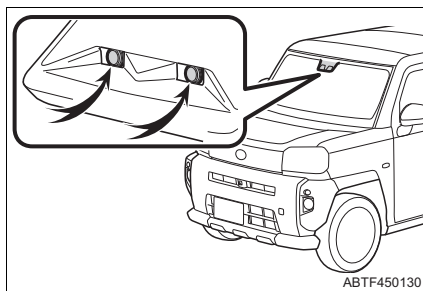
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能で必要な情報を認識します。

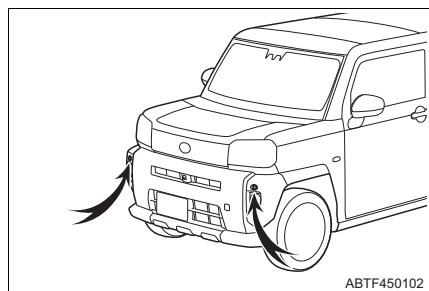
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 車線逸脱抑制制御機能
- 路側逸脱警報機能
- ふらつき警報
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- 全車速追従機能付 ACC ★
- LKC ★
- AHB ★
- ADB ★



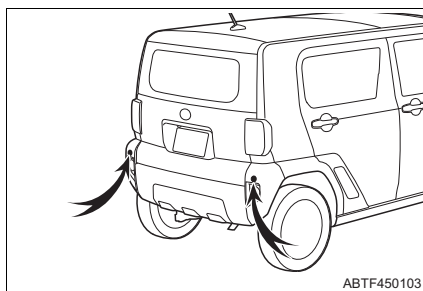
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）で必要な情報を認識します。

▶ フロントソナー



▶ リヤソナー



スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

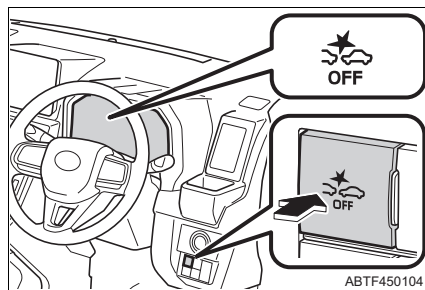
また、マルチインフォメーションディスプレイの設定★または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。(→ P. 55)

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能・標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★・全車速追従機能付 ACC ★を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを2秒以上長押しする

“ピピッ”とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ”とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



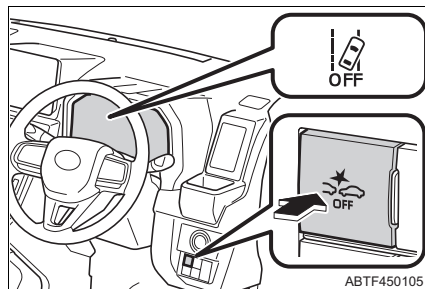
ABTF450104

■ 車線逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報・LKC ★を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ”とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ”とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



ABTF450105



知識

■ ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

■ スマートアシストが作動しない場合

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。(→ P. 251)

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能
- 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★
- 全車速追従機能付 ACC ★

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC ★について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・車線逸脱抑制制御機能・ふらつき警報・LKC の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■ スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
"ピピピピピッ"	 (点滅)		衝突警報機能が作動
"ピピピピピ"と 鳴り続ける	 (点滅) 		衝突回避支援ブレーキ機能の1次ブレーキ、または2次ブレーキが作動



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
"ピピピッ"と鳴り続ける	 (点滅)	 前方注意！！	衝突回避支援ブレーキ機能の2次ブレーキが作動したあと、車両が停止 運転者の操作でブザーとディスプレイの表示が終了します。
"ピピピピピッ"	 (点滅)	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動
"ピピピピピ"と鳴り続ける	 (点滅) 	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制
"ピピピピピ"と鳴り続ける	 (点滅) 	 前方注意！！	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動
"ピピピピピッ"	 (点滅)	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動
"ピピピピピ"と鳴り続ける	 (点滅) 	 アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）の警報が作動するとともにエンジンの出力を抑制



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	 (点滅) 		ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のブレーキ制御が作動
“ピピピピッピピ ピピッ”	 (点滅)		車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動
—	 (点灯)	※2  (点滅) ※3  (点滅)	車線逸脱抑制制御機能が作動



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピッ”	  (点灯)	 ※2  (点滅) ※3  (点滅)	手放し運転をしているとき、車線逸脱抑制制御機能が約3分の間に2回以上作動し、手放し注意が行われた



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	  (点灯)	 ※2  (点滅) ※3  (点滅)	手放し注意が行われている状態から、さらに車線逸脱抑制制御機能が作動し、手放し運転警告が行われた
“ピピッピピッ”	 (点灯)		ふらつき警報が作動
“ピピピッ”	 (点滅)		先行車発進お知らせ機能が作動
—	 (緑色)	—	AHB ★が作動
—	 (緑色)	—	ADB ★が作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
— ※4	—		標識認識機能★が作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC ★ が車間制御モードで作動
—	 SET		全車速追従機能付 ACC ★ が定速制御モードで作動
“ピッ”	—	※5 	全車速追従機能付 ACC ★ 作動時、先行車を認識し た、または認識しな くなった



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※ 1	作動状態
“ピピピピピ”と 鳴り続ける	—	  (点滅)	全車速追従機能付 ACC ★ の接近警報が作動
—	—	 停車保持中	全車速追従機能付 ACC ★ の停車保持が作動
“ピッ”	OFF (点滅)	  (点滅)	全車速追従機能付 ACC ★ の設定条件を満たさずに —SET スイッチ、または +RES スイッチを押した とき



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※ 1	作動状態
“ピッピッ”と鳴り続ける	OFF (点滅)	 	全車速追従機能付 ACC ★ の停車保持が自動的に解除
“ピピッ”	OFF (点滅)	 	作動条件を満たさなくなり、全車速追従機能付 ACC ★ が解除された



ブザー	表示灯／警告灯	ディスプレイ ※1	作動状態
“ピピッ”	OFF (点滅)	  (点滅)	先行車を認識しなくなり、全車速追従機能付 ACC ★が解除された
—	 	—	LKC ★が作動
—			LKC ★作動時、手放し運転をしているとシステムが判断し、手放し注意が行われた
“ピピッ”と鳴り続ける			LKC ★作動時、手放し注意が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、手放し運転警告が行われた
“ピピピピピ”と鳴り続ける	—	—	LKC ★作動時、手放し運転警告が行われている状態から、さらにハンドルを操作しない状態が続き、LKC ★が解除された

※1 TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

※2 全車速追従機能付 ACC 非作動時

※3 全車速追従機能付 ACC 作動時

※4 標識認識機能（進入禁止）が作動したとき、ブザーが鳴るようにすることができます。（→ P. 54）



※5 先行車を認識したときは先行車表示が表示され、認識しなくなったときは非表示になります。

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

警告

■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
 - ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 200）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。
 - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。
- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ステレオカメラに強い光を照射しないでください。
- ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウインドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウインドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

警告

■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ソナーは常にきれいにしてください。

- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
- ・ お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。

●ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。

●ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

●ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。

●ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。

●ソナー、およびその周辺部分にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。

●バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。

●バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 汚れ検知機能について

●ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。

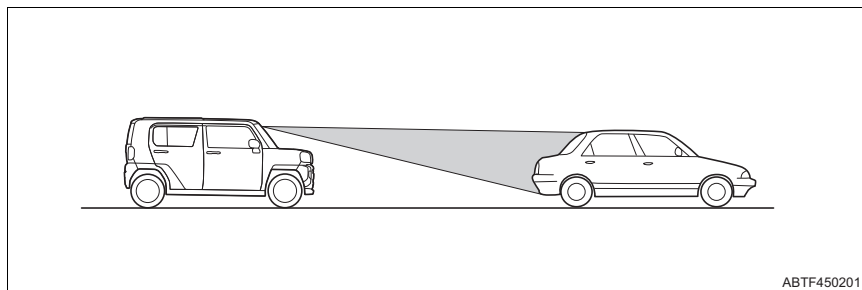
汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両 ※1、歩行者 ※2 を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※1 二輪車、自転車を含む（人が乗車している場合のみを対象物としています）

※2 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 106）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 106）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

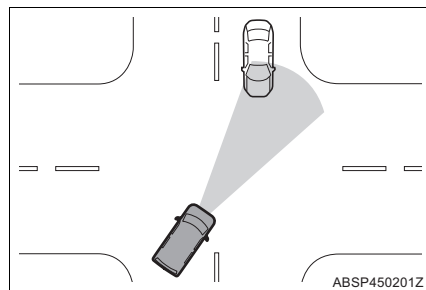
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

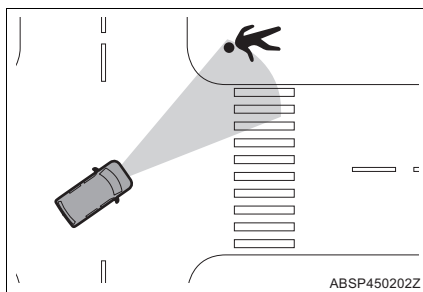
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



ABSP450202Z

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 123
 - ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 118, 123

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両 ※ や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両 ※ との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 80km/h）を超える場合は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 18）

※ 二輪車、自転車を含む

■ 衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両 ※ や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 自車の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

⚠ 警告

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両^{*}、歩行者に接近するとき
 - ・トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - ・強い光が車両^{*}や歩行者、路面に反射しているとき
 - ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - ・路面に水たまりや水膜があるとき
 - ・雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
 - ・自転車や対象物がふらついているとき
 - ・対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・右折中に、対向車が自転車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
 - ・右折中に、自転車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
 - ・右左折中に、横断歩行者が自転車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
 - ・移動する自転車が集団で前方にいるとき
 - ・歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
 - ・対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自転車が対向車の進行路に進入している場合
 - ・対象物が対向車であっても、自転車が対向車線に進入している場合
 - ・前方車両^{*}や歩行者との距離が極端に短いとき
 - ・自転車の前方に車両^{*}や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
 - ・急加速やハンドル操作をしながら、前方車両^{*}、歩行者に接近したとき
 - ・前方車両^{*}の一部しかステレオカメラの認識範囲に入っていないとき
 - ・小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
 - ・水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・自転車が車線変更を行い、前方車両^{*}のすぐ後ろに接近したとき
 - ・前方車両^{*}が急ハンドル、急加速、急減速したとき
 - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
 - ・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンDEM自転車など）
 - ・前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
 - ・車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
 - ・荷台にあまりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
 - ・後端から横荷が飛び出している車両などのとき
 - ・車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき

⚠ 警告

- ・二輪車が横向きに走行しているとき
 - ・二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
 - ・歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
 - ・対向車※やバックしてくる車両などのとき
 - ・車高の低い車両などのとき
 - ・停車している車両※の前に壁などがあるとき
 - ・重い荷物を積むなど、前方車両※が傾いているとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
 - ・二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
 - ・身長の子供や高身長歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
 - ・歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
 - ・歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
 - ・集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき
 - ・ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
 - ・周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
 - ・対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
 - ・上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
 - ・対象物が複数重なっているとき
 - ・2人以上乗車している自転車
- タイヤ径が小さい二輪車※や全長が長い二輪車※のとき
- 歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
- 二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

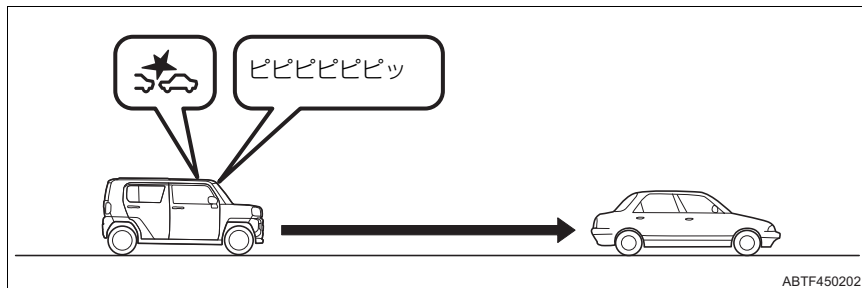
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

①～④の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

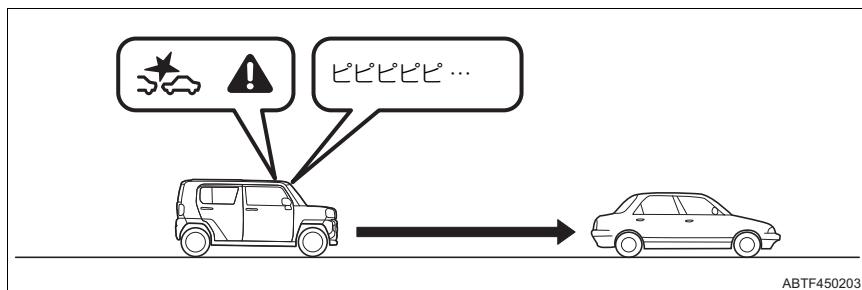
① 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

2 1次ブレーキ

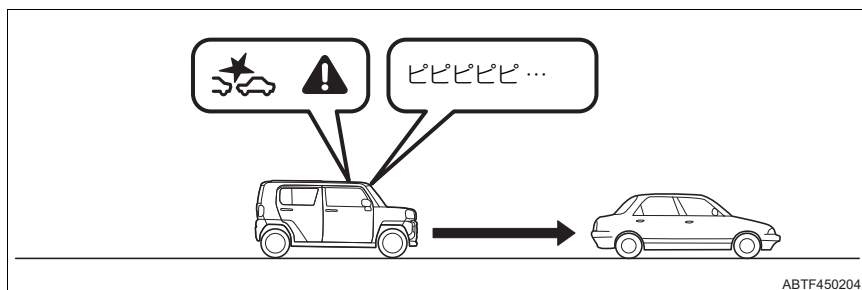


前方車両 ※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

・前方車両 ※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

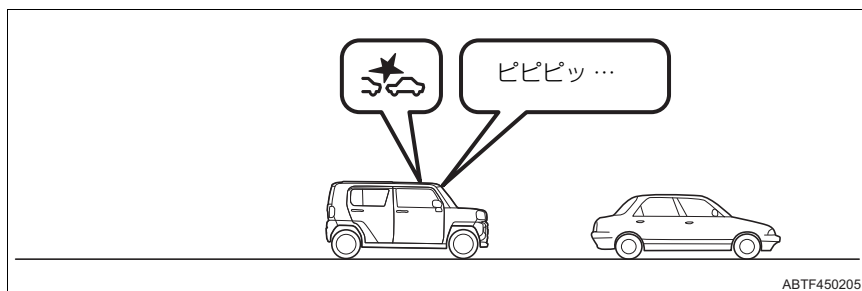
3 2次ブレーキ



前方車両 ※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※ 二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。※

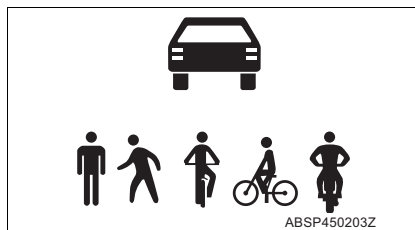
停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

※ アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。



■ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件 自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが「ON」のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯が消灯しているとき
- シフトレバーが P・R 以外るとき
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援以外の場合）

機能	対象	作動車速、速度差 ※1
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減ブレーキアシスト ※3	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者 ※2	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援の場合）

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両 ※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両 ※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 昼間、夜間対応



※3 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※4 方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■衝突回避支援ブレーキについて

- 状況によっては、1次ブレーキや2次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

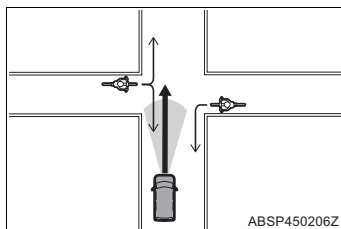
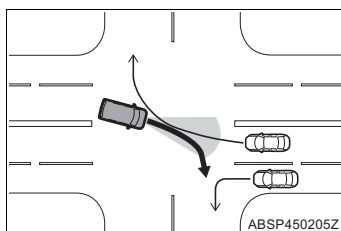
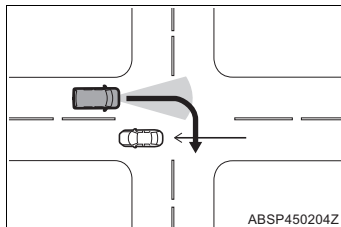
■衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

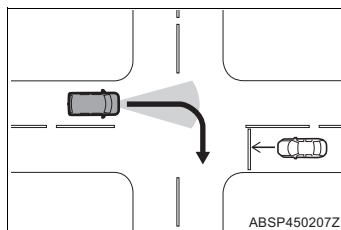
- 左折、または右折している前方車両※がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車※を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 車線変更や右左折している前方車両※などを追い抜くとき
- 右左折待ちの前方車両※などとすれ違うとき
- 前方車両※、横断歩行者などの対象物が自転車進路内に入手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自転車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自転車進路に入手前で停止したとき
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき
- 前方の壁に対象物と区別がつきにくい映り込みやペイントがあるとき
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき

- 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき

- 車両※、歩行者が自転車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※の寸前まで接近して停止するとき
- 停止車両※などの横を至近距離で通過するときや対向車※が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあつた場合
- 複数台の前方車両※などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※と車両※、車両※と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※のとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには → P. 105

■ カスタマイズ機能

衝突警報機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

(マルチインフォメーションディスプレイ★の設定画面から変更可能)

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★の設定画面から変更可能：→ P. 53)

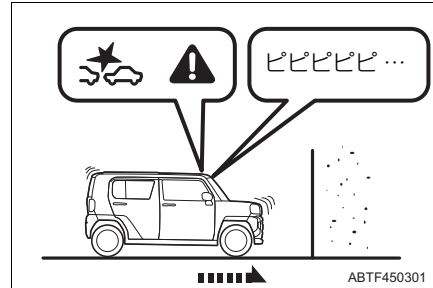
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 106）による運転者への警報とエンジンの出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

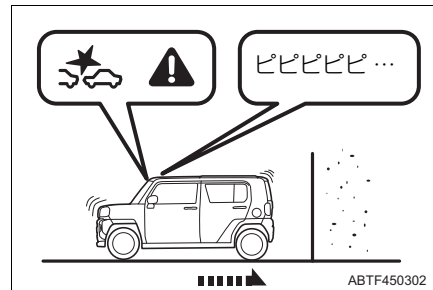
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リヤソナーが後方約 2～3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



⚠ 警告

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナーセンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーのブザーが鳴っていないくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。（→ P. 105）

⚠ 警告

- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 18)

■ ブレーキ制御誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況

次の条件の違いにより、ブレーキ制御誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効が悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効が悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - ・ 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ・ ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
 - ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）

⚠ 警告

- ・障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
- ・障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
- ・障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- ・自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）

- ・背の低い障害物
- ・小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- ・針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- ・急に前方に現れたもの
- ・車両前方を横切るもの
- ・人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- ・地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
- ・凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ・ソナーの認識範囲外に存在する障害物

●ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）

- ・バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
- ・動いているもの
- ・スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
- ・障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
- ・障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- ・壁から柱や配管などが突き出しているとき
- ・認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- ・炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- ・雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ・ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
- ・ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）

⚠ 警告

- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のすれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたととき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のすれが発生したとき

■ ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 106）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

● 後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 106）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

● エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約 8 秒間継続します。

● エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

● ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。

● 停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。



■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 車速が 0 ～ 約 10km/h のとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが D・S・B のとき
 - ・ 機能停止コード「5E」※1、「6E」、「11E」※2、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- 後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが R のとき
 - ・ 機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
- フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき ※3

※1 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※2 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※3 フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ ブレーキ制御について

- ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

■ 衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき



- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレイキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレイキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに作動します。

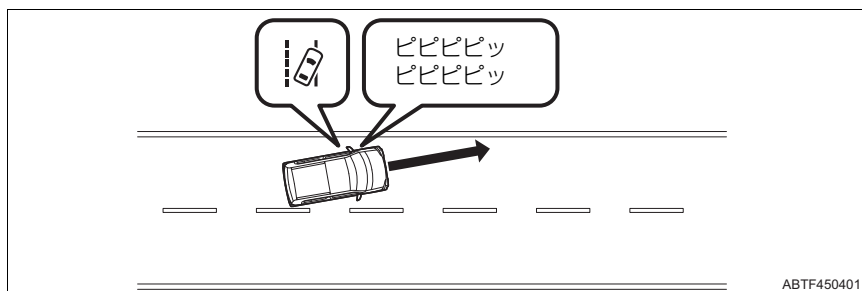
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※を認識し、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者に注意を促します。

車線逸脱抑制制御機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに作動します。

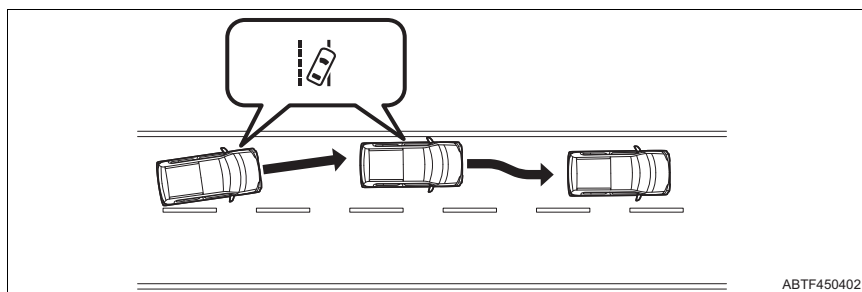
車線逸脱抑制制御機能は車線を認識し、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援し、メーター内の表示灯、またはディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界

▶ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能

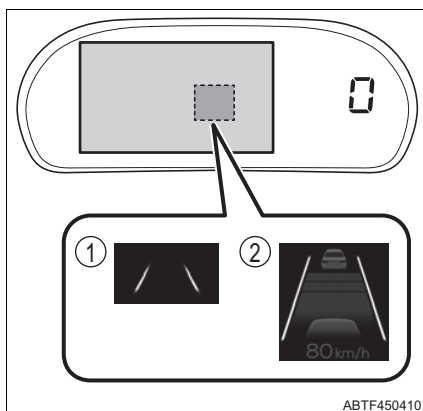


▶ 車線逸脱抑制制御機能



車線認識表示★

- 車速約 50km/h 以上で左右の白（黄）線を認識しているとき点灯します。
 - 車線の逸脱を認識すると、認識している側の表示が点滅します。
- ① 全車速追従機能付 ACC 非作動時
 - ② 全車速追従機能付 ACC 作動時



ABTF450410

⚠ 警告

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能について

- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は、車線・道路※の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能に頼っていると、車線・道路※の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

車線または道路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱抑制制御機能について

車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制制御機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制制御機能が作動しなかったり、制御タイミングが運転者の意思と異なるように感じる可能性があります。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が作動しない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- 方向指示レバーを使用しているとき
- 急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき
- ハンドルに異常な振動を感じる時、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリを取り付けているとき

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能／車線逸脱抑制制御機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき

⚠ 警告

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
 - ・道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - ・坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - ・路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - ・道路がうなって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
 - ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
 - ・車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
 - ・ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・分岐・合流路などを走行するとき
 - ・急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・カーブの形状が変化するとき
 - ・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用後、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・先行車との車間距離が短いとき
 - ・自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
 - ・ステレオカメラが高温になったとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき

⚠ 警告

- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 区画線に急に接近する場合
- 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき

※ アスファルトと草・土などの境界

□ 知識

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 急なハンドル操作をしていないとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱抑制制御機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動していないとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 逸脱側の方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- マルチインフォメーションディスプレイの設定★、または TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定★（→ P. 55）で「車線逸脱抑制」を ON にしているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- シフトレバーが D のとき
- 急なハンドル操作をしていないとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが左右の白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき



知識

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 134）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱抑制制御機能について

- 車線逸脱抑制制御機能は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能にくらべて早いタイミングで作動します。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時にくらべて早いタイミングで作動します。
- 車線逸脱抑制制御機能によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制制御機能が約 7 秒以上続けて作動したときは、ブザーが鳴ります。

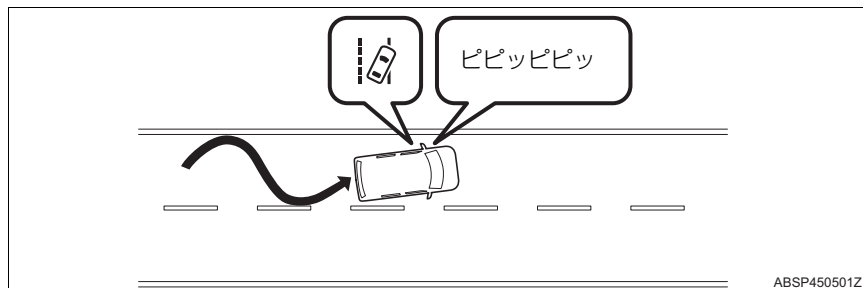
■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断しているときに、車線逸脱抑制制御機能が約 3 分の間に 2 回以上作動したときは、手放し運転警告灯が点灯し、ハンドル保持を促す注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、メッセージが表示されます。
- さらに操作しない状態が続きハンドル操作支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操作支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。
- 運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

ふらつき警報

ふらつき警報は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯、またはディスプレイ表示（→ P. 106）で運転者に注意を促します。



警告

■ふらつき警報について

ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。



知識

■ふらつき警報の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき



- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 5 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき
- LKC ★が作動していないとき

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 135）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ ふらつき警報について

- 車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報が作動しない場合があります。
- ふらつき警報は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

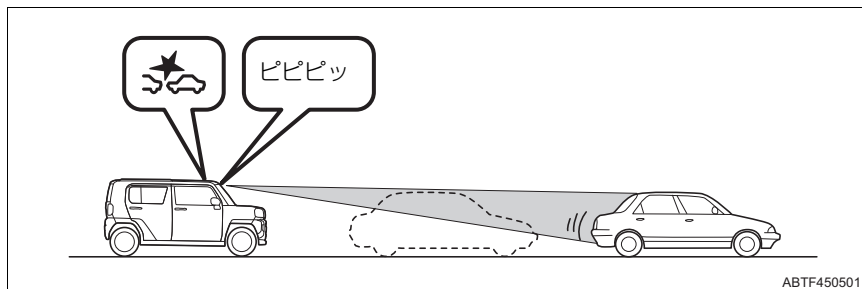
次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用後、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・ 先行車との車間距離が短いとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鉄）や置き石などがあるとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 車線変更をした直後
- 過度な高速走行をしているとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 106）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



ABTF450501

警告

■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■ 先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが「ON」のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- シフトレバーが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- シフトレバーが D・S・B・N でブレーキ保持により車両が停止しているとき
- 停止してから数秒経過したとき

■ 先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合

次のような場合は、先行車が発進していても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車が二輪車・自転車などのとき
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき



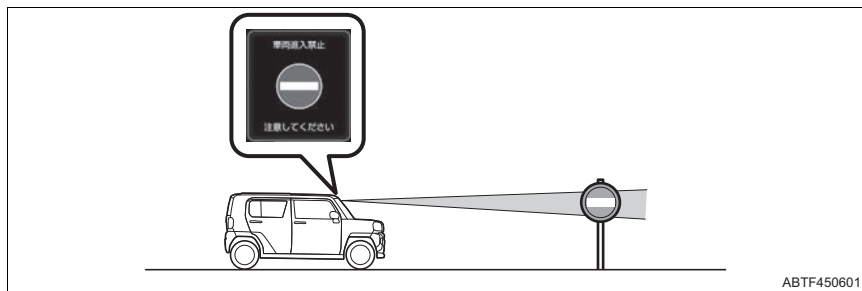
- 車高の低い先行車するとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両[※]、歩行者に接近するとき
 - ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
 - ・ ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
 - ・ 強い光が車両[※]や歩行者、路面に反射しているとき
 - ・ カーブ、うねった道路、坂道のとき
 - ・ 路面に水たまりや水膜があるとき
 - ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 重い荷物を積むなど、前方車両[※]が傾いているとき
 - ・ 先行車が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
 - ・ 暗がりでは先行車のランプが片側のみ点灯しているときや、ランプが無灯火のとき

[※] 二輪車、自転車を含む

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）★

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって特定の道路標識を認識し、ディスプレイ※に表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。状況によっては、道路標識の表示が正常に作動しない場合があります。

※ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は、スマホ連携ディスプレイオーディオまたは純正ナビゲーションの画面に表示されます。



⚠ 警告

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）をお使いになる前に

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者ご自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）に頼らず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。



： 最高速度



： 車両進入禁止



： 一時停止

**■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動条件**

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが「ON」のとき
 - スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
 - 次のいずれかの状態のとき
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 55）で、「標識認識機能」を ON にしているとき
 - ・ スマホ連携ディスプレイオーディオ ※ のシステム設定で「車両インフォメーション表示」を ON にしているとき（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）
- ※ 詳しくはディスプレイオーディオに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
 - 「スマアシ故障」が表示されていないとき
 - 車速が次のとき
 - ・ 車両進入禁止、一時停止：約 60km/h 以下
 - ・ 最高速度：0km/h 以上
 - シフトレバーが D・S・B のとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の作動終了

次の状況になってから一定の時間が経過したときは、標識の表示が消えます。

- ▶ 最高速度
 - 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
 - 右左折などにより走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
 - 補助標識（終わり）を認識したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき
- ▶ 車両進入禁止
 - 車両進入禁止標識を通過したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき
 - 方向指示レバーを操作したとき
- ▶ 一時停止
 - 一時停止標識を通過したとき
 - シフトレバーを D・S・B 以外にしたとき

■ 標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では標識を正確に認識できず、標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 最高速度標識の速度と車速が大きく離れているとき
- 標識の手前で減速したときや、右左折前、右左折後
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 認識対象の標識の色、形、数字に似たものが周辺にある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）
- 補助標識が設置されている場合
- 電光標識に数字が表示されていない場合
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- ステレオカメラが認識にくい状況（特に次のような場合）
 - ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - ・ ステレオカメラが標識を認識する時間が短いとき
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面またはステレオカメラ付近が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき



- ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に標識に接近するとき
- ・ 屋内の駐車場など暗い場所で標識に接近するとき
- ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- ・ 強い光が路面に反射しているとき
- ・ 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・ 前方車両の後ろ部分にステッカーが貼ってあるとき
- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）

● 標識の状態（特に次のような場合）

- ・ 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- ・ 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- ・ 標識の向きが変わっているとき
- ・ 標識が破損しているとき
- ・ 標識のまわりが込み入って見つけにくいとき
- ・ 標識が泥、雪、または霜などで覆われたとき
- ・ 標識の上や下に、規制や条件などを示す補助標識が設置されているとき
- ・ 標識が街灯などの光や建物の影などで見えにくくなっているとき
- ・ 標識が高い位置にあるとき
- ・ 標識が低い位置にあるとき
- ・ 標識が急な上り坂、急な下り坂にあるとき
- ・ 標識が曲がり角やカーブの先にあるとき
- ・ 夜間で標識に自車のヘッドランプの光が届きにくい位置にあるとき
- ・ 標識が自車から遠く離れた位置にあるとき
- ・ 小さいサイズの標識のとき
- ・ 電光標識のコントラストが低いとき
- ・ 電光標識が極端に明るい、または暗いとき
- ・ 側道の標識がステレオカメラの認識範囲内に入ったとき
- ・ トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

● 運転の状況（曲がる・車線変更など）が誤って判断されたとき

● ヘッドランプの汚れなどで照射が弱いときや光軸がずれているとき

■ カスタマイズ機能

標識認識機能（進入禁止／最高速度／一時停止）の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 275）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 55）

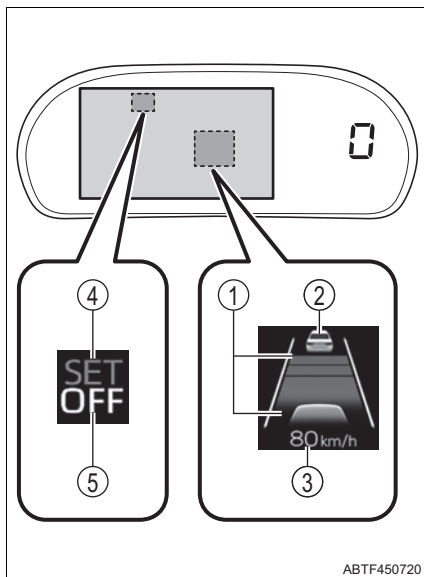
全車速追従機能付 ACC (アダプティブクルーズコントロール) ★

全車速追従機能付 ACC は、アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。
定速制御モードでは、一定の車速で走行を行います。
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

システム構成部品

■ 運転支援表示

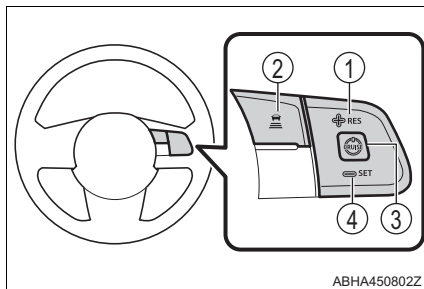
- ① 設定車間
設定された車間距離を表示します。
- ② 先行車表示
車間制御モード作動中に、先行車を認識しているとき表示されます。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 接近警報 (→ P. 148) が作動したとき
 - ・ 先行車を認識なくなり、制御が自動的に解除されたとき
- ③ 設定車速
設定された車速を表示します。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 制御が自動的に解除されたとき
 - ・ 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件 (→ P. 152) を満たさずに－SET スイッチ、または＋RES スイッチを押したとき
- ④ ACC SET 表示灯
車間制御モード、または定速制御モードが作動しているとき表示されます。
- ⑤ ACC OFF 表示灯
機能停止により、作動できないとき点灯します。
次のいずれかのとき点滅します。
 - ・ 制御が自動的に解除されたとき
 - ・ 車間制御モードでシステムをONにしているときに、設定条件 (→ P. 152) を満たさずに－SET スイッチ、または＋RES スイッチを押したとき



ABTF450720

■ 操作スイッチ

- ① + RES スイッチ
- ② 設定車間切り替えスイッチ
- ③ CRUISE スイッチ
- ④ - SET スイッチ



ABHA450802Z

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- 全車速追従機能付 ACC は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
- 設定車速は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定車速の確認は運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付 ACC を使わないときは CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- 全車速追従機能付 ACC を使用するときは、車間制御モード、定速制御モードのどちらのモードが選択されているかをメーター内の表示灯で必ず確認してください。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見運転やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、先行車への追突を防止する機能ではありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 全車速追従機能付 ACC の状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・先行車を認識していても速度差が大きいきや、急減速したとき
 - ・先行車に追従しゆるやかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき
- 料金所や渋滞などの最後尾で停止中の車両に対しては減速しないことがあります。十分注意してください。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。
- 定速制御モードでは、接近警報は作動しません。

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 路面または壁面の模様・ペイントや前方の道路構造物（トンネル、高架橋、交通標識、車両脇に設置された反射器（リフレクター）、反射シート、ガードレール）などで構成される形状が、車両の輪郭の特徴や車両のテールランプの大きさ・位置などと似ている場合、ブレーキ制御や接近警報が作動する場合があります。
- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - ・車両の状態（積載量、乗員など）
 - ・路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - ・車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - ・外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - ・エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
 - ・下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - ・水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- 定速制御モードを使用するときは、十分な車間距離を取ってください。
- 定速制御モードでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

■ 全車速追従機能付 ACC を使用してはいけない状況

次の状況では、全車速追従機能付 ACC を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 接近警報が頻繁に鳴るとき

⚠ 警告

- 歩行者や自転車などが混在している道
- 交通量の多い道
- 一般道（自動車専用道路以外）
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などの滑りやすい路面
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
- 上り／下り坂で勾配変化が激しい坂
 - ・下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
 - ・急な上り／下り坂では、停車保持できない場合があります。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 道路構造物（壁、ガードレール、ポール、縁石など）と、車線が極端に近い道
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）
- 先行車との位置が横にずれているとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき
- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき

■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、ステレオカメラが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルで加速）してください。

- 他車が急に割り込んできたとき
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 先行車が低速で走行中のとき
- 先行車が背景と似た色合いで区別ができないとき
- 先行車が道路標示（道路上の横断歩道、制限速度などの標示）の近くにいるとき
- 先行車が路面の水たまりの付近にいるとき（まわりの風景が水たまりに映り込むなど）
- 先行車が建物や街路樹などの影と重なっているとき
- 先行車と自車の間に水蒸気や煙などがあるとき
- 先行車が次のような車両のとき
 - ・後ろ部分が小さ過ぎる車両（荷物を積んでいないトレーラーなど）
 - ・荷台にあおりが無い空荷のトラックなど
 - ・後端から積荷が飛び出している車両など
 - ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
 - ・バンパー形状などにより、タイヤが見えにくい車両
 - ・リヤタイヤから車両後端までが長い車両
 - ・車高が極端に高い車両
 - ・車高の低い車両
 - ・背面が縦縞、縞、タイル柄など、連続する模様になっている車両
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき

⚠ 警告

- ・フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用前または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
 - ・雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
 - ・ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
 - ・ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
 - 自転車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行または停車しているとき
 - 同じ車線を二輪車が走行中のとき
 - 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
 - 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ほこりなど視界が十分でないとき
 - 自転車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
 - 夕方、朝方の薄暗いとき
 - 自転車バンパーの近い位置に物体があるとき
 - カーブやカーブの出入り口付近、車線幅が狭い道路などを走行する場合
 - ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自転車の位置が一定でない場合
 - 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
 - アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度に戻るとき
 - 白（黄）線がない道路や、白（黄）線がかすれたり汚れたりして見えにくい道路を走行するとき
 - 上り坂から平坦な道または下り坂に変わるとき
 - 下り坂から平坦な道または上り坂に変わるとき
 - 分岐・合流路などを走行するとき

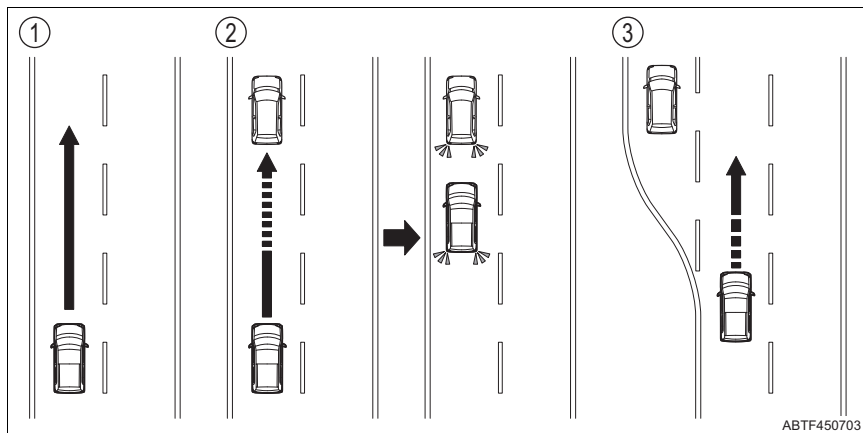
車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、ステレオカメラにより車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

また、設定車間切り替えスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。



① 定速走行：先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

約 30km/h 未満では前方に車両がない場合使用できません。

② 減速走行 — 追従走行：設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。

十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（停車保持）（→ P. 149）。

③ 加速走行：設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

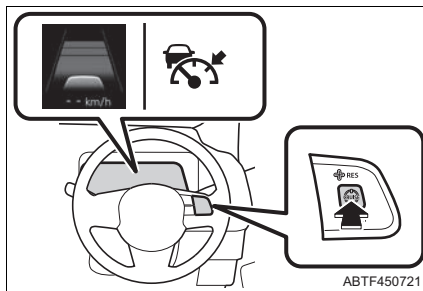
設定速度まで加速し、定速走行に戻ります。

車速を設定する（車間制御モード）

- ① CRUISE スイッチを押して、車間制御モードでシステムを ON にする

- ACC 表示灯が点灯します。
 - 車間設定が表示されます。
 - 設定車速が“— km/h”と表示されます。
- システムを OFF するには再度 CRUISE スイッチを押します。

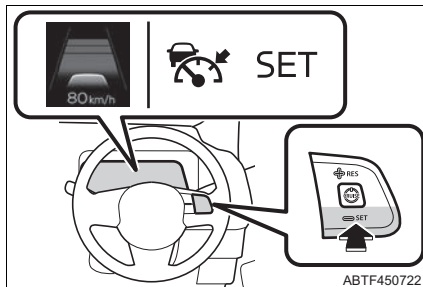
CRUISE スイッチを約2秒以上長押しすると定速制御モードでシステムが ON になります。（→ P. 150）
車間制御モードでシステムを ON にすると、LKC も ON になります。（→ P. 156）



- ② 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、— SET スイッチを押す

設定車速が表示され、制御を開始します。
スイッチを離したときの車速で設定されます。

- ACC SET 表示灯が点灯します。
- 設定車速は 30km/h から設定できます。



設定車速を変える（車間制御モード）

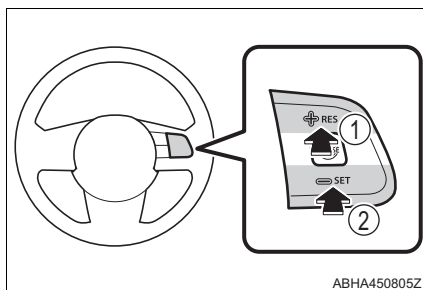
設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで + RES スイッチまたは - SET スイッチを押す
スイッチを操作することにより設定車速の表示が変わります。

- ① 速度を上げる（停車保持時を除く）

- ② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間、5km/h きざみで変化

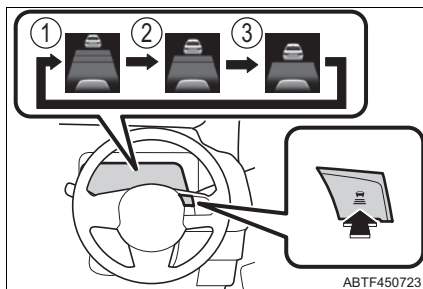
エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速制御モードに切り替えるたびに設定車速はリセットされます。

設定車間を切り替える（車間制御モード）

設定車間切り替えスイッチを押すごとに次のように設定車間が切り替わります。

- ① 長い
- ② 中間
- ③ 短い

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または定速制御モードに切り替えるたびに設定車間は①に戻ります。



設定車間切り替えの目安（車間制御モード）

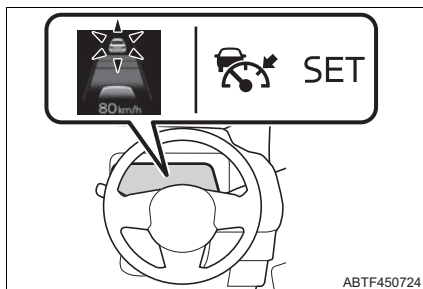
次の目安を参考に車間距離を選択してください。（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、停車保持作動中は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

設定車間選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 25m

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、先行車表示の点滅とブザー、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージで運転者に注意を促します。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 接近警報が作動しないとき

次のような場合は接近警報が作動しないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車のほうが速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 車間制御開始直後
- アクセルペダルを踏んだとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に近付いたとき

車線変更時の補助機能

約 70km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

停車保持について（車間制御モード）

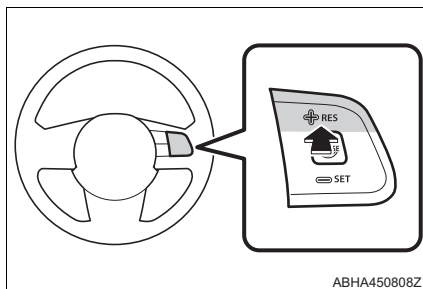
先行車が停止したときは、続いて停止します。

停車保持を最長約 3 分間継続したあと、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。停車保持中にシステムが自動解除されたときに停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。（→ P. 152）

■ 停車保持から追従走行に復帰させるには

先行車の発進後、+ RES スイッチを押すと追従走行に戻ります。

アクセルペダルを踏んでも追従走行に戻ります。



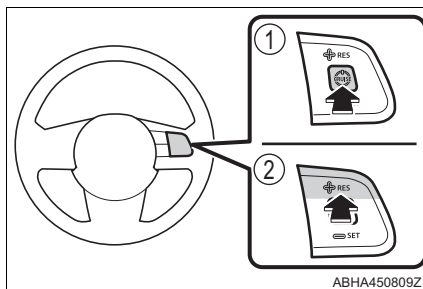
制御を解除する・復帰させる（車間制御モード）

① 制御を解除するには、CRUISE スイッチを押す

- ・ブレーキペダルを踏んだときも解除されます（車間制御モードの停車保持中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）。
- ・エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止したときも自動的に解除されます。
- ・オートブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 47）が点灯しているときは、停車保持中に ACC を解除すると、オートブレーキホールド機能が作動します。

② 制御を復帰するには、CRUISE スイッチを押してシステムを ON にした状態で +RES スイッチを押す

- ・ブレーキペダルを踏んで制御を解除した場合は、CRUISE スイッチの操作は不要になります。



■ 復帰できないとき

次の場合は、制御を復帰させることができません。

- 先行車を認識していない状態で車速が約 30km/h 未満のとき
- CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしたとき
- システムの自動解除条件（→ P. 152）のいずれかを満たしているとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂を走行しているときは、設定車速を超えて走行することがあります。

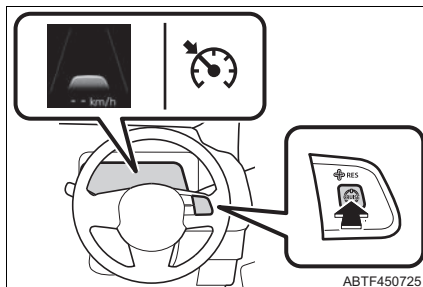
上り坂を走行しているときや、積載量の多い状況では、設定車速までの加速に時間がかかる、または、設定車速まで加速しないことがあります。

車速を設定する（定速制御モード）

- ① CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にする
クルーズコントロール表示灯が点灯し、設定車速が “— km/h” と表示されます。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切り替えが可能です。

システムを OFF するには再度 CRUISE スイッチを押します。



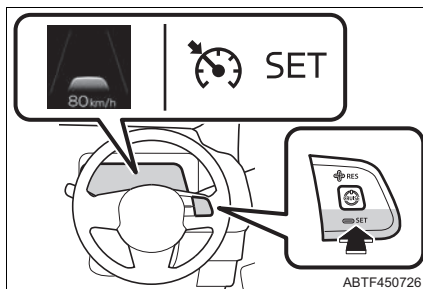
- ② 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、— SET スイッチを押す

設定車速が表示され、制御を開始します。

スイッチを離したときの車速で設定されます。

ACC SET 表示灯が点灯します。

設定車速は 30km/h から設定できます。



設定車速を変える（定速制御モード）

設定車速を変えるには、次の方法があります。

- アクセルペダル、またはブレーキペダルを操作する
- 操作スイッチを押す

■ アクセルペダル・ブレーキペダル操作で変える

設定車速を上げるには、アクセルペダルを踏み速度を上げ、希望の速度になったら－SET スイッチを押します。

設定車速を下げるには、ブレーキペダルを踏み速度を下げ、希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、－SET スイッチを押します。

ブレーキペダルを踏むと、全車速追従機能付 ACC が解除され、ACC SET 表示灯が消灯します。

スイッチを押したときの車速に設定され、新しく設定車速が表示されます。

■ 操作スイッチで変える

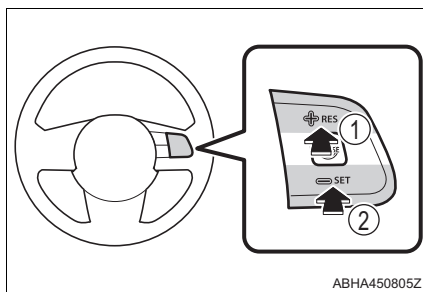
設定車速を変えるには、希望の速度が表示されるまで＋RES スイッチまたは－SET スイッチを押すスイッチを操作することにより設定車速の表示が変わります。

① 速度を上げる

② 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを長押しして速度を変え、希望の速度で手を離す



設定車速は次の通りに増減されます。

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを長押ししている間連続して変化

エンジンスイッチを“ON”にするたび、または車間制御モードに切り替えるたびに設定車速はリセットされます。

車間制御モードと同じ方法で解除・復帰ができます。（→ P. 149）

知識

■ 設定条件について

次の条件をすべて満たしているとき、全車速追従機能付 ACC の制御を開始できます。

- 車速が 0km/h 以上（先行車がないときは約 30km/h 以上）のとき（車間制御モード）
- 車速が約 30km/h 以上のとき（定速制御モード）
- エンジン冷却水温が高過ぎないとき
- 停車中の場合は、次のすべての条件を満たしているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる、または、オートブレーキホールド機能で停車している
 - ・ 運転席シートベルトを着用している
- VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC 表示灯が点灯しているとき（車間制御モード）
- クルーズコントロール表示灯が点灯しているとき（定速制御モード）
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- ACC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（車間制御モード）
- 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき（定速制御モード）
- ACC 警告灯が消灯しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき（停車中を除く）
- シフトレバーが D のとき
- パーキングブレーキが解除されているとき
- 勾配が急な坂道でないとき
- パーキングブレーキ表示灯が消灯しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯しているとき

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。

加速後、車速が設定速度に戻ります。

ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 車速設定後の減速について

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。

- このとき、全車速追従機能付 ACC は解除されます。
- 設定車速が “— km/h” と表示され、ACC SET 表示灯が消灯します。
- 設定車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、— SET スイッチまたは+ RES スイッチを押します。

■ システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に全車速追従機能付 ACC が解除されます。

全車速追従機能付 ACC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消してから、— SET スイッチ、または+ RES スイッチを押して復帰させてください。条件が解消されても設定できないときは、全車速追従機能付 ACC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、タイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 車速が約 25km/h 未満で追従走行中に、先行車を見失ったとき
- 先行車を認識していない状態で、車速が約 25km/h 未満になったとき
- エンジン冷却水温が高過ぎるとき
- 停車保持が作動しているときに、次のいずれかの状態になったとき
 - ・ 運転席ドアが開いたとき
 - ・ 運転席シートベルトを外したとき
 - ・ 全車速追従機能付 ACC により車両が停止したあと、約 3 分経過したとき



- ・ 先行車を見失ったとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- スマートアシスト OFF スイッチを押してスマートアシストを OFF にしたとき
- ACC OFF 表示灯が点灯したとき
- スマートパノラマパーキングアシスト★を作動させたとき
- VSC または TRC が作動したとき
- パーキングブレーキ表示灯が点滅しているとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しているとき
- LKC 警告灯が点灯しているとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 158）が行われてもハンドル操作せず、LKC が自動的に解除されたとき（全車速追従機能付 ACC を復帰させるには、CRUISE スイッチを押してシステムを ON にしてください）
- 次のいずれかのとき（このとき、+ RES スイッチを押しても復帰できません）
 - ・ 先行車を認識していない状態で、車速が設定車速を大きく下回ったとき
 - ・ 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき（車間制御モード）
 - ・ 機能停止コード「2E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき（定速制御モード）
 - ・ ACC 警告灯が点灯したとき
 - ・ 勾配が急な坂道のとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
 - ・ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動したとき
- プラスサポート（販売店オプション）の急アクセル時加速抑制（→ P. 192）が作動したとき

■ 全車速追従機能付 ACC について

- 車間制御モードでは、先行車に合わせた車速で制御されるため、+ RES スイッチを押して、先行車の速度以上に設定車速を上げても加速しません。ただし、設定車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。設定車速は運転支援表示画面の表示を確認しながら変更してください。
- 車間制御モードを設定中にアクセルペダルを踏んでいるときは、車間制御モードによる接近警報を行わず、ブレーキもかけません。
ただし、このときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能による警報や緊急ブレーキが作動することがあります。
- 通常、追従走行中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。ただし、車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。
- 定速走行中であっても、周囲の状況や車両の状態によっては、設定車速通りに走行できないことがあります。

■ ブレーキ作動について

- ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えが変わったりすることがありますが、異常ではありません。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などでは設定車速を保つため、全車速追従機能付 ACC の制御によりブレーキが作動することがあります。

■ カーブ走行中は

設定車速が車速より高いときであっても、加速しない、または減速することがあります。

■ 定速制御モードでシステムを ON にするとき

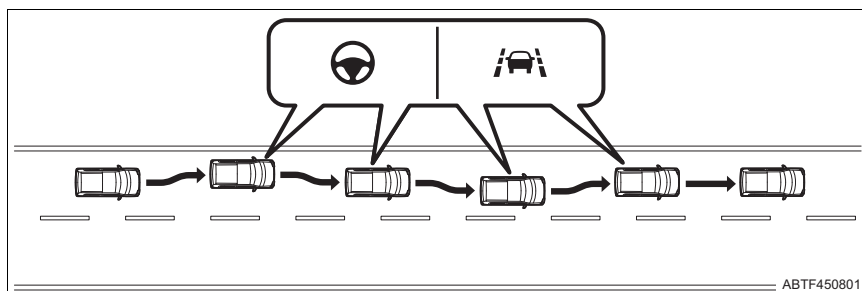
CRUISE スイッチを約 2 秒以上長押しして、定速制御モードでシステムを ON にするとき、スイッチを押した直後は、次の状態になり、その後クルーズコントロール表示灯が点灯し、ACC 表示灯および設定車間が消灯します。

- ACC 表示灯が点灯
- 設定車速が“— km/h”と表示される
- 設定車間が表示される

LKC (レーンキープコントロール) ★

LKC は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白(黄)線を認識し、全車速追従機能付 ACC (→ P. 142) と連携して現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部をシステムが支援します。

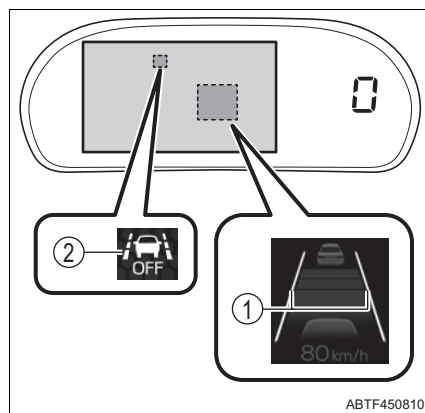
- LKC 作動中は、メーター内の表示灯、ディスプレイの表示 (→ P. 106) で運転者にお知らせします。
- 全車速追従機能付 ACC が作動していないときは、LKC は作動しません。
- 一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、メーターの表示により注意喚起が行われ、機能が解除されます。
- 高速道路や自動車専用道路で使用してください。



ABTF450801

LKC OFF 表示灯 / 車線認識表示

- ① 車線認識表示
車速約 50km/h 以上で左右の白(黄)線を認識しているとき点灯します。
- ② LKC OFF 表示灯
機能停止により、作動できないとき点灯します。



ABTF450810

■ 安全にお使いいただくために

- LKC を過信しないでください。LKC は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を LKC に頼っていると、事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩を取ってください。適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 手放し運転を行うことはできません。運転者は必ずハンドルを持ち、安全運転を心がけてください。

■ LKC を使用してはいけない状況

次の状況では、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定で LKC を OFF にしてください。（→ P. 55）思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 工事区間を走行しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- ハンドルに異常な振動を感じるとき、または通常よりもハンドルが重いと感じるとき
- ハンドルをダイハツ純正品以外に交換、またはハンドルにアクセサリを取り付けているとき

■ LKC が正常に作動しないおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、LKC が適切に作動しないことがあります。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・ 道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
 - ・ 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
 - ・ 車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・ 車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
 - ・ 坂道や丘の頂上に近付いているとき
 - ・ 段差などにより車両が大きく揺れたとき
 - ・ 路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
 - ・ 道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
 - ・ 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
 - ・ 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
 - ・ ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ・ 分岐・合流路などを走行するとき
 - ・ 急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・ 道路の補修跡や雪とアスファルトの境目などがあるとき
 - ・ ガードレールの影などがあるとき
 - ・ 区画線が二重に描かれているとき
 - ・ 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき

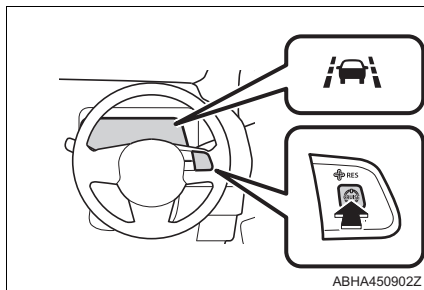
⚠ 警告

- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・先行車との車間距離が短いとき
 - ・自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
 - ・ステレオカメラが高温になったとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイや置き石などがあるとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 隣車線から車が割り込んできたとき
- 路肩に縁石や側壁があるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ほこりなど視界が十分でないとき
- 車線以外の線が路面に描かれているとき

設定のしかた・解除のしかた

■ 設定のしかた

CRUISE スイッチを押して車間制御モードでシステムをONにしているとき、LKCもONになります。
LKC 表示灯が点灯します。



車線中央付近を走行中に作動条件（→ P. 157）をすべて満たすと LKC が作動します。
ハンドル操作が支援されているときは、LKC 表示灯、ハンドル操作支援作動灯（→ P. 154）が点灯します。

■ 解除のしかた

LKC を OFF するには再度 CRUISE スイッチを押します。
LKC 表示灯が消灯します。



■ LKC の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 全車速追従機能付 ACC が車間制御モードで作動していて、設定車速が 60km/h 以上のとき
- LKC 表示灯が点灯しているとき
- ABS、VSC、TRC が作動していないとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動していないとき
- 車線逸脱抑制制御機能が作動していないとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- VSC OFF 表示灯、TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- LKC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- LKC 警告灯が消灯しているとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 55）で「LKC」を ON にしているとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- シフトレバーが D のとき
- 急なハンドル操作をしていないとき
- 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが左右の白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→ P. 158）が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■ システムの一時中断

次のいずれかのとき、自動的に LKC が一時的に中断されます。LKC が一時的に中断されたときは、中断されたときの条件が解消されると自動的に復帰します。条件が解消されても復帰できないときは、スマートアシストの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 車速が約 60km/h 未満になったとき
- 全車速追従機能付 ACC の車間制御モードの設定車速が 60km/h 未満になったとき
- LKC OFF 表示灯が点灯したとき
- 機能停止コード「2E」、「10E」、「11E」、「12E」、「14E」のいずれかが表示されたとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- ブレーキペダルを踏み、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
- シフトレバーを D 以外にし、全車速追従機能付 ACC が解除されたとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 左右いずれかの白（黄）線を認識できなくなったとき
- 走行している車線の幅が約 3m 未満、または約 4m 以上になったとき
- 自車が車線をまたいだとき
- 急なカーブのある道路を走行したとき

■ システムの自動解除

次のいずれかのとき、自動的に LKC が解除されます。LKC が自動的に解除されたときは、解除されたときの条件が解消してから、再度設定操作を行ってください。条件が解消されても設定できないときは、LKC の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- CRUISE スイッチを押してシステムを OFF にしたとき



- スマートアシスト OFF スイッチを押して車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能、車線逸脱抑制制御機能、LKC を OFF にしたとき
- VSC または TRC が OFF になったとき
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定 (→ P. 55) で「LKC」を OFF にしたとき
- LKC 警告灯が点灯したとき
- 手放し運転に対する注意喚起 (→ P. 158) が行われてもハンドルを握って操作しなかったとき
- ABS、VSC、TRC が作動したとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能が作動したとき
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動したとき

■ LKC について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、LKC の作動を感じなかったり、LKC が作動しなかったりすることがあります。
- LKC によるハンドル操作支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- LKC が作動しているときに、手放し運転をしていて走行車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したとき、ブザーが鳴り、車線認識表示の両側が点滅、および車線逸脱警報作動灯が点灯します。
- LKC が作動しているときに、左右の車線に偏る場合は、システムを停止しダイハツサービス工場での点検を受けてください。

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、手放し運転警告灯 (→ P. 232) が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイにハンドル保持を促すメッセージが表示され注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

- LKC 表示灯が点灯しているときに、手放し運転をしているときシステムが判断したとき
 - ・ さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。
 - ・ そこからさらに操作しない状態が続くと LKC が解除されます。
 - ・ 運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。
- 車線逸脱抑制制御機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操作支援中に、手放し運転をしているときシステムが判断したとき (→ P. 135)

■ カスタマイズ機能

LKC を非作動にすることができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 275)

(TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 55)

アイドリングストップシステム (eco IDLE)

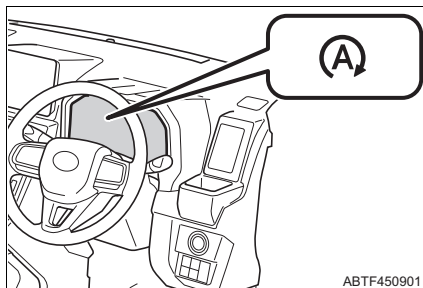
赤信号や交差点などで減速した際、停車前(約 11km/h※)または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

オートブレーキホールド機能(→ P. 87) 作動時も、eco IDLE は作動します。

※ ターボ車以外は約 7km/h

エンジンが停止する

- ① シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると eco IDLE 表示灯が点灯する(→ P. 160)



- ② ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する
eco IDLE 表示灯は点灯したままです。オートブレーキホールド機能が ON のときは、停車後ブレーキが保持され、オートブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する

オートブレーキホールド機能が ON で停止した場合は、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動します。(ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません)

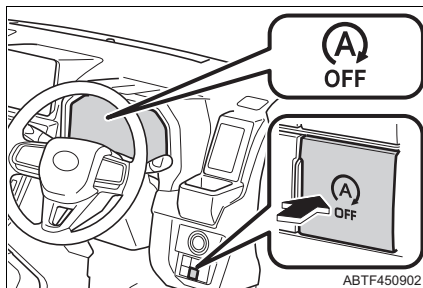
eco IDLE 表示灯とオートブレーキホールド作動表示灯が消灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

- eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。
- eco IDLE が非作動のとき、再度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに (eco IDLE が作動可能状態に戻る)、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

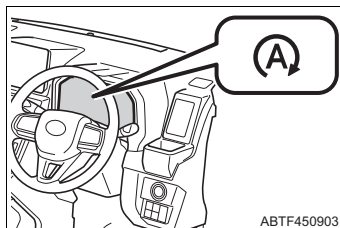
知識

■ eco IDLE の作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき (eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します)
 - ・ エンジンが十分温まっているとき
 - ・ トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
 - ・ エンジン冷却水温が高過ぎないとき
 - ・ エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと
(走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません)
 - ・ バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
 - ・ 外気温が約 0℃ 以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
 - ・ シフトレバーが D のとき
 - ・ スマートパノラマパーキングアシストが作動していないとき（スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
 - ・   が OFF のとき
 - ・ 車内温度が快適なとき（冷房時）
 - ・ システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき
- 次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。
- ・ バッテリーが放電しているとき
 - ・ バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと
 - ・ 冷房初期
 - ・ マルチインフォメーションディスプレイの設定★で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき
 - ・ TFTカラーマルチインフォメーションディスプレイ★でアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 55）

■ eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件がすべて満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。





■ 停車前のエンジン停止条件

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。
 - ・ 車速が約 11km/h 以下（ターボ車）または約 7km/h 以下（ターボ車以外）になったとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ 車幅灯が消灯しているとき
 - ・ フロントワイパーが作動していないとき
 - ・ ハンドルの切れ角が小さいとき
 - ・ 急減速していないとき
 - ・ ABS、VSC が作動していないとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
 - ・ 全車速追従機能付 ACC が作動していないとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）
 - ・ ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき
- 次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道を走行しているとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ ゆるやかに減速しているとき

■ 停車後のエンジン停止条件

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。
 - ・ 停車しているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき（全車速追従機能付 ACC により停止したときを除く（全車速追従機能付 ACC 装着車））
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ ハンドル操作をしていないとき
 - ・ ABS、VSC が作動していないとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- 次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■ エンジン停止中の操作について

- 右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
 - ・ ハンドル操作をする
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押す（→ P. 159）
- エンジン停止中にシフトレバーを D から R 以外にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N または P にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。
 - ・ エンジン停止中にシフトレバーを D から P に操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。
- 給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■ エンジンの再始動について

- エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
 - ・ ブレーキペダルから足を離したとき（シフトレバーが P のとき、またはオートブレーキホールド機能による停車中は除く）
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ ハンドル操作をしたとき



- ・シフトレバーを R にしたとき
- ・シフトレバーを N または P にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
- ・eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- ・スマートパノラマパーキングアシストを起動したとき（スマートパノラマパーキングアシスト装着車）
- ・パーキングブレーキを解除したとき
- ・全車速追従機能付 ACC 作動中の eco IDLE によるエンジン停止時に + RES スイッチを押す、または先行車が発進したとき（全車速追従機能付 ACC 装着車）

- ・  を押したとき

- ・運転席ドアを開けたとき
- ・運転席シートベルトを外したとき

●エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）

- ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
- ・バッテリーの放電量が多いとき
- ・傾斜などで車両が動き出したとき
- ・停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
- ・警告灯が点灯（→ P. 229）、警告メッセージ★（→ P. 234）が表示されるなど、各システム（エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング・スマートパノラマパーキングアシスト★）に異常が発生したとき
- ・冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき
- ・エンジン停止してから約 3 分経過したとき

●エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★（→ P. 241）が表示され、エンジンが自動的に再始動します。

●次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。

- ・外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
- ・電装品などの消費電力が大きいとき
- ・マルチインフォメーションディスプレイの設定★で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき
- ・TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★でアイドリングストップの設定を「空調」にしているとき（→ P. 55）

●オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。

●エンジンが再始動すると、アクセサリソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■ eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態に戻ります。

■ ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。

エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ ヒルスタートシステムについて

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがありますが、異常ではありません。
 - ・ブレーキペダルの踏み応えが変わる
 - ・ブレーキペダルが振動する
 - ・ブレーキから音が発生する



■ オートブレーキホールド機能作動時の eco IDLE の作動について

eco IDLE によりエンジンが自動的に再始動してもオートブレーキホールド機能によるブレーキ保持は継続します。

■ eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■ 警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅、および警告メッセージ★(→ P. 234) が表示されます。

- 運転席ドアが開いたとき (シフトレバーが P 以外)
- 運転席シートベルトを外したとき (シフトレバーが P 以外)
- ボンネットが開いたとき※

※ ボンネットが開いたときは、警告メッセージ★が表示されません。

■ eco IDLE OFF 表示灯が点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★(→ P. 241) が表示されたままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅、および「アイドリングストップ故障」の警告メッセージ★(→ P. 241) が数秒間表示されたときは

バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン停止中のエアコンについて

● エンジン停止中はエアコン (冷房、除湿機能) がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

● AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。

■ エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。



FRONT

を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 267

■ eco IDLE を正常に作動させるために

● 次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★(→ P. 242) が表示されたとき
- 運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない、および TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「シートベルトを装着してください」の警告メッセージ★(→ P. 242) が表示されないとき

▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車

- 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき



▶ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車

- 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ（→ P. 242）が表示される、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイに「開いています」の警告メッセージ（→ P. 242）が表示されない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

● バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

 警告

■ eco IDLE が作動しているとき

- eco IDLE によるエンジン停止中（eco IDLE 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（オートブレーキホールド機能による停車中と全車速追従機能付き ACC ★ の停車保持中は除く）

エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）

次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ブレーキペダルから足を離す（オートブレーキホールド機能による停車中と全車速追従機能付き ACC ★ の停車保持中は除く）
- 運転席ドアを開ける
- 運転席シートベルトを外す

- エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。

- ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。

- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。

お車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。

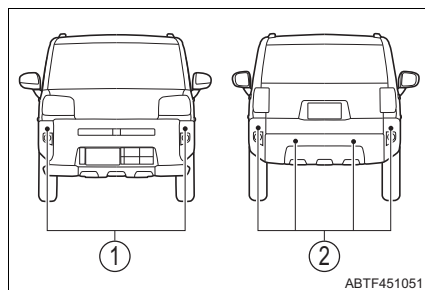
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

ソナーの位置・種類

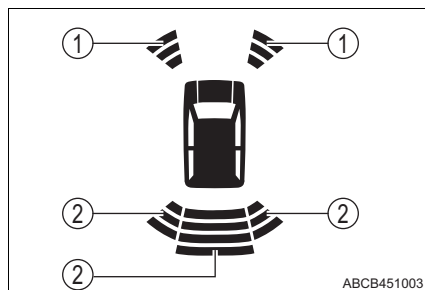
- ① フロントソナー
フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。
- ② リヤソナー
リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。



コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

- ① フロントコーナーセンサー作動表示
- ② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

●障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表の通り変化します。

ブザー	ディスプレイの表示		ソナーと障害物との距離
	マルチインフォメーションディスプレイ装着車	TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車	
ピッ … ピッ … ピッ … (断続音)			約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ … (断続音)			約 60 ～ 45cm
ピピピ … (断続音)			約 45 ～ 30cm
ピー (連続音)			約 30cm 以内

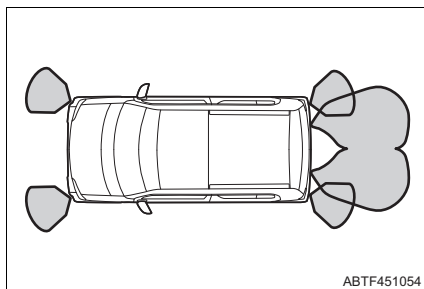
●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。

ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。

障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。

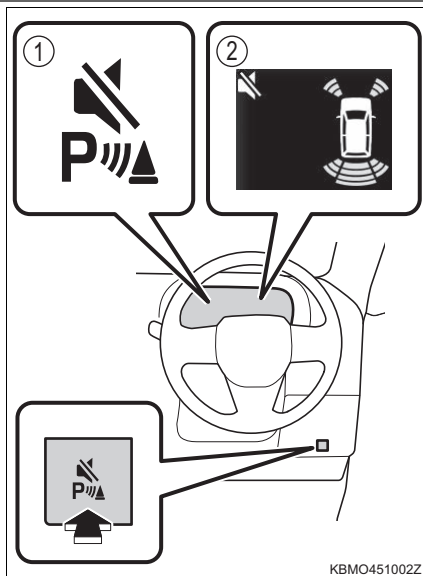


ABTF451054

ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザーOFFスイッチを押すと、ブザーが止まります。このとき TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車はコーナーセンサーブザーOFF表示灯が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車はブザーOFFを示すアイコンが表示されます。

- ① TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車
- ② TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON”のとき
 - ・ シフトレバーがP以外で、車両の速度が約10km/h以下のとき
- リヤコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON”のとき
 - ・ シフトレバーがRのとき
- 作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ ブザーについて

コーナーセンサーブザーOFFスイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

- コーナーセンサーブザーOFFスイッチを押す
- シフトポジションを切り替える
- 一定以上の車速で走行する
- 一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にする

■ ソナーの認識について

- ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

■ ブザーが「ビビビ、ビビビ、ビビビ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方1か所表示されるか、前方2か所または後方2か所同時に表示されたときは※

- コーナーセンサーの機能が低下しています。
コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。



知識

- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、状態により「ソナーセンサー機能低下」、「ソナーセンサー故障」の警告メッセージが表示されます。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含まれます。

■ コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレイキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 275）

（マルチインフォメーションディスプレイ★の設定画面から変更可能）

（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★の設定画面から変更可能：→ P. 53）

警告

■ コーナーセンサーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けないでください。
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「ソナーセンサー機能低下」の警告メッセージが表示された場合、ソナーの状態を確認してください。雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないのに警告メッセージが表示されている場合は、コーナーセンサーの異常が考えられますのでダイハツサービス工場点検を受けてください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）

⚠ 警告

- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スベアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・ 背の低い障害物のとき
 - ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき
 - ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
 - ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
 - ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
 - ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

⚠ 注意**■ コーナーセンサーの異常について**

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 230, 251）

■ 洗車時の注意

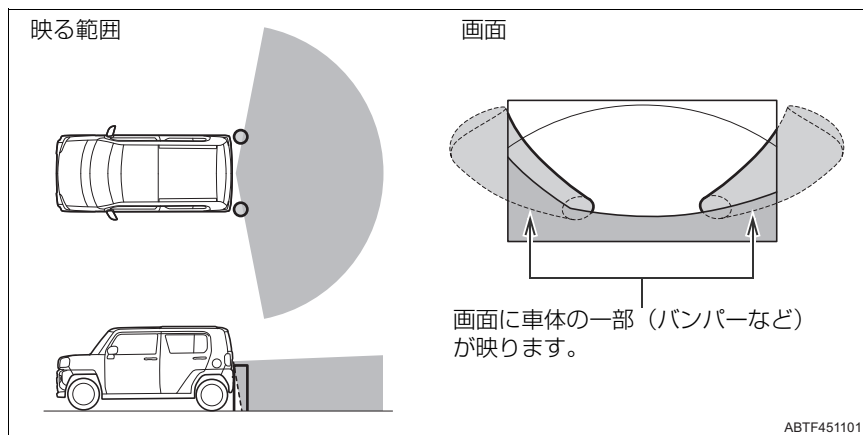
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



- 車や路面の状況により、映る範囲は異なる場合があります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

⚠ 警告

■ バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なる場合があります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・坂道など平坦でない路面

⚠ 警告

- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

パノラマモニター★

パノラマモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成してディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムの画面上に表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

画面を左右2分割して表示し、左側にトップビュー、右側にはフロント、リヤビューが表示されます。また、レフト&ライトサイドビューやレフトサイド&リヤビュー、フロントワイドビュー、リヤワイドビューでも、車両周辺の障害物を確認できます。

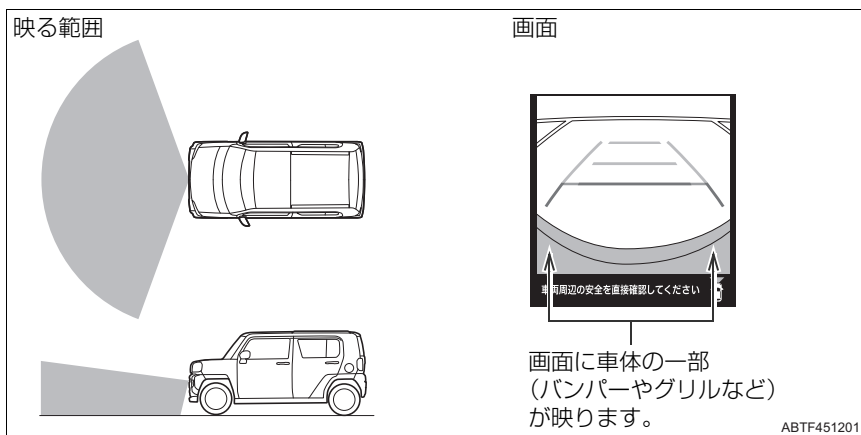
画面の映像、映る範囲はビューによって異なります。(→ P. 171)

詳しくはディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書をご覧ください。

パノラマモニターの注意点について

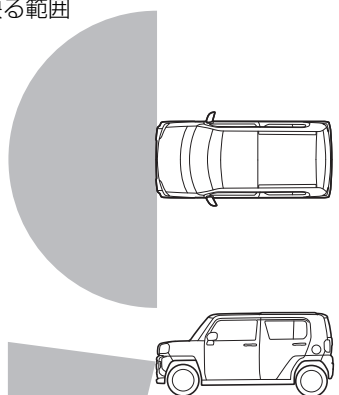
■ 画面の映る範囲について

▶ フロントビュー

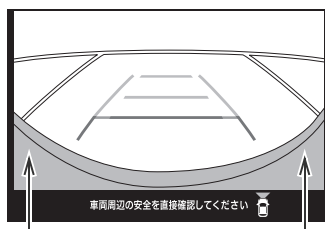


▶フロントワイドビュー

映る範囲



画面

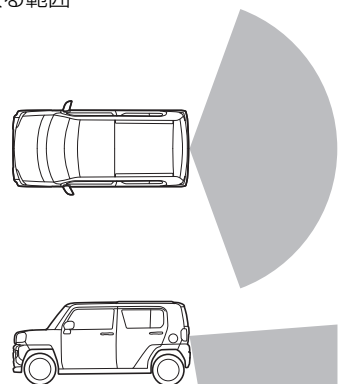


画面に車体の一部
(バンパーやグリルなど)
が映ります。

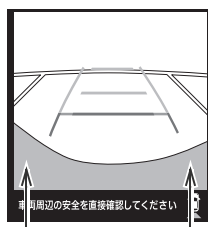
ABTF451202

▶リヤビュー

映る範囲



画面

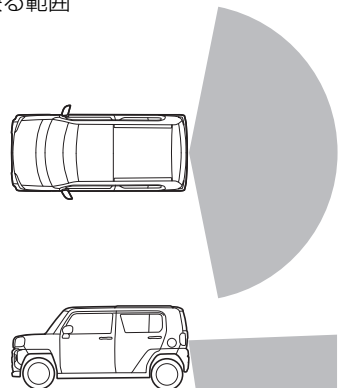


画面に車体の一部
(バンパーなど) が
映ります。

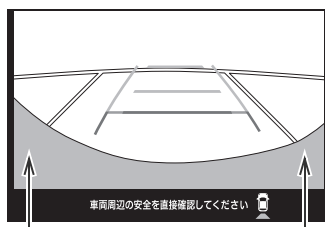
ABTF451203

▶リヤワイドビュー

映る範囲



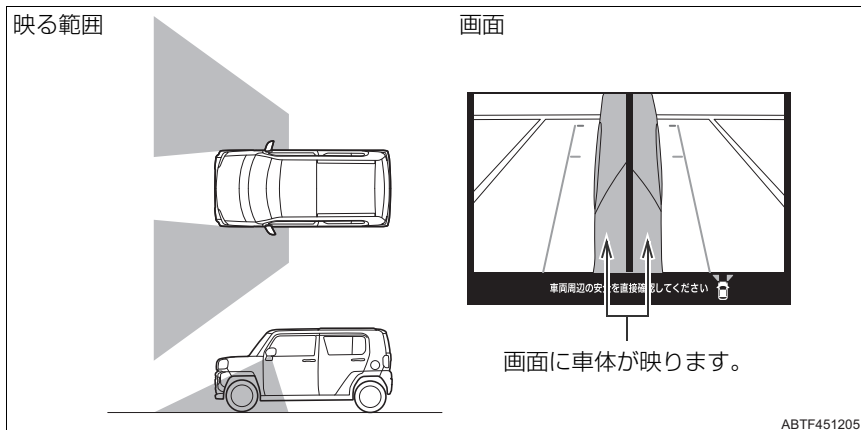
画面



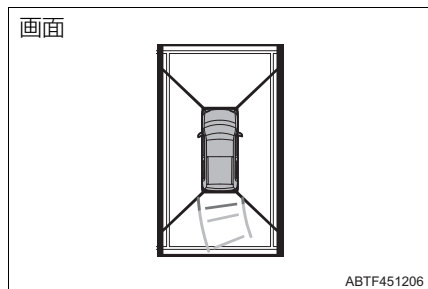
画面に車体の一部
(バンパーなど) が
映ります。

ABTF451204

▶ サイドビュー



▶ トップビュー



- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

⚠ 警告

■ パノラマモニターについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パノラマモニターを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。

画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。

⚠ 警告

- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ フロントドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
 - ・ ドアミラーを格納しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

スマートパノラマパーキングアシスト★

パノラマモニター★を用いて駐車を補助するシステムです。パノラマモニターの項目の内容も併せてお読みください。(→ P. 171)

ハンドルを自動で操作することにより、設定した目標駐車枠への駐車を補助します。(シフトレバー操作および前進・後退時の速度調整は自動で行いません)

- スマートパノラマパーキングアシストは駐車時のハンドル操作をアシストするものであり、自動駐車システムではありません。周囲の安全確認と、車両のシフトレバー操作、アクセルペダル、ブレーキペダル操作は運転者が行ってください。
- 設定した目標駐車枠に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車枠までの距離などにより、設定した目標駐車枠に到達できない場合があります。

⚠ 警告

■ スマートパノラマパーキングアシストについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スマートパノラマパーキングアシストを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながらゆっくり前進、または後退してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで停車を行いません。目標駐車枠、前進開始枠、後退開始枠では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムで障害物検知を行いません。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。
- スマートパノラマパーキングアシストはシステムでシフトレバー操作を行いません。アシストを終了したあとは、必ず運転者自らお車を停止しシフトレバーをPにしてください。
- スマートパノラマパーキングアシストによるアシストが必要なくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。システムが作動状態のままだと自動でハンドルが操作され、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 画面だけを見ながら前進、または後退することは絶対にしないでください。画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあり、お車をぶついたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で前進、または後退してください。
- 駐車枠のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しするか、画面の[中止]を選択してアシストを中止してください。
 - ・ 緊急時以外は自動で回転しているハンドルを握らないでください。
- 前進、または後退するときは、車速が出過ぎないように注意しながらブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、ゆっくり前進、または後退してください。

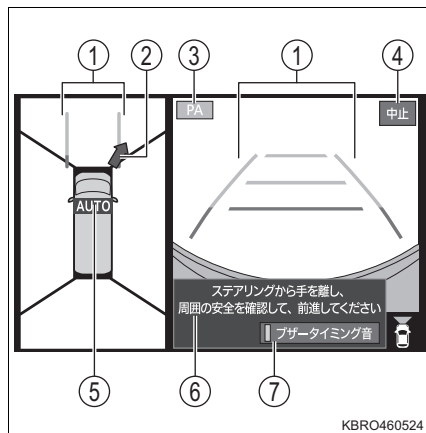
⚠ 警告

- システムが目標駐車枠まで移動ができないと判断した場合、アシストを中止することがあります。運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の [中止] を選択してアシストを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車枠にお車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 障害物などがあり後退開始枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んで障害物の手前で車両を停止させ、シフトレバーで進行方向を切り替えてください。システムが経路の再計算を行います。
 - ・ 周囲の状況によって、経路の再計算が行われず、「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われるときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の [中止] を選択してアシストを中止してください。
- 障害物などがあり目標駐車枠に到達できない場合は、ブレーキペダルを踏んでお車を停止させ、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の [中止] を選択してアシストを中止し、運転者自らハンドルを操作して駐車するか、適切な位置に車両を移動させてください。
- 次のような状況では使用しないでください。
 - ・ 人や車両などの通行量が多い場所
 - ・ 停車および駐車が禁止されている場所
 - ・ 車両が入らないほど狭い場所
 - ・ 駐車場以外の場所
 - ・ 駐車枠が斜めになっている場所
 - ・ 通路幅が狭い (約 4.0m 以下) 場所
 - ・ 穴や溝などがあるような場所
 - ・ 傾斜地や段差、縁石、わだちなどのある平坦ではない路面
 - ・ 急な勾配のある場所
 - ・ 砂地や砂利道などの整備されていない路面
 - ・ 雪や凍結などでスリップしやすい路面
 - ・ 機械式駐車場や駐車場所に障害物などがある場所
 - ・ ダイハツ純正品以外のタイヤを装着しているとき
 - ・ スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・ タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・ けん引フックなどの車両の全長や幅が変化するものを取り付けているとき
 - ・ カメラが正常に取り付けられていないとき
 - ・ カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
 - ・ 画面に映し出されている映像が汚れや太陽光、影などで見にくいとき
 - ・ いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
 - ・ ドアミラーを格納しているとき
 - ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 周囲の車両が駐車枠からはみ出しているとき
 - ・ 駐車動作を行う範囲、駐車枠内、枠線上に障害物があるとき
 - ・ 車両を改造・架装したとき
- アシスト中にガイダンスが行われなくなったときは、カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しするか、画面の [中止] を選択してアシストを中止し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ パノラマモニターについて

→ P. 173

アシスト画面について



KBRO460524

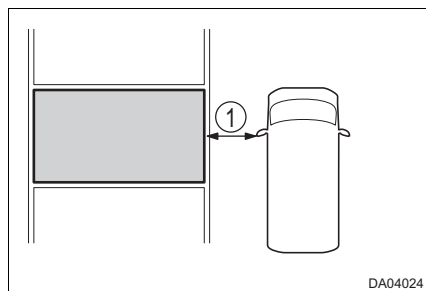
- ① 予想進路線
- ② 進行方向アイコン
停止位置が画面上に表示されていないとき、その方向を示します。
- ③ PA アイコン
スマートパノラマパーキングアシストが作動しているとき表示されます。
- ④ 中止アイコン
選択すると、アシストを中止します。
- ⑤ AUTO アイコン
アシスト中であることを示します
- ⑥ ガイダンス
システムの作動状態、運転者への操作案内を表示します。表示内容に従って操作を行ってください。
- ⑦ 停止位置接近ブザー切り替え
選択することにより、停止位置接近ブザー（→ P. 190）を ON / OFF できます。

アシストを開始する

- ① 駐車枠から約 1m の間隔 (①) をあけて、駐車枠の中央が真横に見える位置で並行に停車する

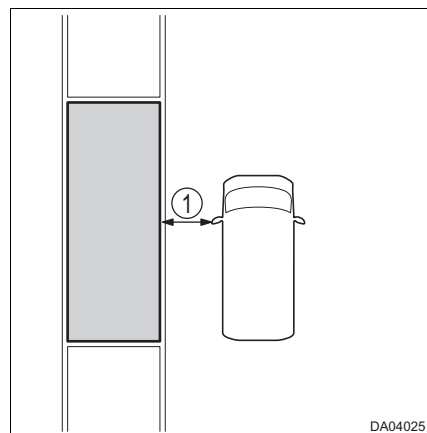
- ・ 手順 ④ が終わるまでは、ブレーキペダルを踏み続けてください。
- ・ 画面は並列駐車为例として説明します。

▶ 並列駐車の場合



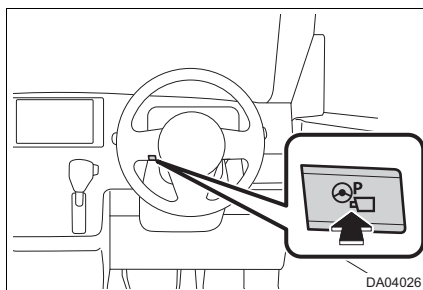
DA04024

▶ 縦列駐車の場合

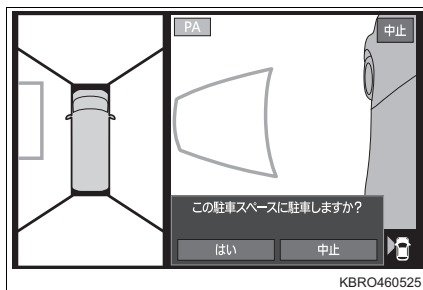


DA04025

- ② カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しする
 駐車枠が検知されると“駐車枠提案画面”が表示されます。
 駐車枠を検知できない場合はアシストを中止します。
 手順①からやり直してください。



- ③ “駐車枠提案画面”に表示された駐車枠から、好みの駐車枠で [はい] を選択する
 表示された駐車枠が車両を駐車できる十分な広さであり、駐車可能な場所であることを確認してください。
 [別スペース] を選択すると、反対側の駐車枠が表示されます。
 経路の計算が完了すると、“周囲状況確認画面”が表示されます。
 選択した駐車枠により、駐車位置までの経路と前進・後退を繰り返す回数が変わります。
 [中止] を選択すると、アシストを中止します。



▶ 縦列駐車の場合は

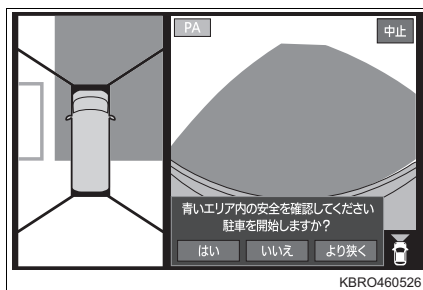
[狭く] または [広く] を選択することで、駐車枠の大きさを調整することができます。

- ④ “周囲状況確認画面”に表示された青いエリア内に壁や障害物がないことを確認して、[はい] を選択する
 必ず直接確認してください。
 アシストが開始されると、ハンドルが自動的に回転します。[はい]、[いいえ] を選択する前に正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離してください。

・ハンドルは常に握れるようにしておいてください。
 [いいえ] を選択すると、アシストを中止します。

▶ 並列駐車の場合は

[より狭く] または [より広く] を選択することで、エリアの大きさを調整することができます。

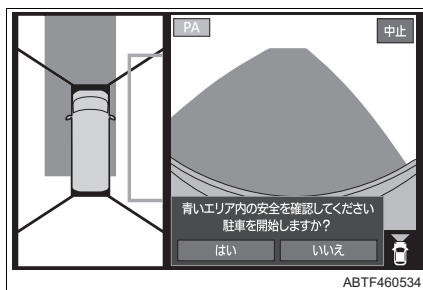


▶縦列駐車の際は

5 ガイダンスに従ってゆっくり前進する

正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、前進してください。

- ・車速が約 5km/h を超えないようにしてください。ハンドルは自動で動きます。
- ・ハンドルは常に握れるようにしておいてください。

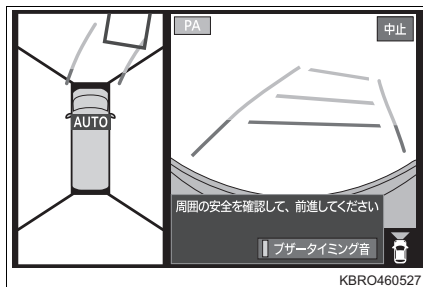


6 ガイダンスに従って、停止位置（後退開始枠内）で停止する

「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。

停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「前進してください」とガイダンスが行われます。停止位置を通り過ぎたときは、アシストを中止します。停止位置から離れたところで停止したまま、シフトレバーを D・S・B 以外にすると、経路の再計算が行われます。

- ・経路の再計算が完了すると、アシストを継続します。
- ・経路の再計算ができなかったときは、アシストを中止します。



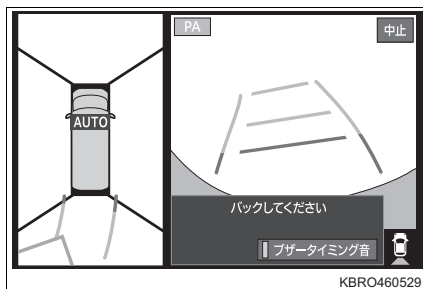
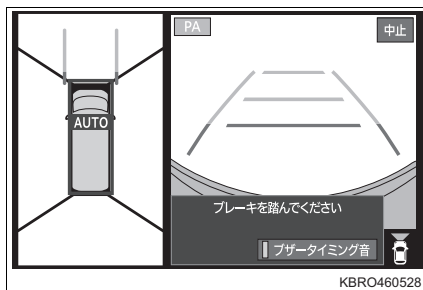
7 「シフトを R に切替えてください」とガイダンスが行われたら、シフトレバーを R にする
シフトレバーを R にしないまま約 60 秒経過すると、アシストを中止します。

8 ガイダンスに従って、ゆっくり後退する

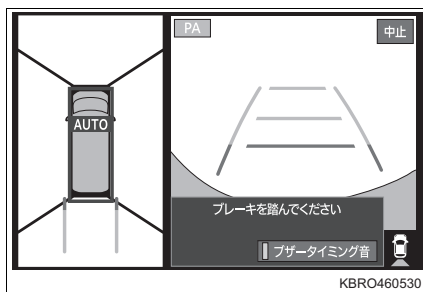
正しい運転姿勢を取り、ハンドルから手を離し、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、後退してください。

- ・車速が約 5km/h を超えないようにしてください。ハンドルは自動で動きます。
- ・ハンドルは常に握れるようにしておいてください。目標駐車枠に一度で入りきらない場合は、手順 5 から

9 を繰り返す場合があります。



- 9 ガイダンスに従って、停止位置（目標駐車枠内）で停止する
「ブレーキを踏んでください」とガイダンスが行われたら、ブレーキを踏んでください。
停止したとき、停止位置に近付く必要がある場合は、「バックしてください」とガイダンスが行われます。
お車が目標駐車枠内に入ると、アシストを終了します。
お車から降りるときは、シフトレバーがPであることを確認してください。



スマートパノラマパーキングアシストが起動しない

次の状態のときは、スマートパノラマパーキングアシストが起動しません。

- 車両が完全に停止していないとき
- 装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムが起動中のとき
- 「駐車支援機能が使えません」のメッセージが表示されているとき
- シフトレバーがD・S・B以外のとき
- パーキングブレーキがかかっているとき
- ハンドルがまっすぐになっていないとき
- いずれかのドアが確実に閉まっていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- バッテリー脱着直後

アシストを中止する

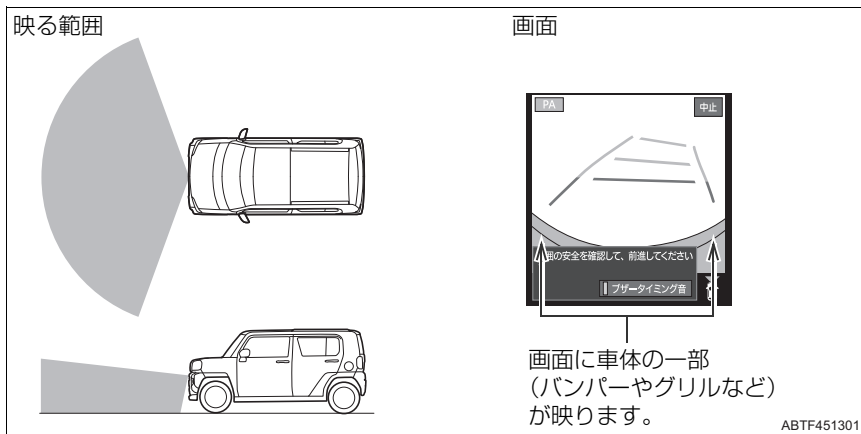
- 駐車枠を検知しているとき（「駐車枠提案画面」表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。
 - ・車両が動いたとき
 - ・シフトレバーをD・S・B以外にしたとき
 - ・ハンドルを操作したとき
 - ・画面の「中止」を選択したとき
 - ・カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- アシスト開始前（「周囲状況確認画面」表示中）、次のいずれかの状態になると、アシストを開始できず、アシストを中止します。
 - ・車両が動いたとき
 - ・シフトレバーをD・S・B以外にしたとき
 - ・ハンドルを操作したとき
 - ・画面の「中止」を選択したとき
 - ・カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししたとき
- アシスト中、次のいずれかの状態になると、アシストを中止します。
 - ・車速が約5km/hを超えたとき
 - ・停止位置が大きくずれたとき
 - ・停止位置の手前での停車、または停止位置を通り過ぎての停車を繰り返したとき
 - ・前進しているときに、シフトレバーをD・S・B以外にして車両が動いたとき
 - ・後退しているときに、シフトレバーをR以外にして車両が動いたとき
 - ・ハンドルを操作したとき
 - ・後退を9回以上繰り返したとき
 - ・画面の「中止」を選択したとき

- ・カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししたとき
- ・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動したとき
- ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使用できなくなったとき
- ・急発進、急停止などにより駐車経路を大きく逸脱したとき
- ・ハンドルを大きく切った状態で急発進・急停車したとき
- ・経路の再計算中に車両が動いたとき
- ・「シフトを D に切替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを D・S・B にしなかったとき
- ・「シフトを R に切替えてください」とメッセージが表示されてから、約 60 秒間シフトレバーを R にしなかったとき
- ・「前進してください」、または「バックしてください」とメッセージが表示されてから、約 30 秒間車両を動かさなかったとき
- ・アシスト開始時にブレーキ保持が解除されないとき

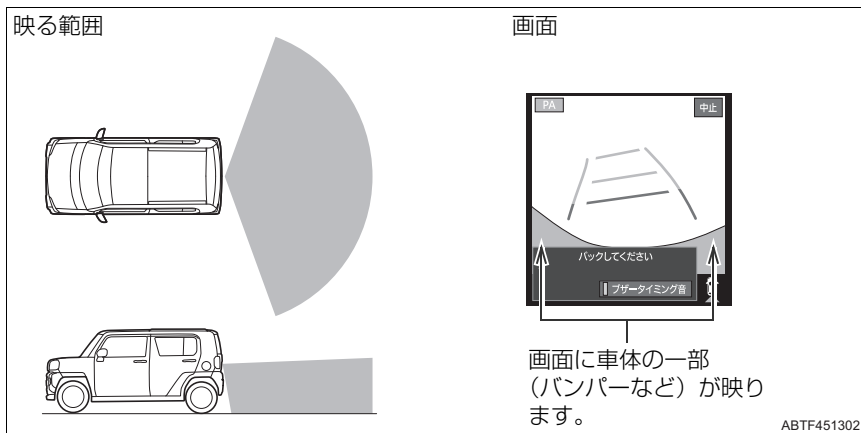
使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

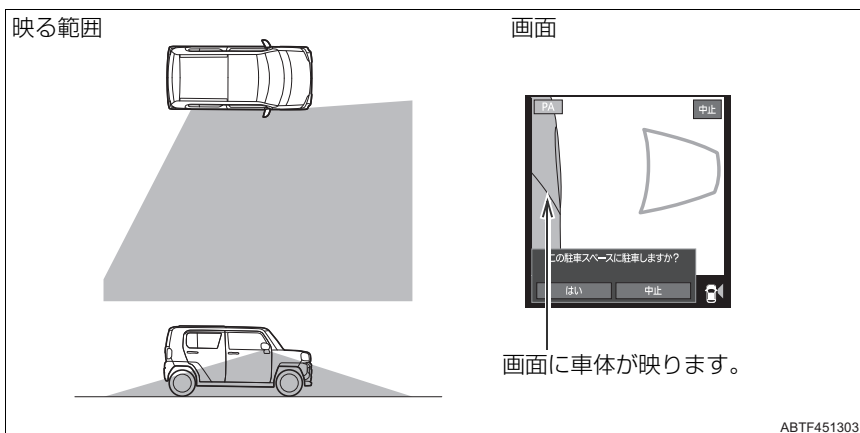
▶ フロントビュー



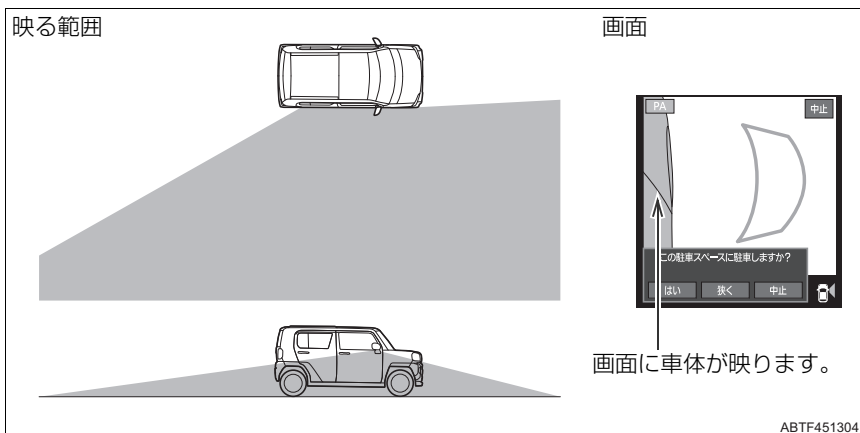
▶ リヤビュー



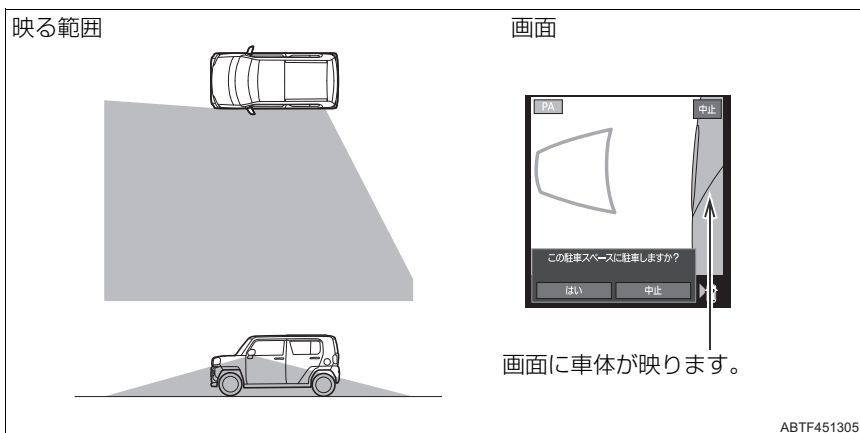
▶ ライトサイドビュー（並列駐車時）



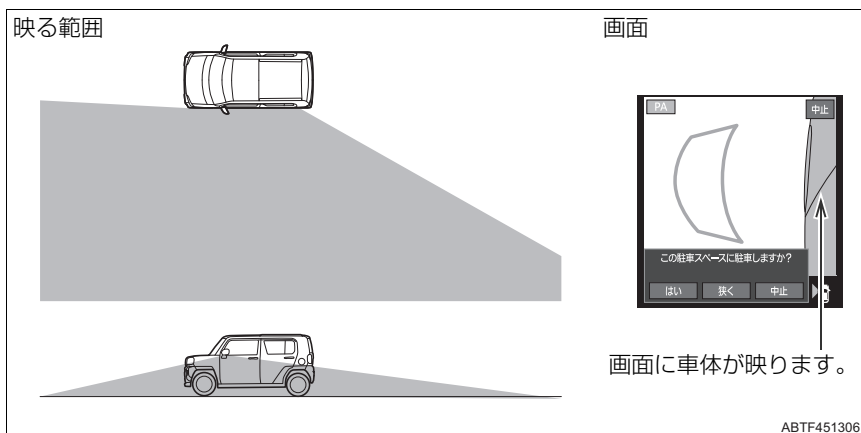
▶ ライトサイドビュー（縦列駐車時）



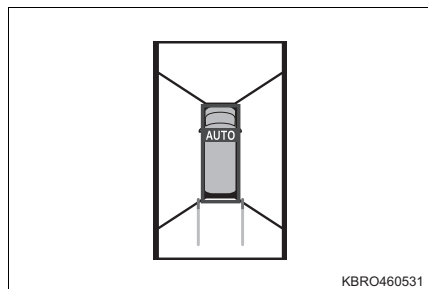
▶ レフトサイドビュー（並列駐車時）



▶ レフトサイドビュー（縦列駐車時）



▶ トップビュー

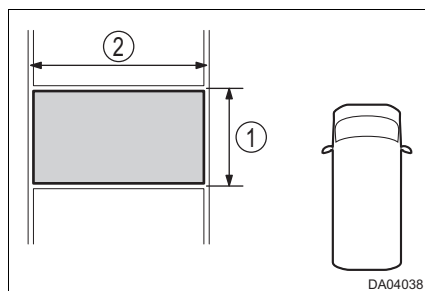


- トップビューは、フロントカメラ、サイドカメラ（左右）およびバックカメラからの映像を組み合わせ処理した疑似的な画像のため、障害物を実際より遠くに表示します。
- 乗車人数、積載量、路面の勾配の状況などにより、映る範囲は異なることがあります。
- パノラマモニターの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。また、トップビューは、カメラ映像の境界付近、カメラより高い位置にあるものが映らない場合があります。
- カメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- パノラマモニターの映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラ装着車には、字光式ナンバープレートを取り付けることができません。

■ 並列駐車時の駐車枠について

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

- 間口約 2.0m ～ 3.5m (①) の駐車枠
- 奥行き約 3.6m ～ 6.0m (②) の駐車枠

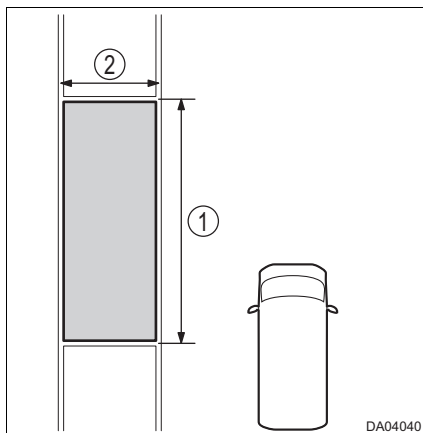


- 長方形の駐車枠
- 区画線の太さが約 15cm の駐車枠
- 区画線が白色の駐車枠

■ 縦列駐車時の駐車枠について

次のような駐車枠が標準的な対象駐車枠です。

- 間口約 5.0m ～ 5.7m (①) の駐車枠
- 奥行き約 2.0m (②) の駐車枠



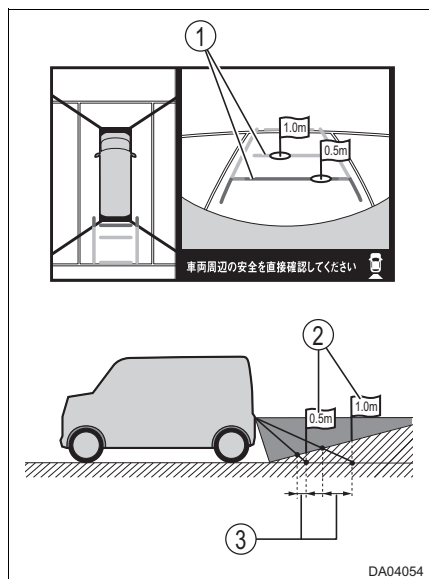
- 長方形の駐車枠
- 区画線の太さが約 15cm の駐車枠
- 区画線が白色の駐車枠

■ 画面と実際の路面との誤差について（リヤビュー、リヤワイドビュー）

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、次の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

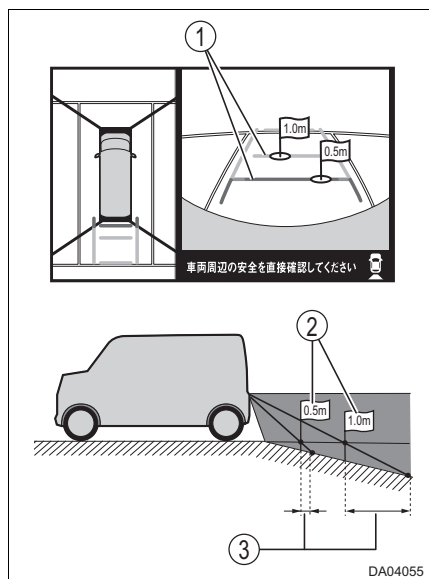


- ① 距離目安線
- ② 実際の距離
- ③ 誤差

DA04054

● 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離より後ろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は実際より近くにあるように見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。

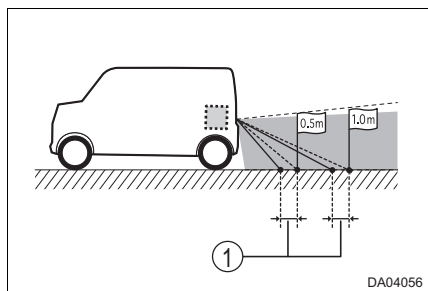


- ① 距離目安線
- ② 実際の距離
- ③ 誤差

DA04055

●お車が傾いているとき

乗車人数、積載量などによりお車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。



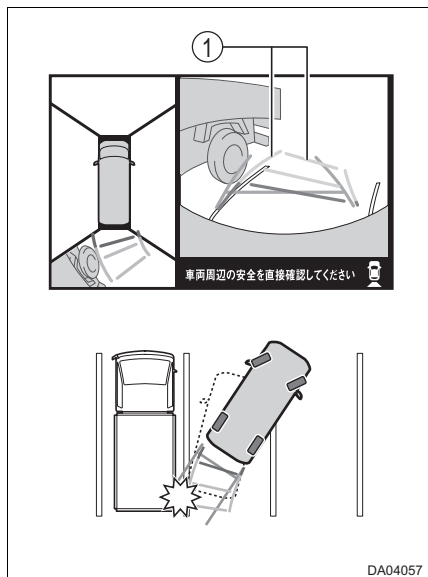
① 誤差

■ 立体物が近くにあるとき（フロントビュー、ワイドフロントビュー、リヤビュー、リヤワイドビュー）

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することができません。張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、次のことに注意してください。

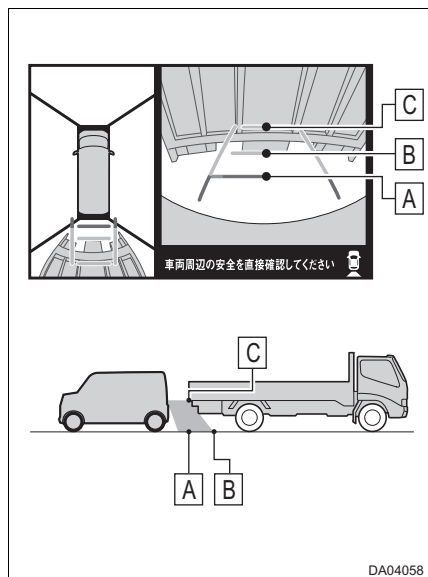
●予想進路線について

周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。



① 予想進路線

●距離目安線について



周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線より B の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には A の位置まで前進、または後退すると、ぶつかります。画面では A、B、C の順に近く見えますが、実際の距離は A と C は同じ距離で、B は A と C より遠い距離にあります。

メッセージについて

スマートパノラマパーキングアシストが起動できないときや、アシストを中止したときは、次のメッセージが表示されます。表示をもとに適切に対処してください。

ただし、同じメッセージが繰り返し表示される場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ システム起動時

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
シフトを D に切替えてください	シフトレバーが D・S・B 以外にある → シフトレバーを D (または S・B) にして、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。
パーキングブレーキを解除してください	パーキングブレーキをかけたままにしている → パーキングブレーキを解除して、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒長押ししてください。
停止してください	カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししているときに車両が動いている → 車両を完全に停車し、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。
ステアリングを真っ直ぐにしてください	ハンドルが大きく傾いている → ハンドルをまっすぐにし、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押ししてください。

メッセージ	状況・対処方法
ドアを閉じてください	いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉め、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキペダルを踏んでいない → ブレーキペダルをしっかりと踏み、再度カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押ししてください。

■ 駐車枠検知時

メッセージ	状況・対処方法
車速を検知しました アシストを中止します	駐車枠検知中に車両が動いた → はじめからやり直してください。
駐車スペースが見つかりません でした 別の場所を探してください	駐車枠検知ができなかった → はじめからやり直してください。または、場所を変えてはじめてやり直してください。
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	ハンドルを操作した → はじめからやり直してください。
シフト操作を検知しました アシストを中止します	アシストを開始する前にシフトレバーを操作した → はじめからやり直してください。
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	- カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しした - 画面の [中止] を選択した “周囲状況確認画面” で [いいえ] を選択した → はじめからやり直してください。

■ アシスト開始時

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） → ただちにダイハツサービス工場にて点検を受けてください。
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） → 約10分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。
	eco IDLE によるエンジン停止から再始動できなかった → はじめからやり直してください。
	ハンドルを握り続けている → ハンドルから手を離して、はじめからやり直してください。

メッセージ	状況・対処方法
駐車支援機能が使えません	システムが故障している → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
ブレーキを強く踏んでください アシストを中止します	ブレーキ保持が解除されなかった → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	- カメラ／パーキングアシストスイッチを約 2 秒以上長押しした - 画面の「中止」を選択した → はじめからやり直してください。
車速を検知しました アシストを中止します	「前進してください」のガイダンスが行わる前に車両が動いた → はじめからやり直してください。

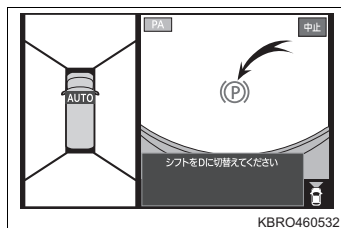
■ アシスト中

メッセージ	状況・対処方法
ステアリング操作を検知しました アシストを中止します	アシスト中に、ハンドルを操作した → はじめからやり直してください。
駐車支援機能が使えません アシストを中止します	システムが故障している → ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
進行方向が誤っています アシストを中止します	- 前進しているときに、シフトレバーを D・S・B 以外にして車両を動かした - 後退しているときに、シフトレバーを R 以外にして車両を動かした → はじめからやり直してください。
速度超過を検知しました アシストを中止します	車速が約 5km/h を超えた → はじめからやり直してください。
経路が引けませんでした アシストを中止します	経路の再計算ができなかったとき → はじめからやり直してください。
停車位置を通り過ぎました アシストを中止します	停車位置を約 1.5m 以上通り過ぎた → はじめからやり直してください。
車速を検知しました アシストを中止します	経路再計算中に車両が動いた → はじめからやり直してください。
自動操舵ができません アシストを中止します	(急発進・急加速・急停止などにより) アシストによる経路を逸脱した → はじめからやり直してください。

メッセージ	状況・対処方法
自動操舵ができません アシストを中止します	EPS（エレクトリックパワーステアリング）に異常が発生した（パワーステアリング警告灯（赤色）が点灯します） → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	EPS（エレクトリックパワーステアリング）が使えない状態にある（パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがあります） → 約10分ハンドル操作を控えてください。その後、はじめからやり直してください。
	・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）、または衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）によってブレーキが作動した ・後退を9回以上繰り返した → はじめからやり直してください。
操作が検出されませんでした アシストを中止します	・「シフトをDに切替えてください」とメッセージが表示されてから、約60秒間シフトレバーをD・S・Bにしなかった ・「シフトをRに切替えてください」とメッセージが表示されてから、約60秒間シフトレバーをRにしなかった ・「前進してください」、または「バックしてください」とメッセージが表示されてから、約30秒間車両を動かさなかった → はじめからやり直してください。
中止スイッチが操作されました アシストを中止します	・カメラ／パーキングアシストスイッチを約2秒以上長押しした ・画面の[中止]を選択した → はじめからやり直してください。

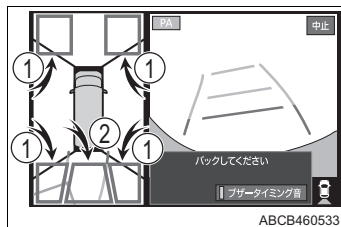
■ パーキングブレーキ未解除表示について

スマートパノラマパーキングアシスト作動中にパーキングブレーキをかけると、画面上にパーキングブレーキ未解除をお知らせする表示が行われます。



■ コーナーセンサー表示について

- スマートパノラマパーキングアシスト作動中、コーナーセンサーの作動条件（→ P. 167）を満たしているときに、ソナーが障害物を認識すると、ブザーが鳴り画面上に認識している箇所が枠で表示され、コーナーセンサーの作動をお知らせします。



- ・ 障害物との距離が短くなると、枠の色が次の表の通り変化します。

枠の色	ソナーと障害物の距離	
	①	②
緑色	—	約 150 ～ 60cm
緑色	約 60 ～ 45cm	
黄色	約 45 ～ 30cm	
赤色	約 30cm 以内	

- スマートパノラマパーキングアシスト作動中は、シフトレバーがP以外でリヤコーナーセンサーが作動します。

■ ガイダンスについて

システムの作動状態、運転者への操作案内を画面の表示、音声でお知らせします。

- 音声の音量は、調整することができます。詳しくは、装着されているディスプレイオーディオ、またはナビゲーションシステムに付属の取扱説明書を参照してください。
- 状況によっては車両内外の騒音などにより、音声が聞こえない場合があります。

■ 停止位置接近ブザーについて

前進、または後退中、停止位置に近付くと、ブザーが鳴ります。

- 画面の“ブザータイミング音”を選択することにより、停止位置接近ブザーを ON / OFF できます。

■ 駐車枠の検知ができない駐車場

次のような駐車場では、駐車枠を検知しません。

- 区画線が斜めの駐車場
- 駐車枠がロープ、ブロックなどで作られている区画線がない駐車場

■ 駐車枠検知が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を正しく検知することができない場合があります。

- 自車が駐車枠に近過ぎる、または遠過ぎるとき
- 自車が駐車枠に対して傾いて停車しているとき
- 区画線がかすれや汚れによってはっきり見えないとき
- 路面と区画線のコントラストが低いとき



- 区画線が白色以外のとき
 - ・ 黄色やオレンジ色の区画線は、路面と区画線との色合いの違いにより駐車枠を検知することができないことがあります。
 - 駐車枠が極端に狭い、または広いとき
 - 区画線が極端に短いとき
 - 区画線が極端に細い、または太いとき
 - 駐車枠が傾斜していたり、途中に段差があるとき
 - 画面に表示したカメラ画像で区画線が 1 本しか見えないとき（並列駐車時）
 - 区画線が斜め線と接続されているなど、枝分かれして見えるとき
 - 区画線に車両の影や木陰などがかかっているとき
 - 片方の区画線の長さが他方の長さとは大きく異なるとき
 - 隣の車両や障害物などが区画線上にあるとき
 - 駐車区画内に障害物があるとき
 - 夜間、地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）などで区画線がはっきりと映っていないとき
 - 周囲に草が生い茂っているとき
 - 太陽や電灯の強い光が路面に当たっているとき
 - 路面の色や明るさが一様でないとき
 - 降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
 - 路面上に段差や突起物、排水溝のふたがあるとき
 - 画面上で、駐車枠内に模様があるように表示されているとき
 - 駐車枠内に文字などが描かれているとき
 - 石畳や緑化駐車場
 - 路面上に積雪や融雪剤があるとき
 - カメラが曇っていたり、雨粒、雪、霜や土ぼこりなどによる汚れが付着しているとき
 - カメラが太陽光や対向車のヘッドランプなどの強い光を受けているとき
 - カメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
 - 区画線に見えるような光、建物などの映り込み、段差、側溝、路面ペイント、引き直し線などがあるとき
 - 区画線に駐車車両のサイドステップや、影が差しかかっているとき
 - 路面補修痕や路面表示などがあるとき
 - ポールなどの障害物があるとき
 - 傾斜や勾配がついている駐車場
 - 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- アシストが正常に作動しないおそれのある状況
- 「前進してください」、または「バックしてください」とガイダンスが行われる前にハンドルが自動で動くことがあります。このとき、車両を動かすと、設定した位置にアシストできなかったり、アシストを中止することがあります
 - 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
 - ・ 走行中にシフトレバーを切り替えたとき
 - ・ 急発進、急停止、急なシフトレバー操作をしたとき
 - ・ 摩耗しているタイヤを装着しているとき
 - ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されている場所
 - ・ 重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・ バッテリーの放電量が多いとき
 - ・ 強風や突風を受けたとき

プラスサポート※（販売店オプション）

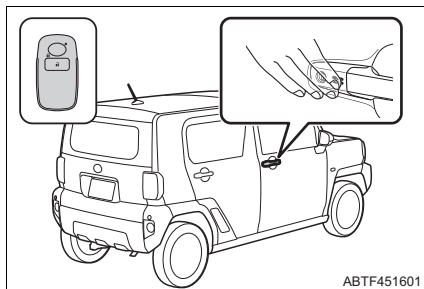
プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。プラスサポートを使用するためには、専用の電子カードキー（プラスサポート用電子カードキー、以下、「サボキー※」）とが必要です。

※「プラスサポート」、「サボキー」はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

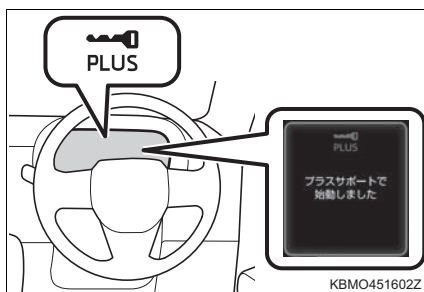
プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- ① サボキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→ P. 66）
エンジンスイッチが「OFF」以外の状態でドアが施錠されているときは、サボキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



- ② 通常の手順でエンジンを始動する（→ P. 80）
③ プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する
エンジンスイッチを「OFF」にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。
TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、「プラスサポートで始動しました」のメッセージも同時に表示されます。



- ④ DISPLAY / RETURN スイッチ（→ P. 53）を押してメッセージを非表示にする（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車）
DISPLAY / RETURN スイッチを押すまで、「プラスサポートで始動しました」のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子カードキーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

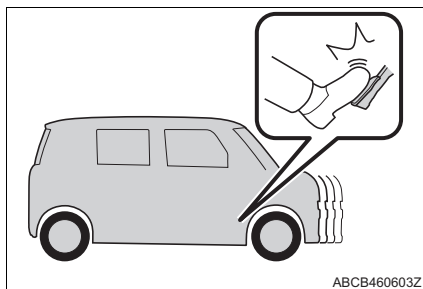
⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサボキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子カードキーを携帯しているときは、プラスサポートが作動しません。
- サボキーと標準装備の電子カードキーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。（→ P. 49）プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制中も車両は動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。ただちにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

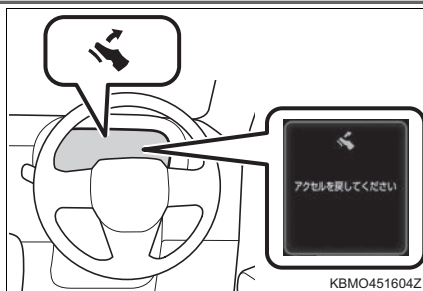
■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車は急アクセル時加速抑制警告灯（→ P. 232）が点灯し、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は「アクセルを戻してください」の警告メッセージが表示されます。（→ P. 248）

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ただちにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。





■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外するとき
 - 車速が約 30km/h 以下のとき
 - アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）
- 次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。
- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
 - 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。

アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間
- 急な上り坂に自車がいるとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動中
- プラスサポートの故障表示があるとき
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車：プラスサポート警告灯が点灯（→ P. 232）
 - ・ TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車：警告メッセージが表示（→ P. 248）

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両の変化
 - ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・ 坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
 - ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
 - ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
 - ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき
- 運転操作の影響
 - 急アクセル時加速抑制作動中にブレーキオーバーライドシステムが作動したとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

- 車両の変化
 - ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・ 坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
 - ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
 - ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
 - ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき



● 運転操作の影響

- ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・ 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ ETC ゲート通過後に急加速したとき
- ・ オートブレーキホールドシステム★によるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき
- ・ 全車速追従機能付 ACC ★による制御中または停車保持中に急加速、急発進しようとしたとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。滑りやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシスト

→ P. 102

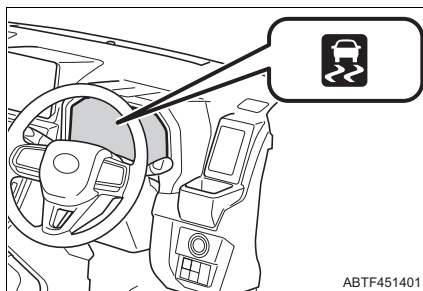
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※ “VSC”、“TRC” はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



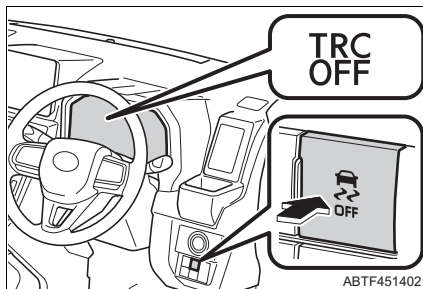
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



知識

■ VSC と TRC を停止するには

VSC と TRC を停止するには、停車時に  を 3 秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチを“OFF”にしたとき
 - (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
- ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナル（→ P. 195）が作動しないことがあります。

■ VSC や TRC を OFF にするとき

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ フルタイム 4WD について★

- このお車の 4WD（フルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。無理な運転はしないでください。
- 脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 274）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD ★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転

警告

■ ブレーキが凍結したとき

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン …………… 200

シートヒーター …………… 201

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ …… 201

5-3. 収納装備

収納装備一覧 …………… 202

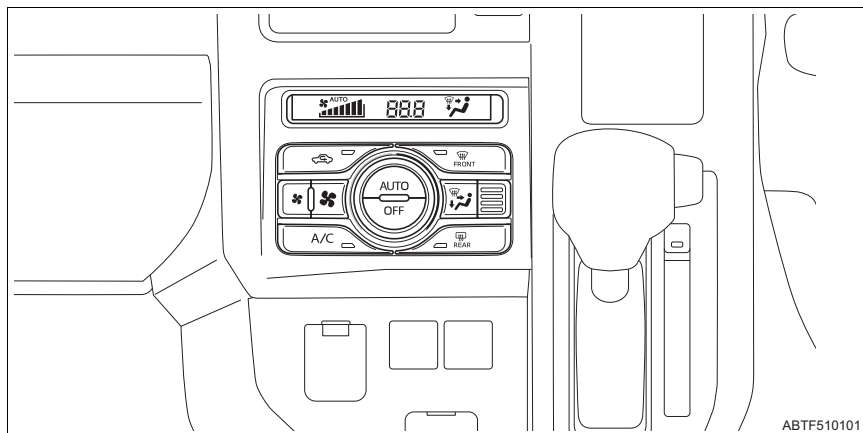
ラゲージルーム内装備 …… 203

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 …………… 204

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン



その他の機能

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには



を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度  を押すと、前のモードに戻ります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は **A/C**  を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- **A/C**  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

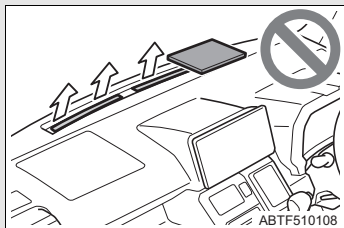
警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。また、吹き出し口を  に切り替えないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

⚠ 警告

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

シートヒーター★

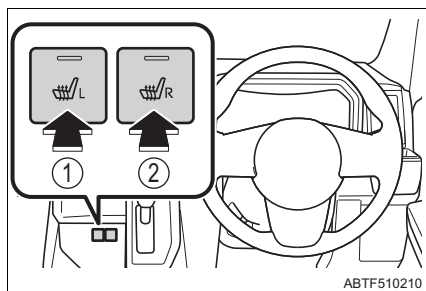
スイッチを押すと、シートヒーターが作動します。

① 助手席を温める

② 運転席を温める

シートヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。



⚠ 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことにお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

5-2. オーディオの使い方

ステアリングスイッチ

ハンドルにあるスイッチで、オーディオや、ナビゲーションシステムを操作することができます。装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

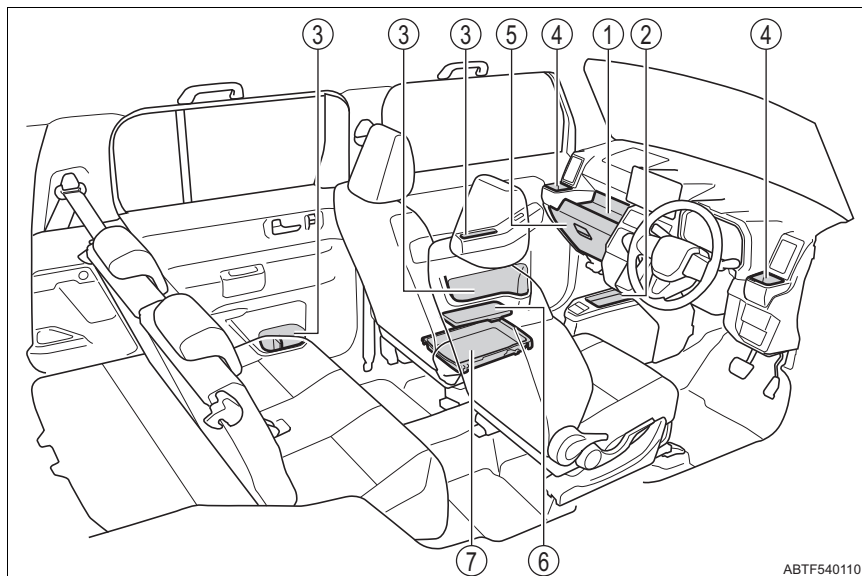
⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

5-3. 収納装備

収納装備一覧



- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ① 大型インパネトレイ (→ P. 203) | ⑤ グローブボックス |
| ② センターコンソールトレイ (→ P. 203) | ⑥ アームレストボックス★ |
| ③ ドアポケット&ボトルホルダー (→ P. 203) | ⑦ 助手席シートアンダートレイ★ |
| ④ カップホルダー (→ P. 202) | |

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスが漏れるなどして火災につながる
- 走行中にも物を出し入れしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 収納装備を使わないときは、ふたを必ず閉めてください。
急ブレーキや急旋回時に、開いたふたに体が当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

カップホルダー／ボトルホルダー

⚠ 警告

- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。

⚠ 警告

- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイ

⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

フレキシブルボード

⚠ 警告

- フレキシブルボードを操作するときは
荷物を載せた状態で操作しないでください。
指を挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージトレイ

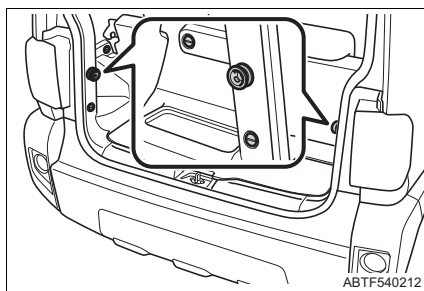
⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マルチフック

左右それぞれ 3カ所（合計 6カ所）の取り付け位置に、2 つのマルチフックを取り付けて、袋をかけたり、荷物を固定することができます。

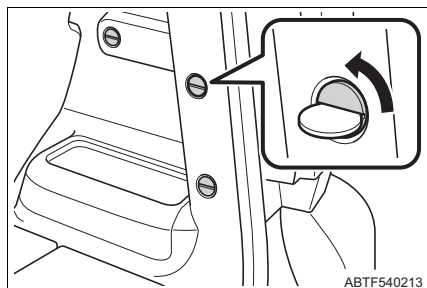
マルチフックを初めて使用するときは、グローブボックスから取り出してください。



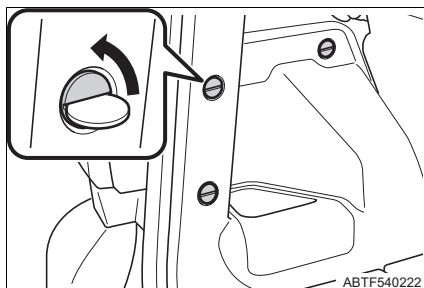
■ マルチフックを取り付けるには

① マルチフックホールカバーにコインなどを差し込んで取り外す

▶ 運転席側

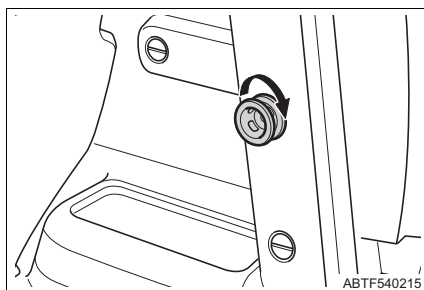


▶ 助手席側



② マルチフックを回して取り付ける

マルチフックの回転が止まるまでしっかり取り付けてください。



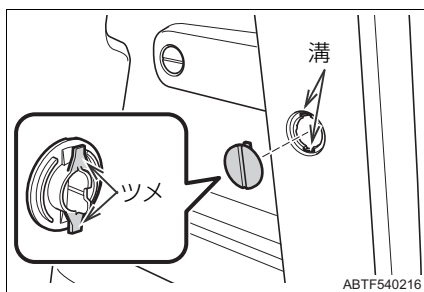
■ マルチフックを取り外すには

① マルチフックを取り外す

取り外しにくい場合は、プラスドライバーを使用して取り外してください。

② マルチフックホールカバーを取り付ける

カバーのツメを溝に合わせて取り付け後、取り外し時と逆方向に止まるまで回してください。



5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備

サンバイザー

⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのチケットホルダーには、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- 走行中はパニティミラーを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アームレスト★

⚠ 警告

- アームレストを操作するときは、シートとアームレストの隙間に手などを入れないでください。指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。特に、お子さまが指などを挟まないように十分注意してください。
- アームレストの上に乗ったり、重いものを載せないでください。アームレストが破損したりけがをするおそれがあります。

USB ソケット (充電用)

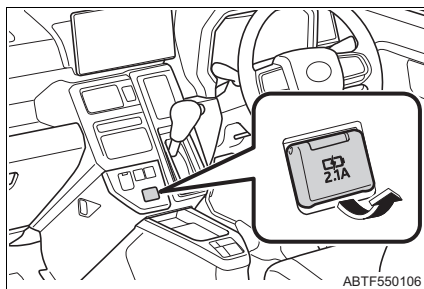
最大消費電力 10.5W (DC5V/2.1A) 以下の電源として使用してください。

充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。お使いになる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ インストルメントパネル★

1 ふたを開ける



2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む

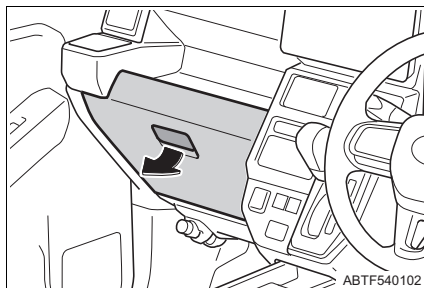
機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。

3 使用後は必ずケーブルを抜く

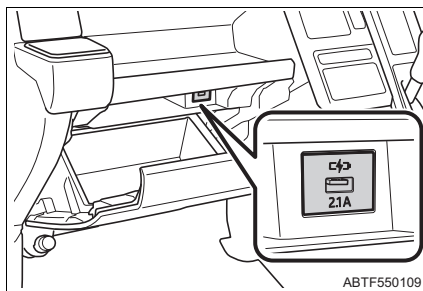
ふたが閉まっていることを確認してください。

■ グローブボックス

1 グローブボックスを開ける



- 2 ケーブルをソケットの向きに合わせてしっかり奥まで差し込む
機器やケーブルは、運転の妨げにならない場所に固定してください。



- 3 使用後は必ずケーブルを抜く
グローブボックスが閉まっていることを確認してください。

⚠ 警告

- USB ソケットに指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

USB ソケット（通信用）★／HDMI 端子★※

※ “HDMI” は HDMI Licensing Administrator, Inc の登録商標です。

⚠ 警告

- USB ソケット、HDMI 端子に指や金属類などの異物、液体が入ると故障やショートの原因になったり、感電するおそれがあります。
- 接続したケーブルに足を取られないように注意してください。機器が故障したり、転倒するなどして思わぬけがをするおそれがあり危険です。

格納式アシストグリップ

⚠ 警告

格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。
格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

スカイフィールトップ

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

■ サンシェードを開閉するときは

- サンシェードを開閉するときは、手などを挟まないように注意してください。
- 走行中にサンシェードの開閉操作をしないでください。運転の妨げになり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 清掃するときは

- サンシェードより上側を清掃するときは、指などを挟まないように注意してください。
- 直射日光が当たる場所に長時間駐車すると、サンシェードより上側が高温になりますので注意してください。

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ 208

内装のお手入れ 208

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 208

ガレージジャッキ 209

ウォッシャー液の補充 210

タイヤについて 210

タイヤの交換 212

タイヤ空気圧について 216

キーの電池交換 216

ヒューズの点検・交換 218

電球（バルブ）の交換 218

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ

警告

■ 洗車をするとき

- エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ アルミホイール★にワックスをかけをするときは

ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。

内装のお手入れ

知識

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。
シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 20)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット

警告

■ 走行前の確認

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

⚠ 警告

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジン始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

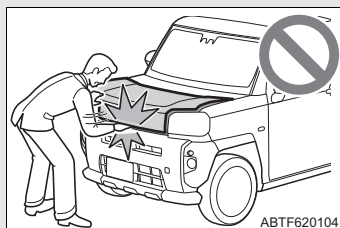
また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



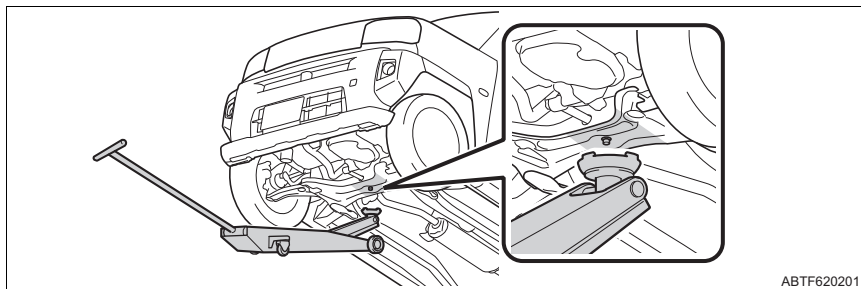
ガレージジャッキ

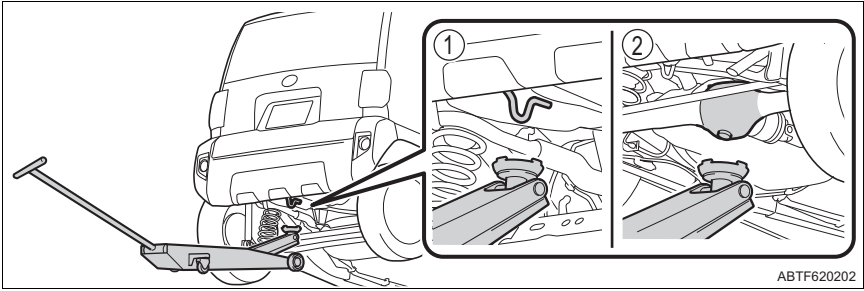
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側





- ① 2WD 車（前輪駆動）
- ② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

 **警告**

■ **ウォッシャー液を補充するとき**
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

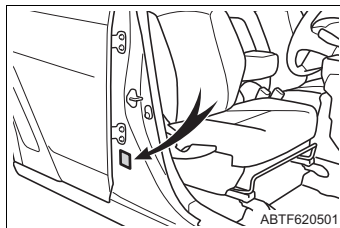
- タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
- **タイヤ空気圧**
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
 - **タイヤの亀裂・損傷の有無**
 - **タイヤの溝の深さ**
 - **タイヤの異常摩耗**（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

 知識

■ **タイヤ空気圧の数値**

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
165/65R15 81S	240 (2.4)	240 (2.4)

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

⚠ 警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
 - メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
 - サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない
 - ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
 - 他車で使用していたタイヤを使用しない
- 以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横滑りする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーバー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 215）

テーバー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。

ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。

またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。

ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

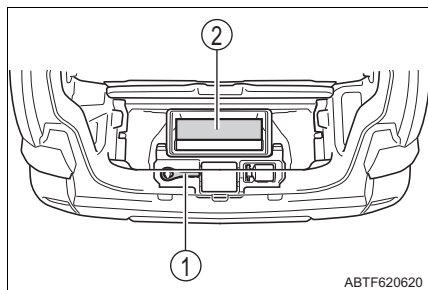
この車両には、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

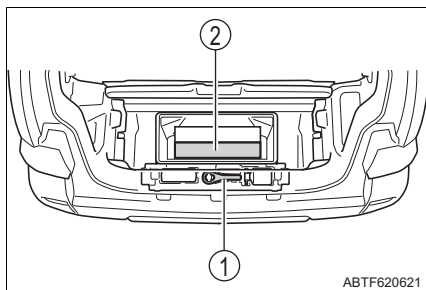
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

工具※とジャッキ※の位置

▶ 2WD 車



▶ 4WD 車



- ① けん引フック
- ② 工具箱※

※ ダイハツサービス工場で購入することができます。
(ジャッキ・ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ)

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

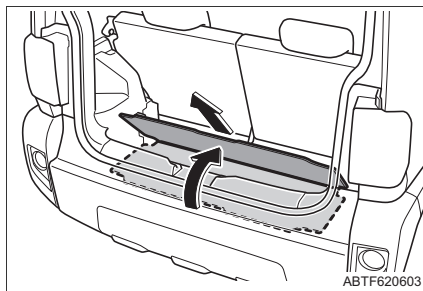
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にもものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキと工具の取り出し方

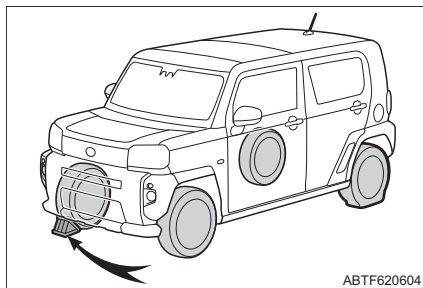
- 1 フレキシブルボードを取り外してからラゲージボードを持ち上げ、手前に引いて取り外す



- 2 ジャッキと工具を取出す (→ P. 212)

タイヤの交換

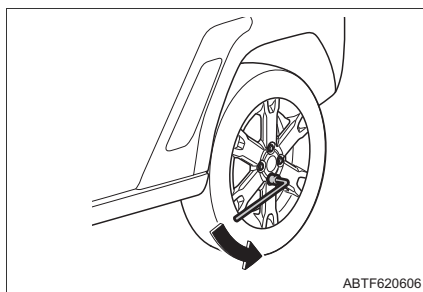
- 1 輪止め※をする



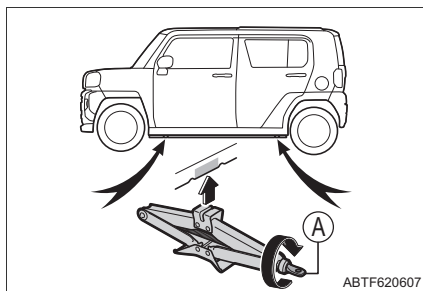
※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

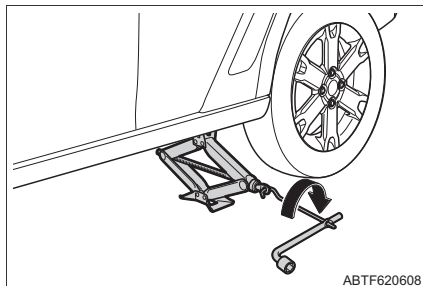
- 2 ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる



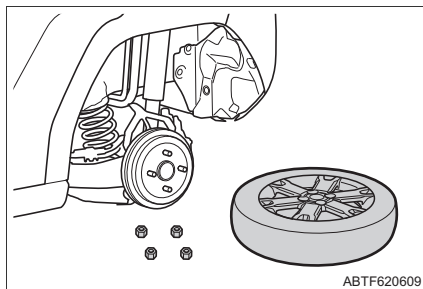
- 3 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置 (切り欠きと切り欠きの間) にしっかりかける



- 4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる
ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



- 5 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



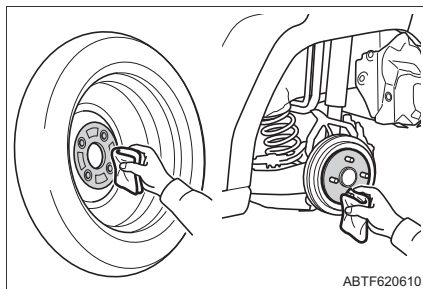
警告

■ タイヤ交換について

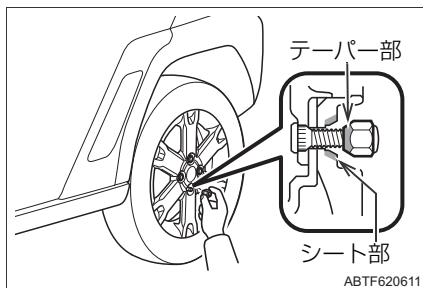
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ネジ部やナットのテーパ部オイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

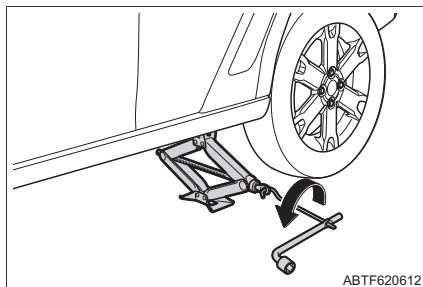
- 1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。



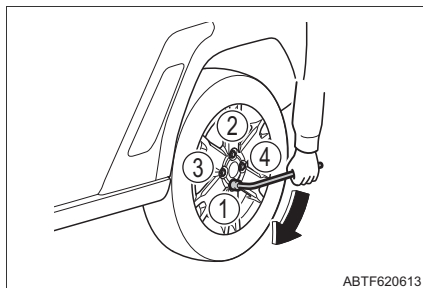
- 2 タイヤを取り付け、がたつかない程度まで手でナットを仮締めする
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す



- 3 車体を下げる



- 4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける
締め付けトルク：103N・m (1050kgf・cm)



- 5 すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。
(→ P. 274)

⚠ 警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- 薄刃のマイナスドライバーなど (くぼみに入る程度の幅のもの)
- エマージェンシーキー
- リチウム電池 CR2032

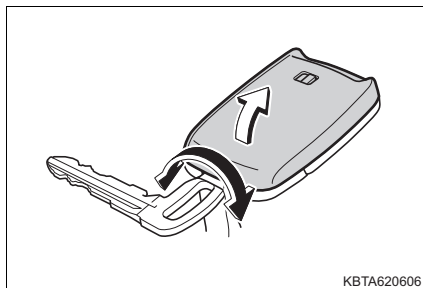
電池交換のしかた

1 エマージェンシーキーを取り出す (→ P. 60)

2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。
エマージェンシーキーをしっかりと奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。

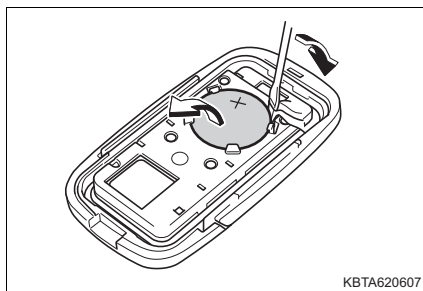


3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

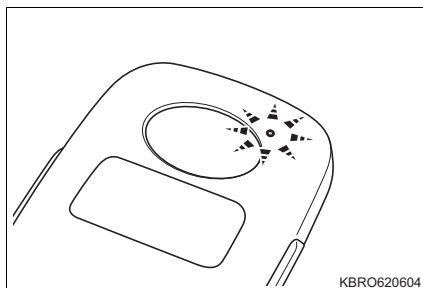
カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。



4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケータが点滅することを確認する



知識

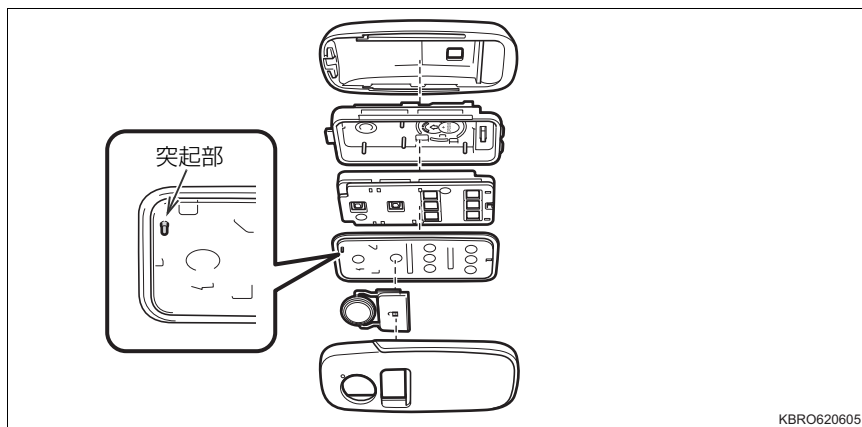
■ 電池の交換について

誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 電子カードキーの部品がばらばらになったときは

図を参考に組み付けてください。

組み付けるときは、突起部を下に向けてください。



■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子カードキーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる



知識

- インジケーターが点滅しない



警告

■取り外した電池と部品について

お子さまに触れさせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ヒューズの点検・交換



警告

■お車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

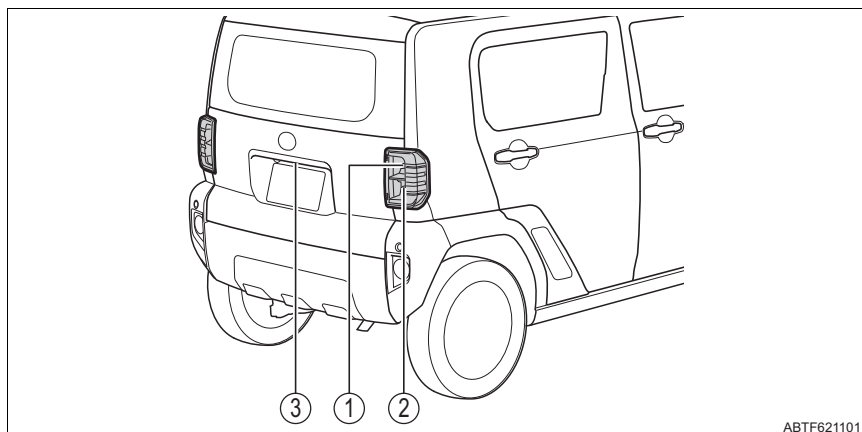
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 275）

バルブ位置

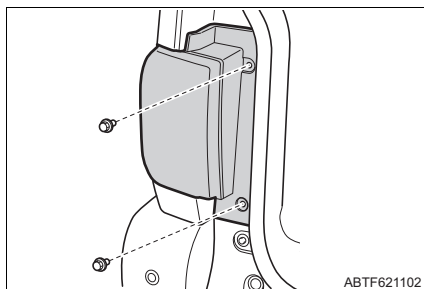


ABTF621101

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯
- ③ 番号灯

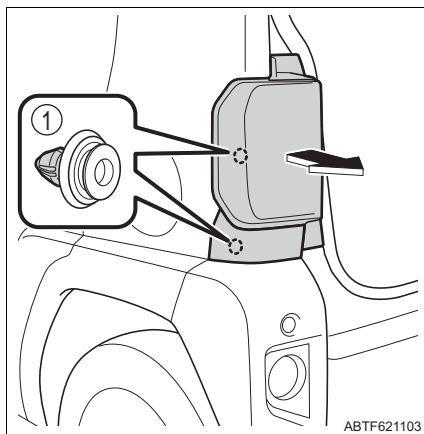
■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

① バックドアを開けて、ボルト（2本）を外す

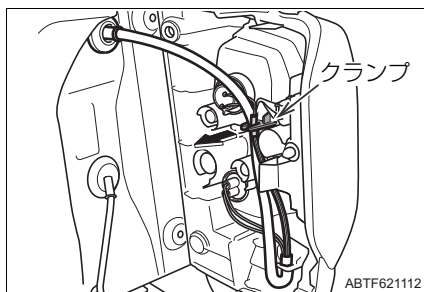


② ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合を外す

① クリップ



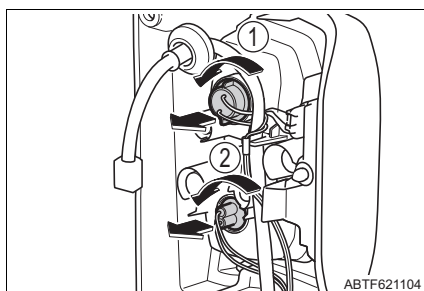
③ クランプから配線を外す
細いほうの配線を外してください。



④ ソケットを取り外す

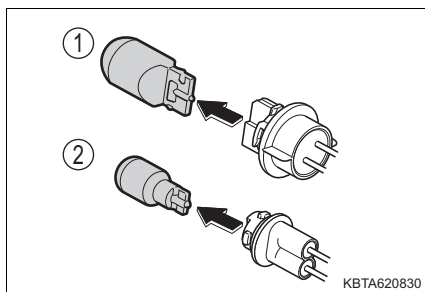
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯



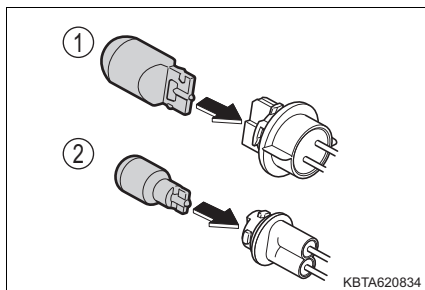
5 電球を取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



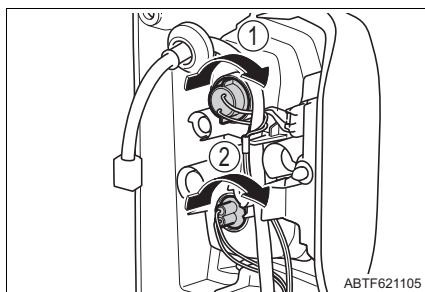
6 電球を交換し取り付ける

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

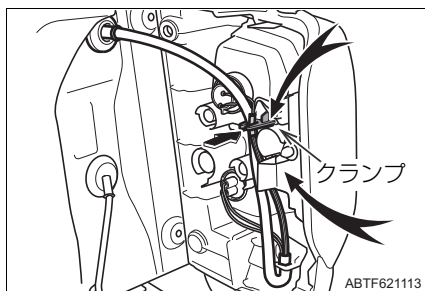


7 ソケットを取り付ける

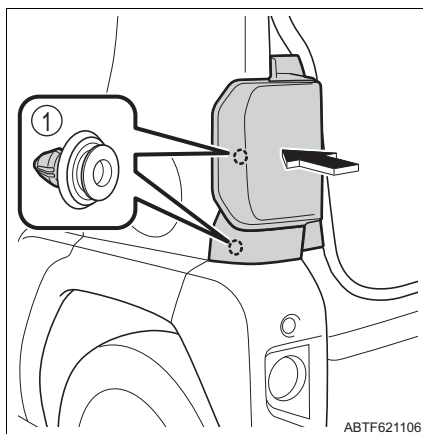
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯



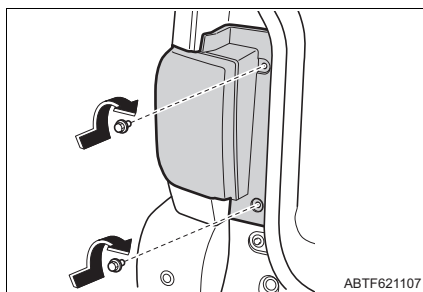
8 クランプに配線を取り付ける



- 9 ランプ本体を取り付ける
ランプ本体側のクリップ (①) と車両側の穴の位置を
合わせ、ランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

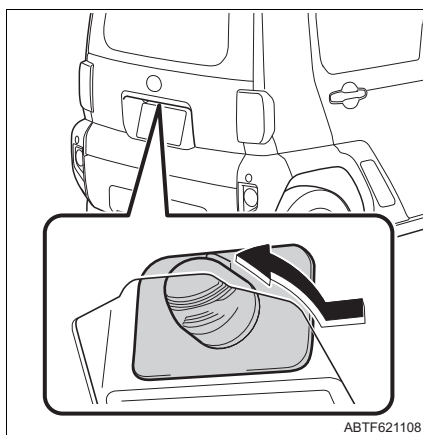


- 10 ボルト (2 本) を取り付ける

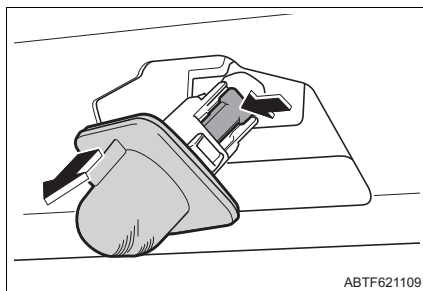


■ 番号灯

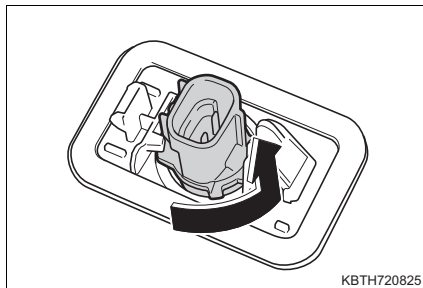
- 1 ランプ本体をスライドして取り外す



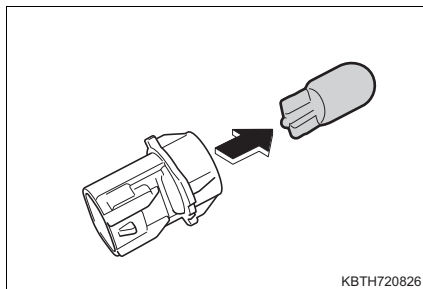
2 ツメを押し、コネクターを取り外す



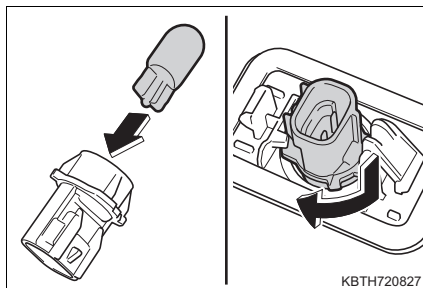
3 ソケットを回して取り外す



4 電球を取り外す

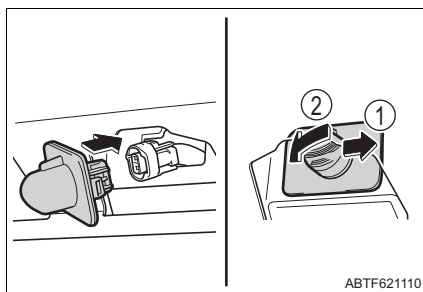


5 新しい電球を取り付け、ソケットを回してレンズに取り付ける



■ 6 コネクターを差し込み、ランプ本体を取り付ける

- ① 車両右側に押し込む
- ② ランプ本体を押す



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- 車幅灯
- フロント方向指示／非常点滅灯
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ
- フロントフォグランプ★
- サイドビューランプ



知識

■ LED ランプについて

LED ヘッドランプ・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、ダイハツサービス工場で交換してください。



警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

7-1. まず初めに

発炎筒	226
車両を緊急停止するには ..	226
水没・冠水したときは	227
車中泊が必要なときは	227

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	228
フューエルポンプ シャットオフシステム ..	228
警告灯がついたときは	229
警告メッセージが 表示されたときは	234
「スマアシ停止」が 表示されたときは	251
パンクしたときは	255
エンジンが かからないときは	264
電子カードキーが 正常に働かないときは ..	264
バッテリーが あがったときは	265
オーバーヒート したときは	268
スタックしたときは	270

7-1. まず初めに

発炎筒

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

① ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

② シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

③ 減速後、お車を安全な道路脇に停める

④ エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

③ ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

④ エンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



3 秒以上長押しする
または
3 回以上連続で押す

KBTA710402

⑤ お車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。



知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。



警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは



警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

7-2. 緊急時の対処法

けん引について

⚠ 警告

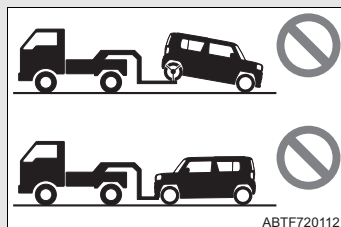
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

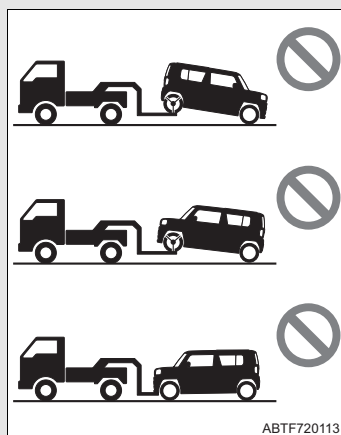
▶ 2WD 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。

けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが停止してしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

- ① エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする
- ② エンジンを再始動する

⚠ 警告

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 (黄色)	ブレーキ警告灯 パーキングブレーキの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	充電警告灯★ 充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	油圧警告灯★ エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 (赤色点滅または点灯)	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常（水温の上昇に伴い、点滅から点灯に変わります。→ P. 268） → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	CVT 警告灯★ CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
HOLD (点滅)	オートブレーキホールド作動表示灯 オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (赤色)	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※2  (黄色)	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
	キーフリー警告灯★ キーフリーシステムの異常 (キーフリー警告灯が点滅したときは → P. 233) → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (黄色)	AHB / ADB 警告灯 ・ AHB の異常★ ・ ADB の異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)  (点滅)  ※3 スマアシ故障	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 マスターウォーニング スマートアシスト故障警告灯★ スマートアシストの一部機能の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点灯)  (点灯) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 スマートアシスト停止警告灯 スマートアシストの機能停止 → 表示された各機能停止コードごとに対処してください。(→ P. 252)
 (黄色)	ACC 警告灯★ ・全車速追従機能付 ACC の異常 ・全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (黄色)	LKC 警告灯★ LKC の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 	コーナーセンサー表示灯★ (警告ブザー) マスターウォーニング コーナーセンサーの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	スリップ表示灯 ・ブレーキアシストの異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 (VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 196) ・ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	eco IDLE OFF 表示灯 ・eco IDLE システムの異常 ・スターターの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 159) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※4  (点滅→消灯)	eco IDLE OFF 表示灯 バッテリーの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 159) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	ブレーキオーバライドシステム警告灯★ ブレーキオーバライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	ブレーキオーバライドシステム警告灯★ ブレーキオーバライドシステムの作動時 → アクセルペダルから足を離す

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	手放し運転警告灯（警告ブザー ※5） ハンドルの手放し運転をしている → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
	半ドア警告灯 ※6 ★（警告ブザー ※7） いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない → 全ドアまたはボンネットを閉める
	燃料残量警告灯（警告ブザー） 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった → 燃料を補給する
	運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯 ※9（警告ブザー ※8） 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
	後席シートベルト締め忘れ警告灯 ※10、11（警告ブザー ※12） 後席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
 (黄色)	プラスサポート警告灯★ プラスサポートの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	急アクセル時加速抑制警告灯（警告ブザー）★ 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
 (点滅)	パーキングブレーキ表示灯 ・パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。パーキングブレーキの温度が下がると使用できるようになります。 ・パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してください パーキングブレーキをかけようとした場合： 再度パーキングブレーキをかけてください

- ※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 「スマアシ故障」★の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。
- ※5 手放し運転警告ブザー：
車線逸脱抑制制御機能作動時は、点灯と同時に警告ブザーが鳴ります。
LKC ★作動時は、点灯後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。
- ※6 半ドア警告灯：
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイ★に表示されます。

- ※7 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにブザーが鳴ります。
- ※8 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。
- ※9 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※10 インナーミラー上部に表示されます。
- ※11 後席シートベルト締め忘れ警告灯：
後席シートベルトが非装着の状態、エンジンスイッチを“ON”にしたとき、または後席シートベルトを外すと点灯します。
後席シートベルトを着用する、または車速約 20km/h 以上で走行後約 60 秒経過（警告ブザーが鳴っている場合は約 30 秒経過）すると消灯します。
また、約 5km/h 以下で後席シートベルトを外し、リヤドアを開閉すると点灯します。
- ※12 後席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
車速が約 20km/h 以上で乗員が後席シートベルトを外すと約 30 秒間鳴り続けます。一度警告ブザーが鳴ると、約 20km/h 以下で走行しても約 30 秒間鳴り続けます。
後席シートベルトを着用する、または約 5km/h 以下でリヤドアを開閉すると、ブザーが停止します。

ただちに処置してください（TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
—	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
5 回	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた → 電子カードキーを携帯して乗車する
3 回	 (点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした → 新しい電池に交換する ※2 (→ P. 216)

- ※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 216)
- ※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた → 運転席ドアを閉める
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた → ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する

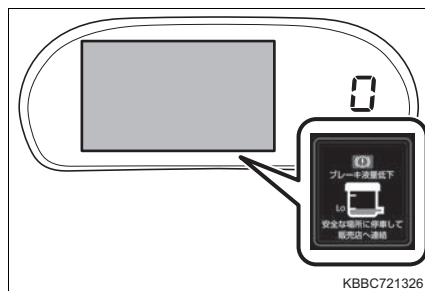
⚠ 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは★

TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ★に警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、ダイハツサービス工場へご連絡ください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (赤色)	ブレーキ液の不足 車速が約 5km/h を超えたときには警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  (赤色)	ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 	充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 	エンジンオイルの圧力異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して 販売店へ連絡  (赤色)	エンジン冷却水高温異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 エンジンシステム異常 販売店で点検を 受けてください 	エンジン電子制御システムの異常 電子制御スロットルの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 CVT CVTシステム異常 販売店で点検を 受けてください 	CVT 電子制御システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 SRSエアバッグ故障 販売店で点検を 受けてください 	SRS エアバッグシステムの異常 シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 パーキングブレーキ 作動できません  (黄色)  (点灯または点滅)	パーキングブレーキ異常のため、作動不可 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 パーキングブレーキ故障 販売店で点検を 受けてください  (黄色)	パーキングブレーキの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 HOLD ブレーキホールド故障 ブレーキを 踏んでください  (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 HOLD ブレーキホールド故障 販売店で点検を 受けてください  (点滅)	オートブレーキホールド機能の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  (赤色)	EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
  (黄色)	電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート 警告ブザーが鳴ります。 → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
 	キーフリーシステムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ヘッドランプ光軸異常 販売店で点検を受けてください 	自動光軸調整システムの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ヘッドランプシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	ADB の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 スマートアシスト故障 販売店で点検を受けてください  (点滅)  (点滅) 	スマートアシストの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ACCシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ブレーキを踏んでください  (黄色)	全車速追従機能付 ACC の停車保持中のシステム異常 → ブレーキペダルを踏んで停車し、ダイハツサービス工場 で点検を受けてください。
 LKCシステム故障 販売店で点検を受けてください  (黄色)	LKC の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 ソナーセンサー故障 販売店で点検を受けてください 	コーナーセンサーの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ソナーセンサー 機能低下	コーナーセンサー機能低下 警告ブザーが鳴ります。 → 雨、雪、氷、汚れなどがバンパーのソナーに付着していないか確認し、取り除いてください。
 VSC故障 販売店で点検を受けてください  (点灯)	ブレーキアシストの異常 VSC システムの異常 TRC システムの異常 ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 アイドリング ストップ故障 販売店で点検を受けてください  (点滅)	eco IDLE システムの異常 スターターの交換時期 バッテリーの交換時期 バッテリーの交換時期の場合は、数秒間表示されます。 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 車両通信システム異常 販売店で点検を受けてください 	車両通信システムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 BOS故障 販売店で点検を受けてください	ブレーキオーバーライドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキとアクセルが 両方踏まれています	ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルから足を離してください。
 ハンドルを 保持してください 	手放し運転をしている 車線逸脱抑制制御機能作動時は、メッセージの表示と同時に警告ブザーが鳴ります。 LKC 作動時は、メッセージの表示後、さらにハンドル操作をしない状態が続くと警告ブザーが鳴ります。 → ハンドルをしっかりと握って操作してください。
 開いています	いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない 開いているドアまたはボンネットが表示されます。 各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにはブザーが鳴ります。 → 全ドアまたはボンネットを閉める
 給油してください 	燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった 警告ブザーが鳴ります。 → 燃料を補給する
 シートベルトを 装着してください 	運転席、または助手席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えたときに表示されます。 → シートベルトを着用する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 シートベルトを 装着してください 	後席シートベルト締め忘れ 警告ブザーが鳴ります。 車速が約 20km/h を超えてシートベルトを外したときに 表示されます。 → シートベルトを着用する
 パーキングブレーキ高温 現在使用できません  (点滅)	パーキングブレーキのオーバーヒート → しばらくパーキングブレーキの使用を控えてください。 パーキングブレーキの温度が下がると使用できるよう になります。
 パーキングブレーキが ロックされています	パーキングブレーキが解除されていない状態で走行した 規定の車速を超えたときに警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除する
 ドアが開いているため パーキングブレーキ 自動解除できません	運転席のドアが開いている状態でパーキングブレーキのオー トリリース (→ P. 85) をしようとした → 運転席のドアを閉めてから操作する
 シートが未装着のため パーキングブレーキ 自動解除できません	運転席シートベルトを締めないでパーキングブレーキのオー トリリース (→ P. 85) をしようとした → 運転席シートベルトを締めてから操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキを踏みながら スイッチ操作してください	ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキを解除しようとした → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
 パーキングブレーキが 途中で停止 再度操作してください  (点滅)	パーキングブレーキの作動が停止した → パーキングブレーキを解除しようとした場合：再度パーキングブレーキをかけたあとに解除してくださいパーキングブレーキをかけようとした場合：再度パーキングブレーキをかけてください
 急坂はブレーキを踏まずに ブレーキを離さないでください	急坂で停車した → ブレーキペダルを確実に踏んで停車し、周囲の安全を確認し、発進させる
 運転席のドアを閉めて スイッチを操作してください	運転席のドアが開いている状態でオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席のドアを閉めてからスイッチを操作する
 シートベルトをして スイッチを操作してください	運転席シートベルトを締めないでオートブレーキホールドスイッチを操作した → 運転席シートベルトを締めてからスイッチを操作する

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキを踏みながら スイッチ操作してください	ブレーキペダルを踏まずにオートブレーキホールドスイッチを操作した → ブレーキペダルを踏みながらスイッチを操作する
 ブレーキホールド システム高温 現在使用できません	オートブレーキホールド機能のオーバーヒート → しばらくオートブレーキホールド機能の使用を控えてください。ブレーキの温度が下がると使用できるようになります。
 時間経過、 ブレーキホールド解除、 ブレーキを踏んでください	ブレーキ保持が間もなく終了する → ブレーキペダルを踏む
 時間経過、ACC停車 保持継続するには ブレーキを踏んでください	全車速追従機能付 ACC の停車保持が間もなく終了する → 停車保持を継続するには、ブレーキペダルを踏む
 前方注意！！ ※1 	衝突警報機能（対車両・対歩行者）が作動 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）の警報が作動 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力の抑制制御が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
 ※2 	ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
	先行車発進お知らせ機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、車両を発進させる
 ※2  （点滅）	車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内に戻す

警告メッセージ	警告内容・対処方法
  (点灯)	ぶらつき警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認し、ハンドルを操作して車両を車線内で適切な運転をする
	システムが休憩が必要と判断した → 安全な場所に停車し、休憩する
	全車速追従機能付 ACC の接近警報が作動 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキペダルを踏んで、適切な車間距離を確保してください。
	コーナーセンサー作動 作動しているソナーの箇所が表示されます。 警告ブザーが鳴ることがあります。 → 周囲の状況を確認し、ブレーキペダルを踏むなど適切な運転をする
  (点滅)	VSC が作動 → 特に慎重な運転をする

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	車幅灯点灯時に、運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯する
 	停車時、ハンドルが左、または右に操作されている → タイヤの向きを確認し、安全に車両を発進させる
	外気温が約 3℃以下になった → 路面凍結の可能性があるため、路面状況を確認し慎重な運転をする
	プラスサポートの異常★ → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動★ 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※1 衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ・2 次ブレーキ、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のブレーキ制御が作動したとき点灯します。

※2 ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）のエンジン出力制御、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）のエンジン出力制御・ブレーキ制御が作動したとき点灯します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリーシステムの警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—	 キーが見つかりません	電子カードキーを携帯していない状態でエンジンを開始しようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
5 回	3 回	 キーが見つかりません	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた ・警告ブザーが鳴ります。 → 電子カードキーを携帯して乗車する
—	1 回	 車内にキーがあります	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する
—	1 回	 車内にキーがあります	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた → 電子カードキーを携帯して施錠する
—	1 回	 車内にキーがあります	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、運転席ドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした → 車内から電子カードキーを取り出したあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
—	—		電子カードキーを携帯していない状態で2回エンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する ※1
—	—		自動でエンジンスイッチが“OFF”になった エンジンスイッチが“ACC”のときは1時間以上、“ON”のときは20分以上経過すると表示されます。 → 次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持しバッテリーを充電する
3回	—		電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを“OFF”にした ※2 警告ブザーが鳴ります。 → 新しい電池に交換する (→ P. 216)
—	—		シフトレバーがP以外の状態でエンジンスイッチを“OFF”にしようとした → シフトレバーをPにする
—	1回		エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチでドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを“OFF”にして施錠する

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 216)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも表示されます。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE の警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告メッセージ	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 	eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 運転席ドアを閉める

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

また、TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車は、機能停止のメッセージを表示することができます。

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止 2E	 ブレーキシステム高温 ACCは使用できません  ブレーキシステム高温 LKCは使用できません	ブレーキパッドが高温になった → 原因状態が解消され、再度エンジンスイッチを“ON”にすると復帰
スマアシ 停止 5E	 ソナー汚れ スマートアシストの一部機能を停止します	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 6E	 悪天候 スマートアシストを停止します	フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 10E	 ACC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください  LKC一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください	ACC★・LKC★が視界不良により作動条件を満たさなくなった → 原因状態が解消されると復帰

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止! 11E	  	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止! 12E	  	ステレオカメラ（車両前側）内が高 温になった → 原因状態が解消されると復帰

機能停止コード※	メッセージ	警告内容・対処方法
スマアシ 停止/14E	 初期学習中 スマートアシストを 停止します	スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰
	 初期学習中 ACCは使用できません	
	 初期学習中 LKは使用できません	
スマアシ 停止/15E	 ソナー汚れ スマートアシストを 停止します	雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー 部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解 消されると復帰
スマアシ 停止/16E	 悪天候 スマートアシストを 停止します	フロントワイパーを“高速”で作動 させている → 原因状態が解消されると復帰

※ グレード、オプションなどにより、ディスプレイに表示される文字の配列が異なります。



知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」はシフトレバーがP・R・N以外のときに表示します。
- 「10E」「11E」はシフトレバーがR以外のときに表示します。
- 「15E」「16E」はシフトレバーがRのときに表示します。

- 「2E」「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシスト OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトレバーが D・S・B のときは、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」、警告メッセージが表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 256)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

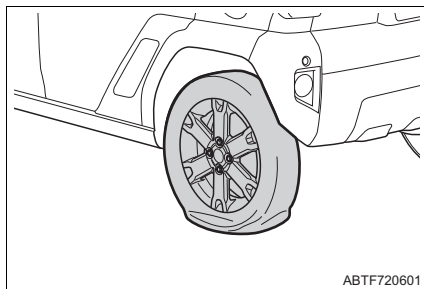
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



ABTF720601



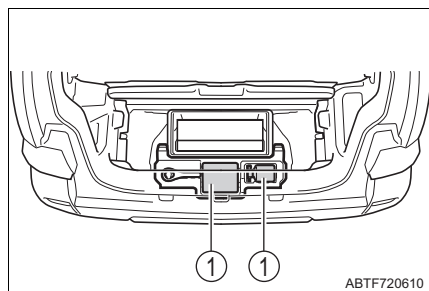
■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

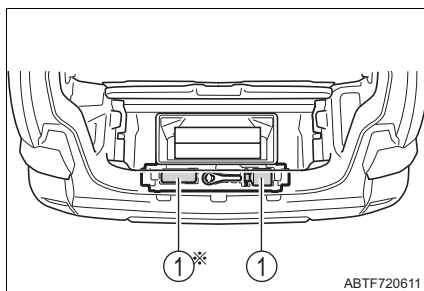
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セットの搭載位置

▶ 2WD 車



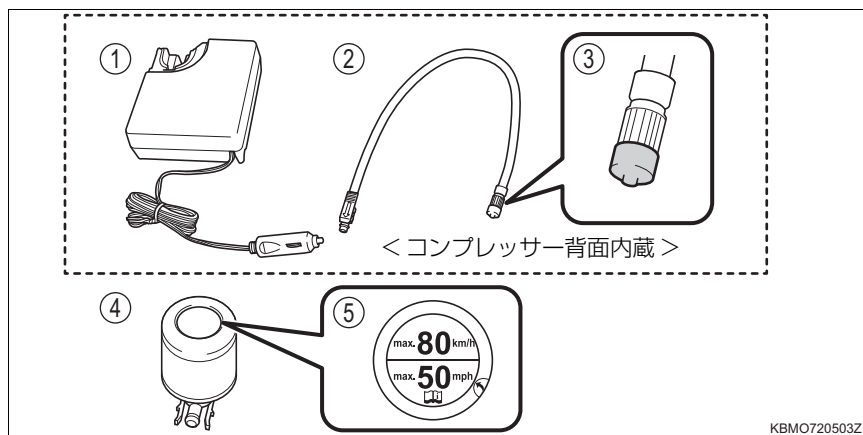
▶ 4WD 車



① タイヤパンク応急修理セット

※ コンプレッサーは緩衝材を上にして収納してください。

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



① コンプレッサー

② ホース

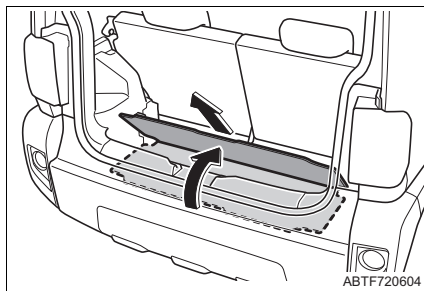
③ ホース栓

④ パンク修理剤ボトル

⑤ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

- 1 フレキシブルボードを取り外してからラゲージボードを持ち上げ、手前に引いて取り外す



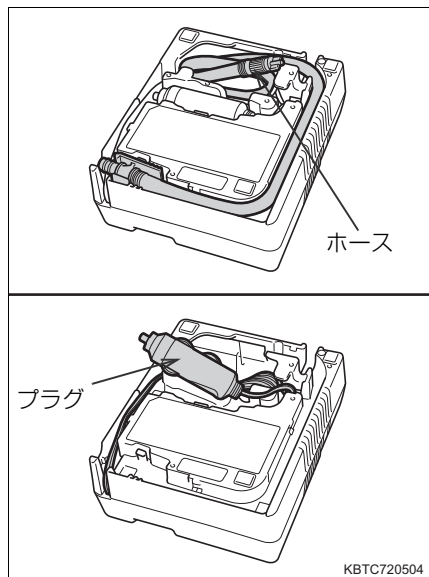
- 2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す (→ P. 256)

応急修理するとき

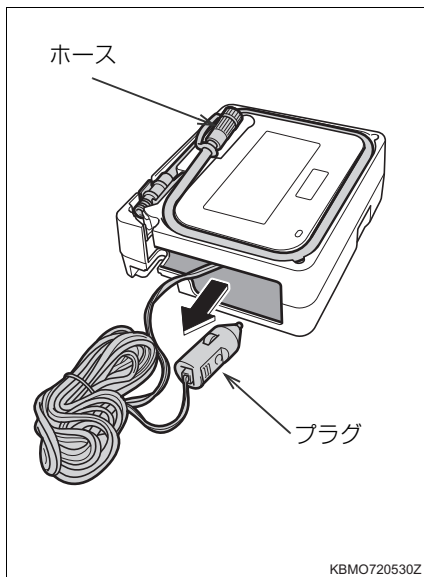
- 1 パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません)

- 2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶ タイプ A

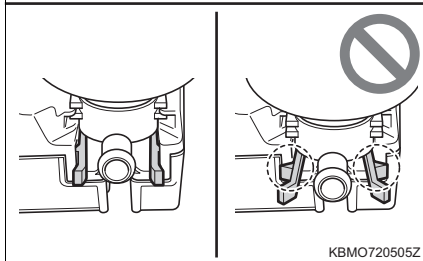
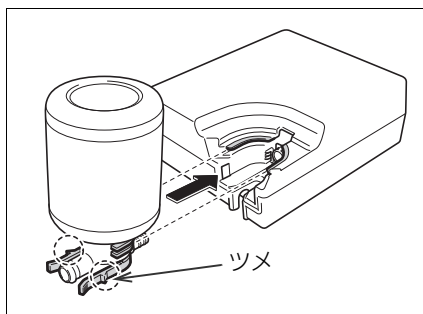


▶ タイプ B

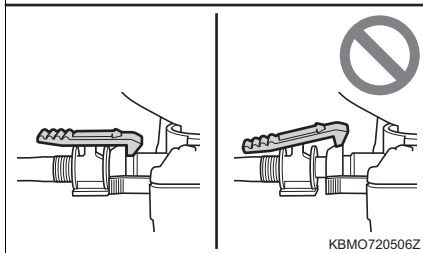
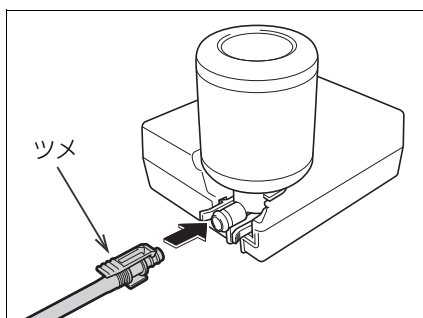


- 3 パンク修理剤ボトルをよく振る
パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

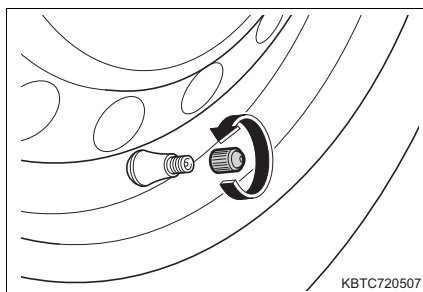
- 4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



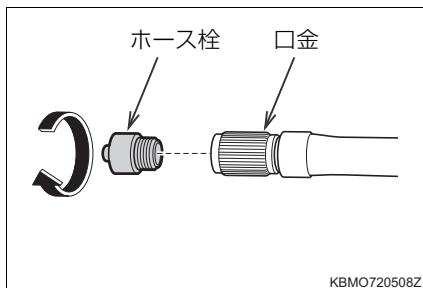
- 5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



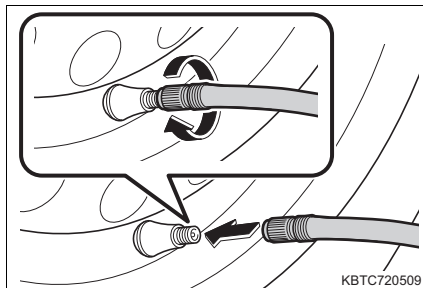
6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



7 ホースの口金からホース栓を取り外す

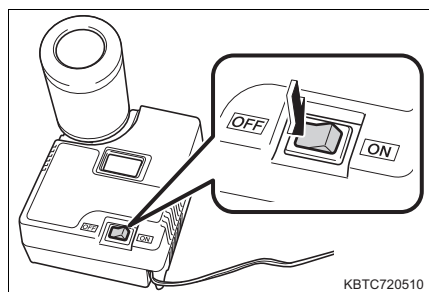


8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

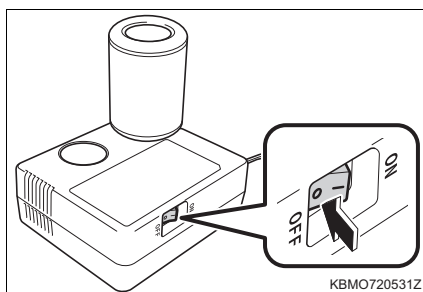


9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

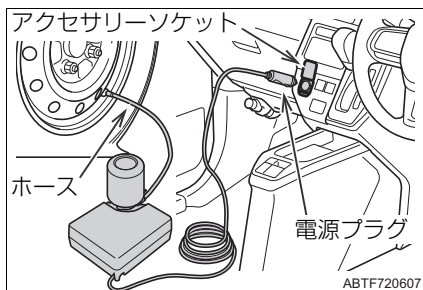
▶タイプ A



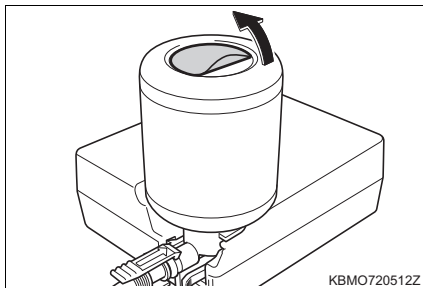
▶タイプ B



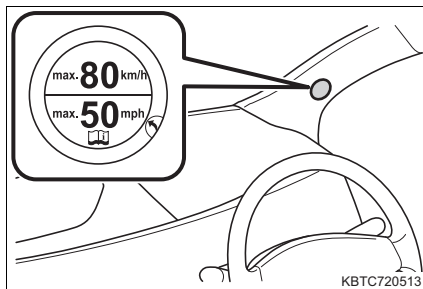
- 10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリースOCKETに差し込む
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリースOCKETに差し込んでください。



- 11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 13 タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14 エンジンを開始する

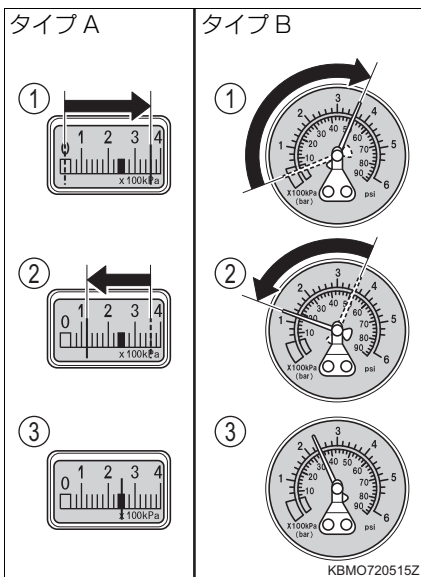
- 15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

- 16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ~ 400kPa まで上がります。
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- ・パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- ・25 分以内に指定空気圧まで上がらない



- 17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする
- 18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す
ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。
- 19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- 20 ホースの口金にホース栓を取り付ける
- 21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する
コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。
- 22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する
急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。
- 23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする
- 24 タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する
- ・コンプレッサーを車両に接続する
 - ・エンジンを始動する
 - ・コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する
- 25 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する
- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合
手順 6 ~ 23 を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。
 - ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合
タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。
- 26 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する
- ・急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
 - ・100km 以上の距離を走行しないでください。



■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

タイヤバンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤバンク応急修理セットの点検について

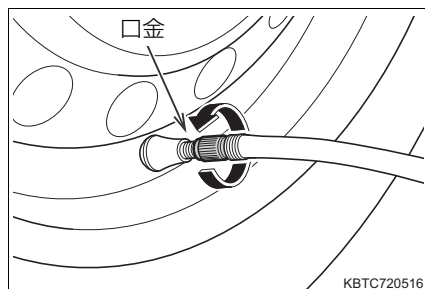
- バンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はバンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたバンク修理剤は使用しないでください。タイヤバンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤバンク応急修理セットについて

- タイヤバンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤバンク応急修理セットのバンク修理剤ボトルとホースは、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。
使用したバンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温が -30°C ～ 60°C のときに使用できます。
- タイヤバンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- バンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- バンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいバンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■ 空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



⚠ 警告

■ タイヤバンク応急修理セットについて

- タイヤバンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤバンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤバンク応急修理セットはお客車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。バンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ バンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウインドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 80）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 80）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 39）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 265）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 264）

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 265）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

電子カードキーが正常に働かないときは

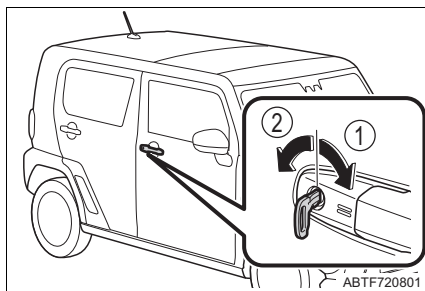
電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり（→ P. 63）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー（→ P. 60）を使って次の操作ができます。

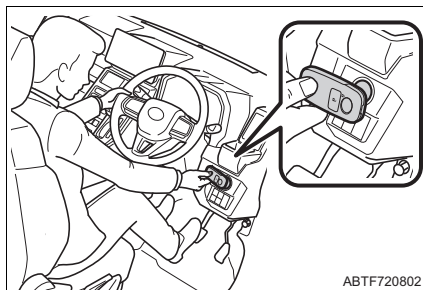
- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠

セキュリティアラームがセットされている場合は、セキュリティアラームが作動します。（→ P. 40）



エンジン始動の方法

- 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む
- 2 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる
 - ・ エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
 - ・ セキュリティアラームの作動が停止します。(→ P. 40)



- 3 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 216)

■ エンジンスイッチモードの切り替え

エンジン始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 81)

■ 電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください (→ P. 63)

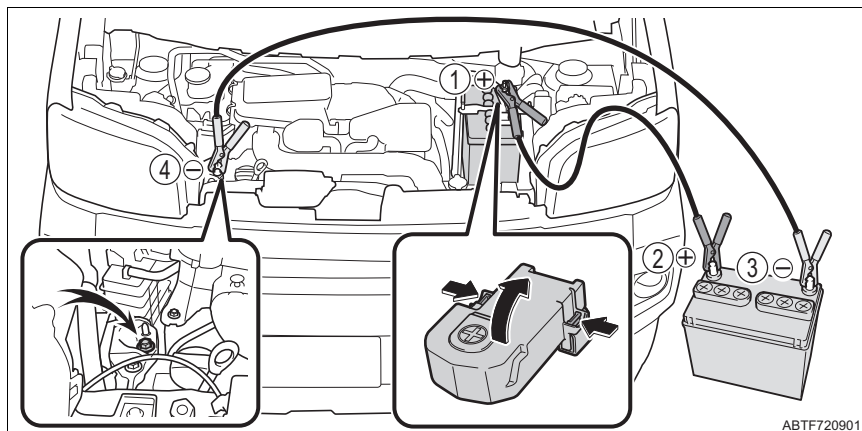
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

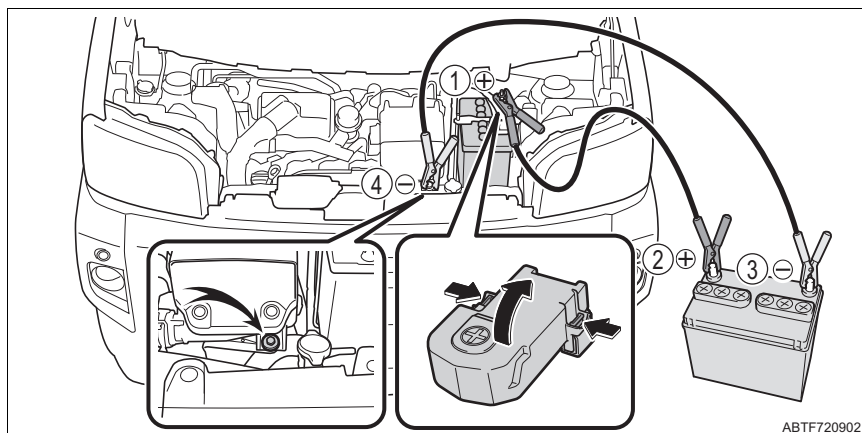
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 バッテリーの + 端子のカバーを開ける
ツメを押しながら開けます。
- 2 ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ

▶KF-VE エンジン搭載車



▶KF-VET エンジン搭載車



- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めに設定して、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す
- 6 +端子のカバーを閉める

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場での点検を受けてください。

□ 知識

■ バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場での点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)



■ バッテリーあがりのときや取り外し時など

- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
 - 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF” にしてから行ってください。
- バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■ お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

⚠ 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 229）が赤色に点滅または点灯した
- TFT カラーマルチインフォメーションディスプレイ装着車：「エンジン冷却水高温」の警告メッセージ（→ P. 236）が表示された
- エンジンの出力が低下した（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

① 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

② 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

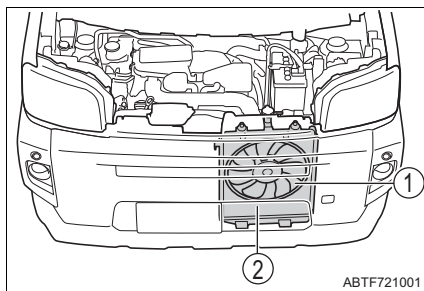
注意してボンネットを開ける

③ エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン

② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



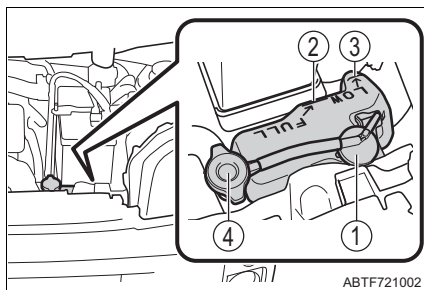
④ 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバタンク

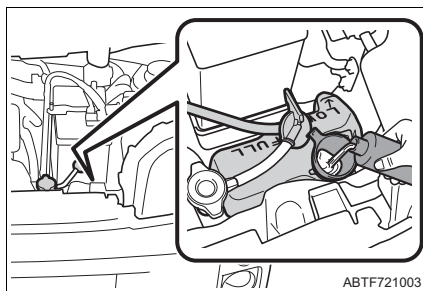
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）

④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する
冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する
エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。
(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)
- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

⚠ 警告

■ 処置を行う前に

水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- ① パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
 - ② タイヤ前後の土や雪を取り除く
 - ③ タイヤの下に木や石などをあてがう
 - ④ エンジンを再始動する
 - ⑤ シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む
- VSC・TRC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC・TRC を停止してください。(→ P. 196)

警告

■ 脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) 272

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧 275

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	30

エンジンオイル

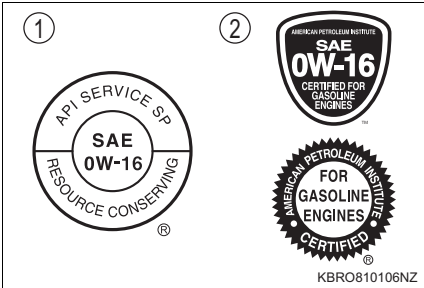
指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値 ※）	
		オイルのみ交換	オイルとオイル フィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-16 適合：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VE	3.05	3.25
推奨：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VET		

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

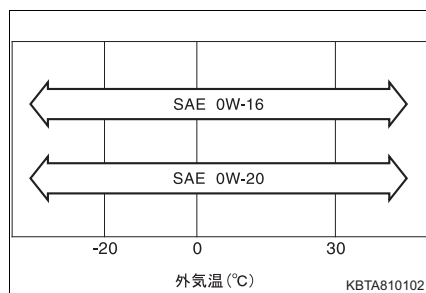
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント（高防錆力タイプ） 凍結保証温度 濃度 50% - 35℃	KF-VE	3.4
	KF-VET	

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※)
アミックス CVT フルード-DFE	KF-VE	5.83
	KF-VET	5.75

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

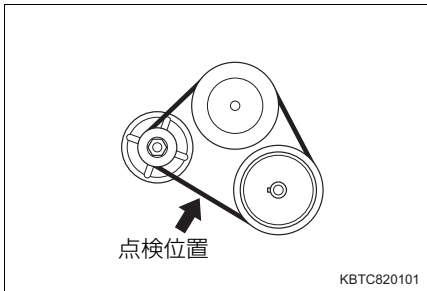
トランスファー（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L] (参考値)
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.3

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L] (参考値)
アミックス ATF D3-SP	0.76

Vリブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  点検位置 押力 98N (10kgf) (冷間時)	KF-VE	7.9 ~ 9.7
		自動調整式 ※
	KF-VET	7.9 ~ 9.7
		自動調整式 ※

※ 全車速追従機能付 ACC 装着車

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード (DOT3 相当)

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ~ 3
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	77.7 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

バッテリー

形式
M-42

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
1.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
165/65R15 81S	15×4 1/2J	240 (2.4)	240 (2.4)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA900S	KF-VE（ガソリン）	FF（前輪駆動）
	KF-VET（ガソリン）	
LA910S	KF-VE（ガソリン）	4WD（4 輪駆動）
	KF-VET（ガソリン）	

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ キーフリーシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 60）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
作動の合図（音量）	レベル 5	OFF
		レベル 1 ～ 7

■ キーフリーシステム（→ P. 60）

機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステムの作動	あり	なし
電子カードキーの室外自動検知機能の作動	あり	なし

■ ドアロック (→ P. 67)

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応オートドアロック	あり	なし
シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり
シフトレバーをPにしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし
エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたときの全ドア解錠 (エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック)	なし	あり
電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠 (ウェルカムドアロック解除★)	なし	あり
ウェルカムドアロック解除★が作動してから15秒後に自動再ロック	あり	なし

■ バックドア (→ P. 69)

機能の内容	初期設定	変更後
バックドアの右側スイッチ操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠

■ 衝突警報機能 (→ P. 117)

機能の内容	初期設定	変更後
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い
		遅い

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能 (→ P. 131)

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い

■ ふらつき警報 (→ P. 135)

機能の内容	初期設定	変更後
ふらつき警報の作動	あり	なし

■ 車線逸脱抑制制御機能 (→ P. 131)

機能の内容	初期設定	変更後
車線逸脱抑制制御機能の作動	あり	なし

■ LKC ★ (→ P. 154)

機能の内容	初期設定	変更後
LKC の作動	あり	なし

■ 先行車発進お知らせ機能 (→ P. 137)

機能の内容	初期設定	変更後
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング	標準	やや早い
		早い

■ 標識認識機能 (進入禁止／最高速度／一時停止) ★ (→ P. 139)

機能の内容	初期設定	変更後
標識認識機能 (進入禁止／最高速度／一時停止) の作動	あり	なし
標識認識機能 (進入禁止) 作動のブザー	なし	あり

■ 全車速追従機能付 ACC ★ (→ P. 142)

機能の内容	初期設定	変更後
全車速追従機能付 ACC の先行車認識ブザー	あり	なし

■ オートエアコン (→ P. 200)

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない
オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイドリングストップの設定	標準	空調 ※

※ エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。(→ P. 159)

■ コーナーセンサー (→ P. 165)

機能の内容	初期設定	変更後
コーナーセンサーのブザー (音量)	レベル 2	レベル 1
		レベル 3

■ ランプ (→ P. 56, 90)

機能の内容	初期設定	変更後
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動
電子カードキーで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯 (ウェルカムランプ設定 (テールランプ連動))	しない	する

■ ヘッドランプ点灯延長機能 (→ P. 92)

機能の内容	初期設定	変更後
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒
		90 秒
		120 秒

■ AHB ★ / ADB ★ (→ P. 93, 95)

機能の内容	初期設定	変更後
AHB の作動	あり	なし
ADB の作動	あり	なし ※

※ ADB の作動を「なし」に設定しても、サイドビューランプ (→ P. 97) は作動します。

■ メーター

機能の内容	初期設定	変更後
メーター照明が夜照度になる感度	0	- 2 ~ 2

■ イルミネーション

機能の内容	初期設定	変更後
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
室内灯が自動で消灯する	する	しない
エンジンスイッチ "OFF" 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし
電子カードキーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯 (ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動))	する	しない

■ ドアミラー (→ P. 73)

機能の内容	初期設定	変更後
ドアミラースイッチの操作によるドアミラーの格納・復帰	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で格納・復帰できる	エンジンスイッチが“ON”で格納・復帰できる
オート作動によるドアミラーの復帰	キーフリーシステムによるドアの解錠と連動して復帰する	エンジンスイッチの操作と連動して復帰する
エンジンスイッチの操作によるドアミラーの復帰※	エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にすると復帰する	エンジンスイッチを“ON”にすると復帰する

※ オート作動によるドアミラーの復帰の設定をエンジンスイッチの操作と連動に変更した場合

■ フロントワイパー (→ P. 99)

機能の内容	初期設定	変更後
車速感応間欠作動機能	する	しない

■ リヤワイパー&ウォッシャー (→ P. 100)

機能の内容	初期設定	変更後
リバース連動機能	する	しない
間欠作動時間の調整	標準	早い 遅い
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない
リヤウォッシャー連動機能	しない	する

■ 方向指示レバー (→ P. 83)

機能の内容	初期設定	変更後
レバーを途中まで動かしたときの 3 回点滅する機能	する	しない
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の 3 回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル 2	レベル 1 ~ 4
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 9

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

お問い合わせには、あらかじめ次の事項について確認の上、ご連絡願います。

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
お近くのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00~17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



取扱説明書(抜粋版)は従来に比べ、大幅にページ数を削減しているため、
印刷や輸送に伴うCO2排出量の低減が見込まれます。
ダイハツは持続可能でより良い社会の実現にこれからも貢献していきます。

弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて
掲載しております。(https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。



SPA-230004-J